注)この科目一覧にある科目は、開講する予定のものであり、変更になる場合があります。

共通	科目(如	<b>必須</b> )					825
ページ	レベル	科目名	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
C-1	共通	森林から木材、暮らしへ I	柳沢直	担当教員	講義·実習	前期	75
C-2		森林から木材、暮らしへ II	柳沢直	担当教員	実習	前期	30
C-3		森林文化	川尻秀樹	科長	講義	2年間通年	30
C-4		日本の森林・岐阜県の森林	横井秀一		講義	前期	15
C-5		森林の姿	横井秀一		実習	通年	30
C-6		樹木同定実習	柳沢直	津田格 / 玉木一郎	実習	前期	30
C-7		林業・林産業体験実習	原島幹典	杉本和也 / 吉野安里 / 伊佐治彰祥 / 横井秀一 / 池戸秀隆	実習	通年	30
C-8		木材利用•流通	吉野安里		実習	前期	30
C-9		刃物の研ぎ	久津輪雅	川尻秀樹	実習	前期	15
C-10		地域活性化概論	原島幹典		講義	通年	30
C-11		救急法講習1	萩原裕作		実習	前期	15
C-12		救急法講習2	萩原裕作		実習	前期	15
C-13		コロキウム	柳沢直	担当教員	講義	2年間通年	30
C-14		課題研究	担当教員		実習	2年間通年	450

林業	系科目	(選択)					1380
ページ	レベル	科目名	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
C-15	基礎 I	林業の概観	横井秀一		講義	前期	30
C-16		森林立地	柳沢直		講義·実習	後期	30
C-17		造林の基礎	横井秀一		講義	前期	30
C-18		森林調査法1	津田格	横井秀一 / 柳沢直 / 玉木一郎	実習	前期	30
C-19		森林調査法2	津田格	横井秀一	実習	後期	15
C-20		森林獣害	伊佐治彰祥	原島幹典	講義·実習	後期	30
C-21		森林公共政策	伊佐治彰祥	非常勤講師	講義	後期	15
C-22		木質バイオマス資源の利用	杉本和也		講義·実習	前期	45
C-23		安全管理の推進	杉本和也		講義	前期	30
C-24		刈払機入門(安全衛生教育)	原島幹典	杉本和也 / 伊佐治彰祥 / 池戸秀隆 / 横井秀一	講義·実習	前期	15
C-25		チェーンソー入門(特別教育)	原島幹典	杉本和也 / 伊佐治彰祥 / 池戸秀隆 / 横井秀一	講義·実習	前期	30
C-26	基礎Ⅱ	森林経営	杉本和也		講義	前期	30
C-27		森林政策•森林計画	池戸秀隆		講義·実習	後期	30
C-28		森林情報	川尻秀樹	非常勤講師	講義·実習	後期	30
C-29		森林施業と森林生態	横井秀一		講義	後期	15
C-30		森林病虫害	津田格		講義·実習	後期	30
C-31		野生動物捕獲実習	伊佐治彰祥	原島幹典	実習	後期	30
C-32		木材生産システムの基礎	杉本和也		講義·実習	後期	30
C-33		生産管理の技術 [偶数年度]	杉本和也		講義·実習	前期	30
C-34		大型特殊	池戸秀隆		実習	通年	15
C-35		小型移動式クレーン運転技能講習	池戸秀隆		講義·実習	後期	30
C-36		玉掛技能講習	池戸秀隆		講義·実習	後期	30
C-37		車両系建設機械運転技能講習	池戸秀隆		講義·実習	前期	15
C-38		不整地運搬車運転技能講習	池戸秀隆		講義·実習	前期	15
C-39		フォークリフト運転技能講習	池戸秀隆		講義·実習	前期	15
C-40		車両系木材伐出機械の特別教育	池戸秀隆	杉本和也 / 伊佐治彰祥	講義·実習	前期	60
C-41		高性能林業機械操作基礎	杉本和也	池戸秀隆 / 伊佐治彰祥	講義·実習	前期	60
C-42	発展 I	森林評価・収穫調査	池戸秀隆		講義·実習	前期	30
C-43		多様な森林施業	横井秀一		講義	後期	30
C-44		森林施業演習	横井秀一		実習	前期	60
C-45		林業事例調査1	横井秀一	池戸秀隆 / 杉本和也 / 伊佐治彰祥	実習	通年	30
C-46		林業事例調査2	横井秀一	池戸秀隆 / 杉本和也 / 伊佐治彰祥	実習	通年	30
C-47		林業路網	池戸秀隆	杉本和也	講義·実習	後期	30
C-48		林業架線作業主任者講習	池戸秀隆	杉本和也 / 伊佐治彰祥	講義·実習	通年	120
C-49	発展Ⅱ	森林経営の構築	杉本和也		講義	後期	30
C-50		森林経営計画実習	横井秀一		実習	後期	60
C-51		施業プランナー演習	横井秀一		講義·実習	通年	75
C-52		市場経済と林業経営 [奇数年度]	杉本和也		講義	後期	30
C-53		木材の販売戦略	伊佐治彰祥	非常勤講師	実習	前期	30
C-54		木材生産システムの応用	杉本和也		実習	前期	30
C-55		架線集材指導実習	杉本和也	池戸秀隆 / 伊佐治彰祥	実習	後期	30

森林	森林環境教育•木育系科目(選択) 900							
ページ	レベル	科目名	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数	
C-56	基礎 I	パーマカルチャー実習 ①	萩原裕作	非常勤講師	実習	前期	15	
C-57		環境教育プログラム体験実習	萩原裕作		実習	前期	15	
C-58		ESD·森林環境教育·木育·IP概論	松井勅尚	嵯峨創平 / 萩原裕作 / 原島幹典	講義	前期	15	
C-59		里山の整備と遊歩道づくり体験	萩原裕作	原島幹典	実習	後期	15	
C-60		環境教育指導者のための伐木&搬出体験(人力)	萩原裕作	原島幹典	実習	後期	15	
C-61		環境教育指導者のための伐木&搬出体験(機械)	萩原裕作	杉本和也 / 池戸秀隆	実習	前期	15	
C-62		環境教育指導者のための手工具	松井勅尚	萩原裕作	講義•実習	前期	15	
C-63		グリーンウッドワーク I	久津輪雅	萩原裕作	実習	前期	15	
C-64		森で過ごす	萩原裕作		実習	後期	15	
C-65		森林環境教育現場訪問1	萩原裕作		実習	後期	30	
C-66		森林環境教育現場訪問2	萩原裕作		実習	後期	30	
C-67	基礎Ⅱ	簡易製材(チェンソー製材)体験	萩原裕作	伊佐治彰祥	実習	前期	15	
C-68		パーマカルチャー実習 ②	萩原裕作	非常勤講師	実習	後期	30	
C-69		森のようちえん実習②	萩原裕作		実習	通年	15	
C-70		環境教育プログラム指導 基礎実習	萩原裕作		実習	通年	15	
C-71		自然体験活動実習(キャンプカウンセラー体験)	萩原裕作		実習	通年	30	
C-72		森林空間利用プログラムと事業化	嵯峨創平		実習	通年	30	
C-73		地域の暮らしを考える	原島幹典	非常勤講師	実習	通年	30	
C-74		グリーンウッドワークⅡ	久津輪雅	萩原裕作	実習	後期	30	
C-75		木工木育教材開発	松井勅尚		実習	後期	15	
C-76		木工木育講座の基礎 I	松井勅尚		講義・実習	後期	15	
C-77		木工木育講座の基礎Ⅱ	松井勅尚		講義·実習	後期	15	
C-78	発展I	自然体験の企画と指導(実習)	萩原裕作		実習	通年	15	
C-79		森のようちえん指導実習	萩原裕作		実習	通年	15	
C-80		里山プロジェクト実習1(薪・粗朶)	柳沢直	津田格 / 玉木一郎	実習	後期	30	
C-81		里山プロジェクト実習2(里山林の管理と植生)	柳沢直	津田格 / 玉木一郎	実習	前期	15	
C-82		木工木育講座の実践	松井勅尚		実習	通年	60	
C-83		グリーンウッドワークⅢ	久津輪雅	萩原裕作	実習	後期	30	
C-84		森林環境教育プロジェクト1	萩原裕作		実習	通年	60	
C-85		森林環境教育プロジェクト2	萩原裕作		実習	通年	60	
C-86	発展Ⅱ	木工木育講座の普及研修指導	松井勅尚		実習	通年	60	
C-87		森林環境教育プロジェクト3	萩原裕作		実習	通年	60	
C-88		森林環境教育プロジェクト4	萩原裕作		実習	通年	60	

木造	木造建築系科目(選択)							
ページ	レベル	科目名	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数	
C-89	基礎 I	CADの基礎	辻充孝		講義∙実習	前期	15	
C-90		空間認識	辻充孝		講義・実習	前期	15	
C-91		木造建築計画の基礎 I	廣田桂子	非常勤講師	講義・実習	前期	15	
C-92		木の空間における人間工学 I	廣田桂子	非常勤講師	講義·実習	後期	15	
C-93		木造建築環境	廣田桂子	非常勤講師	講義	後期	30	
C-94		木質材料	吉野安里		講義·実習	前期	60	
C-95		木質建材をつくる	吉野安里		実習	前期	30	
C-96		建築構法	小原勝彦		講義·実習	前期	15	
C-97		基礎をつくる(自力建設)	小原勝彦	非常勤講師	実習	前期	60	
C-98		墨付けと刻み加工(自力建設)	吉野安里	非常勤講師	実習	通年	60	
C-99		架構をつくる(自力建設)	辻充孝	非常勤講師	実習	前期	60	
C-100	基礎Ⅱ	木造建築CAD	辻充孝		講義・実習	前期	15	
C-101		計画演習	辻充孝		実習	前期	15	
C-102		木造建築計画の基礎Ⅱ	廣田桂子	非常勤講師	講義・実習	前期	30	
C-103		木の空間における人間工学Ⅱ	廣田桂子	非常勤講師	講義・実習	後期	15	
C-104		木造建築法規	辻充孝	小原勝彦	講義	後期	15	
C-105		地盤調査法	小原勝彦	非常勤講師	講義・実習	前期	15	
C-106		木質構造力学・静定	小原勝彦		講義・実習	前期	30	
C-107		木質構造力学・不静定	小原勝彦		講義・実習	後期	30	
C-108	発展 I	木造建築の構造設計製図・木拾い術	小原勝彦	辻充孝	講義・実習	前期	30	
C-109		木造建築計画の応用	廣田桂子	非常勤講師	講義・実習	前期	30	
C-110		構造解析	小原勝彦	非常勤講師	実習	通年	30	
C-111		木造建築病理学	小原勝彦	非常勤講師	講義	2年間通年	60	
C-112		木造建築の防火	小原勝彦	非常勤講師	講義・実習	2年間通年	30	
C-113		木質構造設計の基本	小原勝彦	非常勤講師	講義・実習	前期	30	
C-114		木造建築の環境性能設計I	辻充孝		講義・実習	後期	15	
C-115		木材と設備設計	廣田桂子	非常勤講師	講義・実習	後期	30	
C-116		生活環境設計	廣田桂子	非常勤講師	講義・実習	前期	30	
C-117		建築設備	辻充孝		講義・実習	後期	30	
C-118		設計監理法	辻充孝		講義	前期	30	
C-119	発展Ⅱ	木質構造設計の応用	小原勝彦	非常勤講師	講義・実習	後期	30	
C-120		木造建築の環境性能設計Ⅱ	辻充孝		講義・実習	後期	15	
C-121		木造建築の設計製図	辻充孝		実習	前期	30	
C-122		木造建築病理学実習	小原勝彦		実習	2年間通年	30	
C-123		木造建築のグリーンデザイン	廣田桂子	非常勤講師	講義・実習	通年	30	

木工	系科目	(選択)					720
ページ	レベル	科目名	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
C-124	基礎 I	手工具 I	久津輪雅		実習	前期	30
C-125		手工具Ⅱ	松井勅尚		講義·実習	前期	30
C-126		手工具皿	松井勅尚		講義·実習	前期	15
C-127		木工機械使用法 I (木取り)	和田賢治		実習	前期	30
C-128		つくるための電動工具	和田賢治		実習	前期	15
C-129		木工旋盤の基礎 I	和田賢治		実習	後期	15
C-130		家具をつくる(自力建設)	和田賢治		実習	後期	30
C-131		木材の適材適所	松井勅尚		講義·実習	後期	15
C-132		デジタルファブリケーションの導入	和田賢治		実習	後期	15
C-133		木材塗装(自然塗料)	久津輪雅		実習	前期	15
C-134		展示会視察	松井勅尚	久津輪雅 / 和田賢治	実習	通年	15
C-135	基礎Ⅱ	木工機械使用法Ⅱ(成形・加工)	和田賢治		実習	前期	30
C-136		電動工具(成形·加工)	和田賢治		実習	前期	15
C-137		木工旋盤の基礎Ⅱ	和田賢治		実習	後期	15
C-138		テーブル制作	和田賢治		講義·実習	後期	30
C-139		木工製図(CAD)	辻充孝		実習	前期	15
C-140		木材塗装(合成樹脂塗料)	久津輪雅	非常勤講師	実習	後期	15
C-141		木工製図(椅子原寸)	久津輪雅		実習	前期	15
C-142		展示会の企画と運営	松井勅尚	久津輪雅 / 和田賢治	実習	通年	15
C-143		伝統工芸	久津輪雅	非常勤講師	実習	前期	15
C-144		木工事例調査	松井勅尚	久津輪雅 / 和田賢治	実習	2年間通年	30
C-145		木材乾燥事例調査	松井勅尚	和田賢治	講義·実習	後期	15
C-146	発展 I	商品化	松井勅尚	久津輪雅 / 和田賢治	講義·実習	後期	60
C-147		地域材クラフト開発	松井勅尚	和田賢治	実習	前期	45
C-148		椅子の制作	久津輪雅		実習	前期	60
C-149		収納家具	和田賢治		実習	前期	30
C-150		木材塗装の応用	久津輪雅	非常勤講師	実習	前期	30
C-151	発展Ⅱ	地域材家具開発	久津輪雅		実習	後期	15
C-152		地域材家具制作	久津輪雅		実習	後期	45

注)この科目一覧にある科目は、開講する予定のものであり、変更になる場合があります。

自然	科学系科	4目(選択)					270
ページ	レベル	科目名	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
C-153	基礎 I	生態学の基礎	玉木一郎		講義	前期	15
C-154		生態系サービス	柳沢直		講義·実習	前期	15
C-155		樹木学実習(着葉期)	横井秀一		実習	前期	15
C-156		樹木学実習(落葉期)	横井秀一		実習	後期	15
C-157		哺乳類・鳥類の生態基礎	柳沢直	非常勤講師	講義・実習	後期	30
C-158		昆虫・魚類同定実習	津田格	玉木一郎	実習	前期	15
C-159		樹木の形態と生理	玉木一郎		講義	前期	30
C-160		森林と海をつなぐ	柳沢直		講義·実習	後期	15
C-161		特用林産物実習(春夏編)	津田格		実習	前期	15
C-162		特用林産物実習(秋冬編)	津田格		実習	後期	15
C-163		有用植物実習(山菜・薬草)	津田格	柳沢直 / 玉木一郎	実習	前期	15
C-164		里山の自然とその保全	玉木一郎	柳沢直 / 津田格	実習	通年	45
C-165	基礎Ⅱ	樹木学指導実習(着葉期)	横井秀一		実習	前期	15
C-166		樹木学指導実習(落葉期)	横井秀一		実習	後期	15

注)この科目一覧にある科目は、開講する予定のものであり、変更になる場合があります。

情報	・ビジネス	マ・:コミュニケーション系科目 (選択)					540
ページ	レベル	科目名	主担当	担当者	授業方法	開講時期	時間数
C-167	基礎 I	文章表現•作文技術	玉木一郎		講義·実習	後期	15
C-168		情報発信演習	辻充孝		講義·実習	後期	30
C-169		会計の基礎	杉本和也		講義	後期	15
C-170		インタープリテーション実習①	萩原裕作		実習	前期	15
C-171		コミュニケーションワーク	萩原裕作	非常勤講師	実習	後期	15
C-172		ファシリテーション実習	嵯峨創平		実習	前期	30
C-173		山里を知る(聞き書き入門)	原島幹典		講義·実習	前期	30
C-174		プロジェクト1	担当教員		講義·実習	2年間通年	15
C-175		プロジェクト2	担当教員		講義·実習	2年間通年	30
C-176		プロジェクト3	担当教員		講義·実習	2年間通年	45
C-177		プロジェクト4	担当教員		講義·実習	2年間通年	60
C-178	基礎Ⅱ	インタープリテーション実習②	萩原裕作		実習	後期	15
C-179		コミュニティビジネス起業論(基礎編)	杉本和也	嵯峨創平	講義	後期	30
C-180		山里を伝える(聞き書き実践)	原島幹典		講義·実習	後期	15
C-181		国内研修	担当教員		実習	前期	30
C-182	発展 I	コミュニティビジネス起業論(実践編)	和田賢治	嵯峨創平 / 杉本和也	講義	 通年	30
C-183		コミュニティデザイン総合演習	嵯峨創平		実習	通年	60
C-184		インターンシップ Ι	担当教員		実習	通年	30
C-185	発展Ⅱ	インターンシップ Ⅱ	担当教員		実習	通年	30

<b></b>	斗 目		担当者(〇主担当)							
森林から	木材、暮らしへ I	〇 村	卯沢直 担当教員							
授業方法	講義·実習開講	時期	前期		時間数	75	レベル	共通		
カテゴリ	■ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業 木工				<b>ジネス・</b> コ	ミュニケー	-ション		
目的	それぞれの専門の学 までの流れを概観し ことで、自らの学び	、アカ	デミーで展開す	る授						
概 要	それぞれの専門の学 までの流れを概観し ことで、自らの学び	、アカ	デミーで展開す	る授						
項目	4月11年 (本・) (1) (2) (3) (4) (1) (4) (1) (2) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	すめ き・・・質 し け け くっ 「のい の林 林バ め ン りン 温自現方 の業 業イ 」 プ (ウ 熱力 ②状~ 、」 文才 ル アッ 環建 「	と里 山 ③ 化マ ③ 制 ベド 境設 暮 問山	を策 森林 ジ樹 」 たれ が	<ul><li>利用」</li><li>資機</li><li>プ</li><li>トン</li><li>」</li><li>」</li><li>ル</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**<li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**<li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li><li>**</li></li></li></ul>	ミ」 : 作業シス ・ボでの写				
テキスト 参考書										
事前履修科目										
評価方法	出席									
関連する資格										
注意事項										

	科 目		担当者(〇主担当)						
森林か	ゝら木材、暮らしへ	.п С	)柳沢直 担当教	員					
授業方法	実習	開講時期	前	<b></b>	時間数	30	レベル	共通	
カテゴリ	■ 共通(必 □ 木造建領	· 須) ロ 林業 築 ロ ホエ		環境教育•オ ·科学 □	• -	ネス・コ	ミュニケー	-ション	
目的	の樹木がさ	始にあたり、 まざまなプロ と人や地域の	セスを経て	人の暮らし					
概 要	いくつかを 総合的に理	・里山、森林 川上から川下 解する。また 持長や役割を	の流れを意 、分野を超	識しながら えて全学生	訪問し、そ が同じ対象	れぞれ なや課題	のつなが	りを	
項目	見学先は以	古川林業 東濃ひのき カネモク・ ひだず		同組合 レッジ・森 原モデルハ 岐阜市)	林たくみ <u>氢</u> ウス(各系	垫(高山 務原市)			
テキスト 参考書									
事前履修科	- 5								
評価方法		<b>−</b> ト							
関連する資	格								
注意事項	i								

<b></b>		担当者(〇主担当)
<b>1</b>	条林文化	O 川尻秀樹   科長
		17 IX
授業方法	講義開講	時期   2年間通年   時間数   30   レベル   共通
カテゴリ	■ 共通(必須) □	
	□ 木造建築  □	木工 口 自然・科学 口 情報・ビジネス・コミュニケーション
目的		は自の森林文化があった。そして現在は、先人たちが積み重 こ、新たな森林文化を築こうとしている。そこで、林業や教
п ну		:、幅広い視点で森林文化に気づくことを目的とする。
		ンアカデミーでは自然を代表する「森」と、そこで生み出さ
概要		<ul><li>「の活用を通して、自然の循環と一体となった持続可能な 人材育成に取り組んでいる。そこで古来の森林文化を継承</li></ul>
		リロで将来に繋がる新しい森林文化を探る。
		うに自然とつきあってきたのか。 「森」を中心に日本新の
	思想に「ふれ、縄ス 人の思想の一部を扱	て時代や弥生時代、自然神道、仏教伝来とともに歩んだ日本 最り返る。
	++ □+□₩	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	く一部について振り	)国ではどのような思想があったのか、「森」を中心に、ご )返り、日本と比較する。ヨーロッパの森林文化、ドルイド
	教との関係、神話に	こおける森との関係から、森林文化について見直す。
		くピーカーをお招きして、以下の項目をお聞きする。
		がら見た森林文化について いら見た森林文化について
	③自然体験、教育活	f動から見た森林文化について
		りから見た森林文化について B空間から見た森林文化について
項目		
7, I		
テキスト	配付資料	
参考書 事前履修科目	 なし	
評価方法	<u></u>	
関連する資格	なし	
	なし	
注意事項		

1	斗 目			担当者(O主	旦当)		
日本の森	林・岐阜県の森林	01	<b>黄井秀一</b>				
授業方法	講義開講	時期	前期	時間数	15	レベル	共通
カテゴリ	■ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業 木工			゙゙゙゙ジネス・コ	コミュニケー	ーション
目的	日本や岐阜県の森	森林植生	E、森林資源にて	ついて理解する	<b>5</b> .		
概 要	日本や岐阜県の森 て、森林を理解する ぶ。						
項目	<ol> <li>日本の森林植生 気候帯と植生帯、</li> <li>日本の森林資源 人工林と 人工林と 動態 植生遷移、更新、</li> </ol>	温量指•岐阜龄級分	旨数、水平分布、 県の森林資源 }布	垂直分布			
テキスト 参考書	参考書:「図説 日書」	本の植	生」「森林・林 	業統計要覧」 	「岐阜県	森林・林	業統計
事前履修科目	森林から木材、暮ら	5しへ1					
評価方法	試験						
関連する資格							
注意事項							

7	科 目	担当者(〇主担当)
Ā	森林の姿	〇 横井秀一
授業方法	実習開調	講時期         通年         時間数         30         レベル         共通
カテゴリ	■ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	] 林業 □ 森林環境教育・木育 ] 木工 □ 自然・科学 □ 情報・ビジネス・コミュニケーション
目的		プやそれぞれのタイプで様々な発達段階の林分を観察し、そ 施業と結びつけることによって、目標林型やそれと施業の関 る。
概 要	の自然植生の姿、・	的なタイプの森林を見学する。天然林の見学では、地域本来 その成立過程や維持機構を観察する。人工林をはじめとする は、施業の目的と目標林型を意識し、そこで行われている施 て学ぶ。
項目	2. ヒノキ高齢人エ 3. ヒノキ天然林と	をとスギ人工林長伐期施業 林とヒノキ人工林長伐期施業 ヒノキ天然林超長伐期施業 議業・広葉樹天然林施業
テキスト 参考書		
事前履修科目		
評価方法	出席および現地見:	学の都度に提出するレポート
関連する資格		
注意事項	見学時のドレスコ- 	ード:5見学(山林)

5	科 目					担当者	1(〇主担	3当)		
樹	木同定実習		〇札	卯沢直 津田	日格	/	玉木一	郎		
授業方法	実習	開講	時期		前期		時間数	30	レベル	共通
カテゴリ	■ 共通(必 □ 木造建翁		林業 木工	□ 森村				゚ジネス・コ	コミュニケー	ーション
目的	樹木は森林生 木、木材なる 重要である。	ご様々な	形で利	用されて	ている。	。利用	に際して	ば樹種の	り正確な同	
概要	実習では森林 中心に概ね4 での樹木観察 能力を養う。	0種の植 客・サン	オを同 ノプルの	定できる  採集と	る能力	を身に 作成を	つけるこ 通じて目	とを目標 的の樹科	票とする。 重が判別で	野外きる
項目	<ol> <li>植物の原</li> <li>野外には</li> <li>試験</li> </ol>				<b>基礎</b>					
テキスト 参考書	検索入門 植 種類(山と)		合版】	(保育社	生)	樹木の	葉 実物	スキャン	で見分けん	る1100
事前履修科目	=-+ F-A									
評価方法 即演者 2 姿 按	試験									
関連する資格										
注意事項										

7	科 目		担当者(〇主担当)						
林業・本	木産業体験実習	ı	0	京島幹典 杉本和也 横井秀一		吉野安里 池戸秀隆	/	伊佐治章	<b></b> /祥
授業方法	実習	開講	時期	通年		時間数	30	レベル	共通
カテゴリ	■ 共通(必 □ 木造建等		林業 木工	□ 森林環境 □ 自然·科学		-	ネス・コ	ミュニケー	-ション
目的	ねばならなし	ハ主要な	作業を	生が、森林や 体験し、林業 ことを理解す	活動や	流域木材の	利用か		
概要				伐採・搬出作 ∙の流れと、各					実習
項目	1. 地	つる切 :材	IJ						
テキスト 参考書									
事前履修科目	山曲								
評価方法 関連する資格	出席								
注意事項	実習一般(:	⊐— FNo	p.1)						

	科 目		:	担当者(〇主担:	当)		
7	k材利用∙流通	0	吉野安里				
	実習	開講時期	前期	時間数	30	レベル	共通
カテゴリ	■ 共通(必	須) □ 林業	□ 森林環境教 □ 自然·科学	育・木育 □ 情報・ビシ	ジネス·=	ミュニケー	ーション
目的	原木・製品の	の流通の現状	を知る。				
概要	原木・製品の	の流通の現状	を知る。				
項目		<b>木製品の商品</b>					
テキスト 参考書	逐次資料配布	र्ति					
事前履修科							
評価方法		- <b>ト</b>					
関連する資	格なし						
注意事項	見学時には、	相応しい身	支度、運動靴、へ	ルメット持参			

	科 目		担当:	者(〇主担当	i)		
3	刃物の研ぎ	0	久津輪雅 川尻秀樹				
授業方法	実習	開講時期	前期	時間数	15	レベル	共通
カテゴリ	■ 共通(必須 □ 木造建築	) 口 林業 口 木工	□ 森林環境教育・2 □ 自然・科学 □		ネス・コ	ミュニケー	-ション
目的			は種類と特性や、さま 勿を研ぐ技術を身に付			· - · · ·	学
概 要	欠かせない道具	具であり、5 この授業 <sup>7</sup>	とっても、木材の仕事 安全で効果的に使うた では、小刀やナタなど	めには研ぐ	`技術を	身につけ	なけ
項目	2 講義 刃物の和 テンレスなど) 3~4	重類(片刃。	の研磨作用、砥石面のと両刃)、刃物の構造またはナタ)の裏押しぎ	近、金属の特	·性(彰	(鉄と鋼鉄	:、ス
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席						
関連する資格							
注意事項	砥石は学校の つ	ものも使用~	, ナタ、小刀は自分の できるが、キング中码 #300裏#1000の購入を	ξ#1000、キ:			6000、

<b></b>	 科 目	担当者(〇主担当)
地域	活性化概論	〇 石川道政(客員教授) 原島幹典 / 非常勤講師
		が、正はすり、クーバリエのは行中で
授業方法		時期   通年   時間数   30   レベル   共通
カテゴリ	■ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業 口 森林環境教育・木育 木工 口 自然・科学 口 情報・ビジネス・コミュニケーション
目的	の再生・創生は必須	を作り上げよう」とする学生にとって、夫々が活躍する地域 質の課題である。その解決の手法、決断を迫られた時の一助 に富んだ実例をもとに学びます。
概要	の「先人たちが果た	デミーが立地する美濃市を中心に、里山や清流に暮らす人々とした偉業や守ってきた技術、祭り、暮らしぶり、生活の知を学ぶとともに、市内外で地域づくりに活躍している人々かます。
	現在のまちづくり	「ワープステイ」「コンパクトシティ―」「新しい公共」等 目んだユネスコ無形文化遺産登録までの「美濃市の伝統文化 Eちづくり」の実例
	2. 「岐阜弁と美湯 【第3回】 8月3	て化、「美濃祭り」と「ひんここ」 農町弁」「流しにわかの制作と実演」 30日 て化遺産、「本美濃紙」と「美濃和紙の未来」
項目	【第4回】 9月2	な関等、明治の先人達によるまちづくり
	【第5回】 10月 地域創生の先進地、 視察	] 2 5 日 飯田市を訪問し、低炭素・環境文化都市づくりの取組みを
		3 2 9 日 林業や景観等による元気な地方都市を目指して、先導的・ユ 示っている県内外の首長を招聘
		7日     表講生の発表「私が取り組む、地域づくり提案とその狙い」   れからの生き方について」。
テキスト 参考書	講義の都度、資料配	2付
事前履修科目		
評価方法	出席、レポート	
関連する資格		
注意事項	都合により内容・川	「る。その回は学外者も聴講する。 質番を変更する場合がある。 Eでは終了時刻を午後5時まで延長する。

<b></b>	斗 目	担当者(〇主担当)
救	急法講習1	〇 萩原裕作
授業方法	実習開講	時期     時間数     15     レベル     共通
カテゴリ	■ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業 □ 森林環境教育・木育 木工 □ 自然・科学 □ 情報・ビジネス・コミュニケーション
目的	下での対処方法をイ	林業、木工、建築、環境教育の現場で起きやすい特殊な状況 インプットする日と、忘れた頃にリアルな状況下でチーム対 D2日間で体験的に技術習得します。
概 要	り合わせにあり、中	ず、アカデミーが網羅する全ての現場において危険はすぐ隣 中には特殊な状況下のものも多く含まれます。一社会人とし こ対応できるよう基本技術を学びます。
項目	は 本 が 本 が 本 が が が が が が が が が が が が が	乎吸
テキスト 参考書	「救急法ハンドブッ	ック」を受講時に購入してもらいます(100円程度)
事前履修科目		
評価方法	出席や授業態度など	ど総合的に評価します。
関連する資格		
注意事項	日持参してください	最装で来てください。また、テキスト代として100円程度を当い。また昼食代 (講師の方々と一緒に食事をシェアする予定 00円程度用意してください。

<b>7</b>	4 目		担当者(〇主担当)		
救	急法講習2	〇 萩原裕作			
授業方法	実習開講	時期 前期	時間数	15 レベル	共通
カテゴリ	■ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業 □ 森林環境教 木工 □ 自然·科学		ス・コミュニケー	-ション
目的		)講習会で、講師アシス f導サポート体験を通し			
概 要	り合わせにあり、中 を活かして指導者で	」、アカデミーが網羅す Pには特殊な状況下のも Pシスタントとして関わ 『を持ってもらいます。	のも多く含まれる	ます。1年時 <mark>の</mark>	学び
項目	本 本 が 本 が 本 が 本 が が が ま が が が が が が が が が が が が が	呼吸 でった技術	<b>します。</b>		
テキスト 参考書	「救急法講習1」で い。	<b>ご購入した「救急法ハン</b>	ドブック」と資料	料を持参して下	· さ
事前履修科目	救急法講習1				
評価方法	出席や授業態度など	ご総合的に評価します。			
関連する資格					
注意事項		及装で来てください。ま ぎす)として各自300円和			食事

7	科 目				担当者	f(O主担	当)		
=	ロキウム		〇杉	『沢直 担当教員					
授業方法	講義	開講明	時期	2年間通年	Ę.	時間数	30	レベル	共通
カテゴリ	■ 共通(必 □ 木造建等			□ 森林環境教 □ 自然·科学			<b>ジネス・コ</b>	ミュニケー	ーション
目的				生相互間での意 議論への参加が			を図る場	景として=	ロキ
概 要		となって		一科、全学生だ 、全員参加のB					-ディ
項目		よるコロ 発表 1		研究中間発表					
テキスト 参考書									
事前履修科目									
評価方法	出席								
関連する資格									
注意事項									

",	科 目		担当者	f(O主担)	当)		
	課題研究	0	担当教員				
授業方法	実習	開講時期	2年間通年	時間数	450	レベル	共通
カテゴリ	■ 共通(必 □ 木造建翁	須) 口 林業	□ 森林環境教育·木 □ 自然·科学 □		ネス・コ	ミュニケー	-ション
目的		分野において、 周査・分析を9	,問題意識に沿った適 <sup>f</sup> 実施する。	切な課題を	定定め、	その問題	解決
概 要		出しから課題類 文作成能力を見	解決までの一連の流れ <sup>。</sup> 身につける。	を実践し、	説得力	]のあるフ	゚゚レゼ
項目	(1) (1) (2) (2) (2) (3) (3) (3) (3) (4) (4) (1) (2) (3) (3) (4) (2) (3) (4) (3) (4) (4) (4) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	導 定題報体 画 果究容文 究 と 後関基な 沿 と容沿見 、 指る、容 い りをつや 表 別に の内には 公 は い とをつや 会 別に またす に 課 に 課 の に 課 に 課 の に 課 の に 課 の に ま か に 課 の に ま か に ま い に ま に ま	題を設立し、決定し、決定し、決定し、決定し、決定し、決定し、決定し、決定し、決定を持续を持续を行動を対し、対理の対象を対し、対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	テーパすをスーパー や習論 さつ 、ー いる検ケー プす文 けいつなは る 間を 下 すューゼ。図 。 発設 の るー シー書 ・ 発	定 取 。ル 手 室 to も	みをする。 なてる。 会討する。 な保存)。 ななに向け	
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法		且み姿勢、論に	 文、発表				
関連する資格							
注意事項							

<b>7</b>	料 目	担当者(〇主担当)
林	業の概観	〇 横井秀一
授業方法	講義開調	講時期   前期   時間数   30   レベル   基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □	■林業 □ 森林環境教育・木育 ]木工 □ 自然・科学 □ 情報・ビジネス・コミュニケーション
目的	併せて、林業に関	ついて学んでいくために、日本の林業の現状と課題を知る。 する専門用語を覚え、かつ、情報の収集と整理、課題の発 議論という学び方のスタイルを習得する。
概要	学生がいくつかの	式で行う。林業の現状と課題をいくつかのテーマに分け、各 テーマを受け持ち、自ら情報を収集・分析し、その結果と調 思ったことや自ら考える課題解決のための方策などを発表す
項目	1. 林業・林 建 2. 木材 の コ 3. 木材 が 3. 木材 が 3. 木材 が 3. 木材 が 3. 木 な が 4. 森 株 業 の の か 数 国 の が 5. 林 業 外 国 の 新 た か れ ま か ま か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か か た な か か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か た な か か た な か か た な か か た な か か た な か か た な か か た な か か た な か か た な か か た な か か た な か か た な か か た な か か た な か か た な か か か か	木材価格木材生産コスト材生産量と路網整備
テキスト 参考書		業はよみがえる」「国産材はなぜ売れなかったのか」「先進 を探る」「日本人はどのように森をつくってきたのか」
事前履修科目		
評価方法	授業で課す課題の	発表 
関連する資格		
注意事項		

;	科 目	担当者(〇主担当)	
į	森林立地	〇 柳沢直	
授業方法	講義·実習開講	時期 後期 時間数 30 レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □	林業 □ 森林環境教育・木育 木工 □ 自然・科学 □ 情報・ビジネス・コミュニケ	・ーション
目的	ら、立地の背景にあ	て、地質学・地形学・土壌学等の分野の知識を織り交 ちる様々な事象について理解し、森林管理・造林・造 記を判断し、知識を応用できるようになることを目指	園など
概 要	学習したのち、地質 しながら解説する。	特徴や地形など、森林の立地に関する基礎的な知識に ほと地形、森林植生との関係について、実際に天然林 また、森林植生や林木の生長に密接に関係する森林 「土壌断面の作成・記載等について実習を行う。	を踏査
項目	3. 地質(地質学の 4. 地質(地質学の 5. 地質(地質学の 5. 地球(土壌 6. 土壌(土壌 7. 土壌(森林質 8. 土壌(地調査 9. 植生、立地 10. 森林立地と 11. 森林立地	情雪・霜害・台風など立地関係する気象) ②基礎・岩石の生成について) ②と植生の関係について) ②形の関係・地形の形成要因) ②基礎・森林土壌の物理的性質) ③・成帯性土壌について) ③の形成過程、地質・地形との関係) ②形・土壌と植生の相互作用)	
テキスト 参考書			
事前履修科目			
評価方法	出席		
関連する資格			
注意事項			

1	斗 目			担当	者(〇主担当	当)		
造	林の基礎	07	横井秀一					
授業方法	講義開調	構時期	Ē	前期	時間数	30	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □	■ 林業 ]木工		環境教育・ス ・科学 [	木育 □情報・ビジ	ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	森林の造成や育 個別技術について る。							
概要	日本林業の基本 のために行われる 理論とあわせて学 る。	各種の代	作業の目的	や方法を、	その裏付け	ナとなる	5科学的相	泿拠 ▪
項目	1. 2. 3. 4. 6. 7. 8. 9度 10. 2. 3. 4. 15. 6. 7. 8. 9度 10. 2. 13. 4. 15. 12. 13. 14. 15. 15. 15. 16. 7. 8. 9度 10. 2. 16. 16. 17. 18. 9度 10. 2. 18. 19. 19. 19. 19. 19. 19. 19. 19. 19. 19	種業え種りる目林 密 法(発る目種のののの的木 度 (生達気標苗目特目種との ( 下産様象、活的性的类プ原 密 層目立言	、はり生り負うな、密、層目式に精、と、とと法長、度、間標、と英苗方適方被、様、効、伐と枝その樹木法地法害除式、果、間打の選の)適、、伐、、、、択伐ち対	抜配 木下つに枝 密 伐、の策育布 、刈るよの 度 的間目(種区 植り切る発 管 間伐的凍、域 栽のり林達 理 伐強と害扱、 密省の型と 図 、度方、	飛種苗 度力方誘樹 、 列、法霜園木 、化法導形 収 状間、害採規 栽 の 量 間伐枝、 関 し	恵の大は、大田の製の大阪のでは、大田の大田の大田の大田の大田の大田の大田の大田の大田の大田の大田の大田の大田の大	育種基本 で 対 で 養乳 で 対 に 、 対 に	区) 牛) 密 形状
テキスト 参考書	参考書:「造林学 理」			□道杯字	(朝倉書店版	<b>Z</b> ) ]	おたな	踩杯官
事前履修科目	日本の森林・岐阜	県の森林	<b>木</b>					
評価方法	試験							
関連する資格								
注意事項								

7	科 目				担	3当者	(O主担	当)		
森	林調査法1		O	津田格 横井秀	_ ,	/	柳沢直	. /	玉木一	-郎
授業方法	実習	開講	時期	前	ij		時間数	30	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建翁		林業 木工					ジネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的	森林管理、抗 る。本科目で 植生(構成板	ではその	調査方	法を習得る	すると	ともに	こ、その	実習を通	して、ネ	<b>床林の</b>
概 要	森林調査には施することにぶ。	おいて用 こより、	いられ その技	,る各種の (術を習得 <sup>-</sup>	調査法 すると	を実際ともに	<b>際にいく</b> こ、森林	つかの森 植生なと	林におい について	Nて実 C学
項目	1. 太工林6							法など)		
テキスト 参考書										
事前履修科目 評価方法	出席、レポ-									
関連する資格	山乕、レ小	- r								
注意事項										

7	科 目				担当者	f(O主担	当)		
森	林調査法2		O	津田格 横井秀一					
授業方法	実習	開講	時期	後期		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必: □ 木造建築		林業 木工	□ 森林環境 □ 自然·科			ジネス・コ	ミュニケー	ーション
目的				る際に、その はそのための					
概 要				樹幹解析を実 法、樹木の成					こ、実
項目	1. 試料の技 2. データ								
テキスト 参考書									
事前履修科目	森林調査法								
評価方法 関連する資格	出席、レポー	- ト							
注意事項									

1	科 目		担当者(〇主担当	)
ķ	森林獣害	〇 伊佐治彰祥 原島幹典		
授業方法	講義·実習開講	時期 後期	時間数	30 レベル 基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □	林業 □ 森林環境教 木工 □ 自然·科学		ネス・コミュニケーション
目的		を実現するには野生鳥獣 きを実施すれば良いか <i>0</i>		
概 要	どによる植栽木や幼	森林被害はニホンジカヤカ木の食害、ニホンジカス など様々あるが、ここで 対策を学ぶ。	カやニホンツキノ	ワグマによる成熟し
項目	や岐阜県森林 の 1 日本 編集 に 2 特 編集 に 3 森林 に 3 森林 に 3 森林 に 4 農 に 5 岐阜 は 6 森林 阜 6 森林 阜 7 岐阜 野生	は員だけどの協力とその格別では、他の下での協力とその問題とそのを持ている。 はいい はい	で講義と実習を実 要害実績について 物は がのよう かいよう かいよう かいよう かいなが、 かいないが、 はいないが	施する。 あるか ニホンノウサギ、ノ
テキスト 参考書	│ 配付資料 │			
事前履修科目				
評価方法	出席と現地実習成績	責、レポート		
関連する資格	狩猟免許			
注意事項	野外活動できる服装	もであること		

7	科 目			担	旦当者(	〇主担	当)		
森	林公共政策		〇 伊佐治	彰祥 宮勤講師					
授業方法	講義	開講時	寺期	後期	F	時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	口 共通(必 口 木造建領			森林環境教育 3然•科学		-	゚ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	学生が卒業 県や市役所の ついて講義:	の政策や							
概 要	岐阜県庁( 課、自然環) 派遣されて(	竟保全課、		<b>五課、森林</b>	研究所	、生活技	支術研究		
項目	課、活 は 清 森 林 自 県 森林術 阜 流 林 業 然 産 林 1 5 6 7 6 7	構究の国 構 旦 獲 の 究明所 森 ぎ 施 い ・ 生 所の 林 ふ 策 手 自 産 の 然 に の 然 と 役		果う 森 里 金 今 獣 対県。 が 林 山 制 後 管 策 の 理 で の で で で で かんしょう はんしょう かんしょう はんしょう はんしょく はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんし	流通課 り 整 材育 成	、高山市 条例等に 木育、1	た役所、	森林研究	究所、
テキスト 参考書	配付資料								
事前履修科目	なし								
評価方法	出席とレポ-	<b>- ⊦</b>							
関連する資格	なし								
注意事項	なし								

1	斗 目		担当	i者(O主担当	<b>á</b> )		
木質バイス	ナマス資源の利用	0 7	杉本和也				
授業方法	講義·実習 開講	時期	前期	時間数	45	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □	林業 木工			ネス・=	コミュニケー	ーション
目的	とは重要である。本	講義で	-などに対する森林資 では、講義や実地研修 生や限界について検討	多を通して,	木質/	バイオマス	
概要		みや、	など木質資源を利用し 大型のバイオマスを いて検討する。				
項 目 テキスト	<ol> <li>木質資源の今,</li> <li>エネルギーの需</li> <li>暮らしの変化する</li> <li>木質バイオマス</li> <li>木質バイオマス</li> <li>地域のエネルキ</li> </ol>	終 か ボ の 可 前 、 利用 の	-需給の変化 能性 )実際				
参考書							
事前履修科目	111 # 1 49 1						
評価方法	出席、レポート						
関連する資格 注意事項							

1	斗 目				į.	旦当者	O主担	当)		
安全	管理の推進		O #	<b>彡本和也</b>						
授業方法	講義	開講	時期	Ī	前期		時間数	30	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建			□ 森林				ジネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的	授業では, じてもらう 立てられる	こと, ま	た労働	災害が発						
概 要	安全管理の である。小 て考えてい	レポート	弱めるた ∙の提出	:めには, ¦や, 授業	まず災 中のデ	害につ	ついて自 カッショ	分で考 <i>え</i> ンを行し	さることだ い,安全I	が必要 こつい
項目	1 林 5 林 9 安 4 位 お 5 本 9 安 6 本 6 年 7 年 7 年 7 年 7 年 7 年 7 年 7 年 7 年 7 年	づけ,党 働災害の る労働災 安全管理	労働災害 )原因分 (害の原 間の方法	・ ・析 〔因分析 :	l介					
テキスト 参考書										
事前履修科目										
評価方法	出席、レポ	<u>-                                    </u>								
関連する資格										
注意事項										

<b>1</b>	科 目			担当	者(〇主担当	当)		
刈払機入門	門(安全衛生教育)	0		/	伊佐治彰衫	<b>¥</b> /	池戸秀	氵隆
授業方法	講義·実習開講	時期	前期		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □	林業 木工				ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	林業をはじめ、農業 て、初心者を対象と							こつい
概要	労働安全衛生法に定 育」カリキュラムに を学ぶ。							
項目	(学科) 1. 刈払機に関する語 2. 刈払機を原用する語 3. 刈払機では 4. 関係法) (実技) 6. 刈払い機の運転	る作業( び整備( の予防(	こ関する知識 こ関する知識	テナン	Z			
テキスト 参考書	林材業労働災害防止   者必携」 (事前に		行「伐木作業 で案内する)	<b>有安全</b>	三年生必携」	, IX	」払機取打	以作業
事前履修科目			,					_
評価方法	出席 全課程出席者					*** .* ***	<del></del>	
関連する資格 注意事項	労働安全衛生法に基 実習一般(コードNo	•	刈払機取扱作ӭ	業者に	対する安全	衛生教	<b>育修了証</b>	」交付

7	科 目			担当	者(〇主担:	当)		
チェーンソ	一入門(特別教育)	0		/	伊佐治彰	样 /	池戸秀	隆
授業方法	講義·実習開講	時期	前期		時間数	30	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □	林業 木工	□ 森林環境 □ 自然·科学		木育 □ 情報・ビシ	<b>ジネス・</b> =	ミュニケ-	ーション
目的	林業をはじめ、農業 いて、初心者を対象							
概要	労働安全衛生法に定 リキュラムにのっと 作技術、メンテナン	り、チ	ェンソーを使					
項目	(学科) 1. 伐ェ作ソース 2. チェ時令 3. 腹係法) 5. チオ・ンソーの 5. 伐ェ・ンソーの 6. 伐チョン・シーの 7. チェンソーの 9. 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	する知詞 の予防( 作 の基礎!	こ関する知識 支術					
テキスト 参考書	│ 林材業労働災害防止 │ 者必携」 (事前に │		行「伐不作業 で案内する) 	<b>百女</b> 3	5年生必携」	. · X	11払機取	以作業
事前履修科目	11. de A = m eq -1 - de -2 -	- LL	==					
評価方法	出席全課程出席者の			1-1 <del>-</del> 1-	* #+ D.1 +/ - <del>*</del> -	. 14	r <del>-  </del>	
関連する資格 注意事項	対働安全衛生法に基 実習一般(コードNo		戊不寺の美務	1〜1糸 6	) 特別教育	1 含「訂	上父行	

7	科 目			担当者(〇主担)	当)		
Ā	森林経営	C	)杉本和也				
授業方法	講義	開講時期	前期	時間数	30	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須 □ 木造建築			対育・木育 □ 情報・ビシ	ジネス・=	ミュニケー	ーション
目的	務」「生産シ	ステム」「	るが、基本となる 営業」「組織運営 う、基礎知識の習	は」が重要になっ	ってくる	る。これ	
概要	各視点で林業	<b>経営を捉え</b>	「生産システム」 .るための基礎知詞 .で整理したレポー	戦の説明を行いた	ながら,		
項目	2 3在4経5組6林最「2費、庫、営、織、業終組会用運理経略織営画おに運計項営、戦の運の開け林営、戦が重要が開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開	(forestry forestry	, BS, CSの見方,原 格 (の実務に必要な)	原価管理の手法 は律および税制等 「財務」「生産 したレポートを付	<b>等の制度</b> 産シスラ	₹	営業」
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポー	- ト					
関連する資格							
注意事項							

1	斗 目		担当	者(〇主担)	当)		
森林政	対策・森林計画	0	池戸秀隆				
授業方法	講義·実習開	講時期	後期	時間数	30	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須)   □ 木造建築	■ 林業 □ 木工		· · -	ジネス・ <b>:</b>	ミュニケ-	ーション
目的			制度について知り、国 実習をとおし知識を		サ村の≉	森林・林美	<b>美政策</b>
概 要	いったのか学ぶ。 さらに、ワーク	また、エショップ	林や林業の法規や制度 現在における林業政策 プで身近な森林を踏査 調査結果を整理して発	の現状と記し、森林	果題につ	ついて学え	 )`°°
項目	4. 森林 金 と 合. 森林 知	( 支 士 組 町 方森 よ 知 版 の にの 高原	森林計画、地域森林計 度 業プランナー、ワーカ	ー、オペー 実習え で実施され	ンーター 3林や身 れた森林	-の役割 農 市内の	
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	実習活動、成果発	表					
関連する資格							
注意事項	実習内容によりド	レスコ-	ードを順守すること。				

<b>1</b>	斗 目	担当者(〇主担当)
Ā	森林情報	〇 川尻秀樹 非常勤講師
授業方法	講義・実習 開調	構時期 後期 時間数 30 レベル 基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □	■林業 □ 森林環境教育・木育 ]木工 □ 自然・科学 □ 情報・ビジネス・コミュニケーション
目的		ムの利用方法と可能性を理解し、測量データのGIS利用や林業 管理のあり方について見識を深めることを目的とする。
概要	データを組み込ん	ョンなどで馴染みのあるGPSデータと、測量データや林分現況 だ地理情報システム(Geographic Information Systems)と 、行政型のGISや森林組合利用としてのGIS、そして最先端の こついて学ぶ。
項目	いて、GISで用いるよう。 1 GISで用いるよう。 1 GISで用イタルトデジ。 2 GPSと組み型GISのよう。 3 森林阜ISを県ででののGISル大大ののGISル大大ののGISル大大ののGISル大大ののGISル大大ののGISル大大ののGISル大大ののGISル大大ののGISル大大大ののGISル大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大	はるレーヤー、属性データ、ラスタデータ、ベクタデータ(ポポリゴン)などを理解した上で、リモートセンシングや空中ルソフォトとの違い、最新のレーザープロファイリングについせるための測量として、電子コンパスの取り扱いを学ぶ。 S、行政型GIS、試験場型GISの違いについて学ぶ。 林組合で最も先進的にGIS情報を業務に反映している森林組合いように利用しているのかを学ぶ。 の林政部で管理する森林GISや治山GISの実態について、県庁
参考書	配付資料	
事前履修科目	· ·	
評価方法	出席とレポート	
関連する資格	なし	
注意事項	実習できる服装で	参加すること

1	料 目		ŧ	旦当者(〇主担当	<b>á</b> )		
森林施	<b>恵業と森林生態</b>	0	横井秀一				
授業方法	講義	開講時期	後期	時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須 □ 木造建築	〔〕 ■ 林業 □ 木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学	育・木育 □ 情報・ビジ	ネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的	造林技術・ 術に対する理解		基盤である森林生	態学的な知識を	身に付	け、それ	 ιら技
概 要			の基盤となる各 内知見に基づくも			き学び、と	どんな
項目	プダイナミクン 2. 林木の競争	無性繁殖、約 ス +と成長	接の豊凶、種子の豊凶、種子の豊凶、種子		- 床とり	更新床、 <i>=</i>	ギヤツ
テキスト 参考書	参考書:「森	 林の生態」	 「森林生態学-持	続可能な管理 $\sigma$	 )基礎」		
事前履修科目			<del></del>				
評価方法	試験またはレ	ポート					
関連する資格							
注意事項							

1	斗 目		į	担当者(〇主担	当)		
森	林病虫害	0	津田格				
授業方法	講義•実習 開	講時期	後期	時間数	30	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ 木造建築	■ 林業 □ 木工			ジネス <b>・</b> =	ミュニケ-	ーション
目的	森林、林木に対す 理・生態学的に理 と技術的方法論を	解する能	<b>能力をつける。ま</b>	たそれらの危			
概要	森林、林木に対す る。本科目では森 ついて学ぶ。特に び、それらの危害	林病虫語 菌類に。	書を中心に、病気 よる樹木病害、森	の概念、病原 林昆虫による	生物と宿 被害等る	国主の関係 E重点的に	系等に
項目	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	生要類る防害と原理を表現の関係を表現の関係を表現した。	害と防除 里、生態) 被害とその防除 余				
テキスト 参考書	│ 随時プリント配布 │ (参考書)「樹木	診断調査	查法」(講談社)	「樹木医学	」(朝倉	含書店)	
事前履修科目	11. <del>c.</del> =4.50						
評価方法	出席、試験						
関連する資格							
注意事項							

7	料 目	担当者(〇主担当)						
野生	動物捕獲実習	〇 伊佐治彰祥 原島幹典						
授業方法	実習開講	時期 後期	時間数	30 レベル 基礎 II				
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □			ネス・コミュニケーション				
目的		野生鳥獣による被害は、こで林業のかたわら野ら る。						
概 要		に関する知識の習得、頭 資源有効利用について <sup>₫</sup>		捕獲についての知識				
項目	り、 リ、 リ、 インサギやアラマン では、 は、 大が様々のもの、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	トンジカとイノシシを「 捕獲された個体の解化 ける法規及び、免許取行 態と被害の調査手法にな	ニホンイノシシ 中心に、罠による: 本利用に至るまで 导に必要な知識との	、ニホンツキノワグ 捕獲のための基礎知 を学ぶ。 心得について				
テキスト 参考書	配付資料							
事前履修科目	なし							
評価方法	出席とレポート							
関連する資格	狩猟免許							
注意事項	野外実習できる服装	きで参加すること						

7	料 目	担当者(〇主担当)						
木材生産	ミシステムの基礎	O 杉	/本和也					
授業方法	講義·実習開講	時期	後期		時間数	30	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □					<b>゙</b> ジネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的	林業において生産シ であり、林業の経営 どのような生産シス	含上,重	要な役割を果	したす。	生産シス	ステムの特	特徴を理解	
概 要	車両系作業システム ト、原価計算の方法							J ツ
	1~2 林業におけ 集材の歴史,集材機 機械の性能,仕組み 3~4 車両形作業	機械の特と、今	徴,生産性 後の技術的な					
	路網の歴史, 路網の 土木工学と, 今後の	)種類,	線形,複合路	<b>路網,考</b>	え方			
	5~6 架線系作業 路網の歴史,路網の	)種類,	線形,複合路	S網,考	·え方, <del>≤</del>	今後の発展	Ę	
	│ 7~8 作業シスラ │	ームの構	築方法					
	9~10 原価計算	注、費	用対効果の第	出法				
項目	11~14 作業の	)改善手	法(林業の現	場見学	!)			
テキスト 参考書								
事前履修科目								
評価方法	出席、レポート							
関連する資格								
注意事項								

<b>1</b>	斗 目		担当者	B(O主担:	当)		
生産管理の	)技術 [偶数年度]	01	杉本和也				
授業方法	講義·実習開講	時期	前期	時間数	30	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) ■□ 木造建築 □	林業 木工			ジネス・=	ミュニケ-	ーション
目的		におし	)いての知識や,生産 \て,生産システムや : する。				
概要	大きく左右する。こ	ここでは	ンステムはとても重要 は生産システムについ 賃方式の紹介や実際の	てのより	基本的で	き 本質的	内な考
項目	2. 生産管理 トヨタ生産方式の生 3. トヨタ生産方式 生産計画の立て方, 4. トヨタ生産方式 実際の市場に対応して、市場にして、物と情報の流れ	い か の,て 図な 実立 ん 見どい 作が 習 が の まる がら 別 で か 習 】	ばんの使い方について 生【実習】 ひような生産計画を立 らのかを観察する。 は【実習】 ら、物と情報の流れ図	· て, どの。	<b>よう</b> なシ	ノステムる	を構築
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、試験、レポー	- ト					
関連する資格							
注意事項							

7	料 目			担当者(	〇主担当	当)		
;	大型特殊	0 ?	也戸秀隆					
授業方法	実習開講	時期	通年	B	時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □	林業 木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学			ネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的	フォークリフトや <sup>2</sup> きるよう資格の取得			型特殊車	両を公道	道で走行	すること	こがで
概 要	大型特殊車両を公道 に取得するため大型				する。ま	きた、お	<b>技能講習</b> る	上有利
項目	・6時間の大型特別・その後、別日に登 ※指定講習機関にで	产業検定						
テキスト 参考書								
事前履修科目								
評価方法	資格取得							
関連する資格	大型特殊自動車免討	午の取得	F					
注意事項	この講習は、普通自動 在学期間中の免許取行 視力検査あり(片目(	导を確認	し単位認定する	ので免許	証を持参	するこ		

7	科 目		担	当者(〇主担)	当)				
小型移動式ク	7レーン運転技能講習	O #	也戸秀隆						
授業方法	講義·実習開講	時期	後期	時間数	30	レベル	基礎Ⅱ		
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □	林業 木工	□ 森林環境教育 □ 自然·科学		゚ネス・コ	ミュニケ-	ーション		
目的	林業の現場では、何 5トン未満)を運転 この作業を安全に	よし積み		たりする作業			ン以上		
概 要	を目指す。	法令に基づく技能講習規程に則り、学科講習と実技講習を実施し、資格取得 目指す。 なお、実技講習は指定講習機関で実施する。							
項目		に関する 必要な力 合図 レーン0	る知識 学に関する知識 D運転	, ()					
テキスト 参考書	法定テキスト(自己								
事前履修科目		'してお	くこと。						
評価方法	資格取得								
関連する資格	小型移動式クレーン	/運転技	能講習修了証の発	:行					
注意事項	技能講習にかかる この科目日程で受 その修了証を持参す	を講でき	ず、在学期間中に	別の機会で資	資格を耳	双得した均	易合、		

7	科目		担当	者(〇主担)	当)				
玉	<b>卦技能講習</b>	0;	地戸秀隆						
授業方法	講義·実習	講時期	後期	時間数	30	レベル	基礎Ⅱ		
カテゴリ	□ 共通(必須) □ 木造建築	■ 林業 □ 木工			゚ネス・コ	ミュニケ-	ーション		
目的	荷を外す「玉掛」	と呼ばれ	、た木材をワイヤロ- れる一連の作業がある こめの技能を習得する	<b>5</b> 。	て荷を掛	計け、運掘	般し、		
概要	を目指す。	法令に基づく技能講習規程に則り、学科講習と実技講習を実施し、資格取得 目指す。 なお、実技講習は指定講習機関で実施する。							
項目	4. 関係法令 <実技講習> 1. クレーン等の 2. クレーン等の	)玉掛けの )玉掛けに ) 変転のた )玉掛()	)方法  必要な力学に関する      -めの合図						
テキスト 参考書	法定テキスト(自	C 貝担 ( 	· ハ						
事前履修科目									
評価方法	資格取得								
関連する資格	玉掛技能講習修了	証の発行	Ī						
注意事項	この科目日程で	受講でき	は個人負担とする。 きず、在学期間中に別途単位認定する。	削の機会で資	資格を耶	双得した均	易合、		

7	科 目				担	当者	(〇主担	.当)		
   車両系建設 	と機械運転技能請	習	0 %	也戸秀隆						
授業方法	講義·実習	開講	時期	育	<b>前期</b>		時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須 □ 木造建築		林業 木工	□ 森林 <sup>3</sup>				ジネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	林内路網の て「車輌系建 この作業を	設機械	【」の運	転が必要	となる。	)	運搬、	整地など	ごの作業が	<b>があっ</b>
概 要	を目指す。	法令に基づく技能講習規程に則り、学科講習と実技講習を実施し、資格取得 目指す。 なお、実技講習は指定講習機関で実施する。								
項目		する装 要 な 作 の 装	置の構 -般的事 電の操	造、取扱 項に関す 作	い及び1 る知識	作業の			口識	
テキスト 参考書	│ 法定テキスト │	自己	負担で	'購入)						
事前履修科目	大型特殊免許	大型特殊免許を取得し、免許証の書き換えをしておくこと。(経費は自己負担)								
評価方法	資格取得	資格取得								
関連する資格	車輌系建設機	械(整	逐地等)	運転技能	講習修	了証の	2発行			
注意事項	大型特殊免技能講習に	要する	経費は	自己負担	とする。	。なお			別に資格	各を取

7	科 目	担当者(〇主担当)								
不整地運	般車運転技能講習	〇 池戸	⋾秀隆							
授業方法	講義·実習開講	時期	前期	時間数	15	レベル	基礎Ⅱ			
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □		□ 森林環境教育 □ 自然•科学	・木育 □ 情報・ビジ	ネス・コ	ミュニケ-	ーション			
目的	が必要となる。	林内路網の開設では、土砂運搬などの作業があって「不整地運搬車」の運転 が必要となる。 この作業を安全に行うための技能を習得する。								
概 要	を目指す。	法令に基づく技能講習規程に則り、学科講習と実技講習を実施し、資格取得 を目指す。 なお、実技講習は指定講習機関で実施する。								
項目	く学表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	<sup>-</sup> る知識 ]学に関す	る知識		1識					
テキスト 参考書	法定テキスト(自己	と貝担で開	<b>[人</b> )							
事前履修科目	大型特殊免許を取得	し、免許	証の書き換えをし	しておくこと。	, (経	費は自己	負担)			
評価方法	資格取得									
関連する資格	不整地運搬車運転技	<b>技能講習修</b>	了証の発行							
注意事項	大型特殊免許の取 技能講習に要する 得し、その修了証を	経費は自	己負担とする。	なお、在学期		別に資材	各を取			

<b>A</b>	4 目	担当者(〇主担当)								
フォークリ	フト運転技能講習	0;	地戸秀隆							
授業方法	講義·実習 開講	時期	前期		時間数	15	レベル	基礎Ⅱ		
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □	林業 木工	□ 森林環境 □ 自然·科			ネス・コ	ミュニケー	ーション		
目的	「フォークリフト選	原木市場や製材所では、原木丸太の移動、製材品の運搬・積み込みには、 「フォークリフト運転(1トン以上)」が必要であり、この作業を安全に行うた めの技能を習得する。								
概 要	法令に基づく技能を目指す。 なお、実技講習に				と実技講習	習を実施	近し、資材	各取得		
頃	<ul> <li>く 計画</li> <li>( )</li></ul>	〜の荷役 〜の運転	とに関する装置 気に必要な力学	tの構造 に関す	及び取扱し					
テキスト 参考書	法定テキスト(自己	と負担で 	ご購 <b>人</b> ) 							
事前履修科目	大型特殊免許を取得	引し、気	色許証の書き換	えをし	ておくこと	:。(約	E費は自己	已負担		
評価方法	資格取得									
関連する資格	フォークリフト運転	技能講	構習修了証の発	行						
注意事項	大型特殊免許の取 技能講習に要する 得し、その修了証を	経費に	は自己負担とす	る。な			別に資材	各を取		

<b></b>	斗 目	担当者(〇主担当)
車両系木材化	<sup>找</sup> 出機械の特別教育	〇 池戸秀隆 杉本和也  / 伊佐治彰祥
授業方法	講義·実習開講	時期 前期 時間数 60 レベル 基礎 II
カテゴリ		林業 口 森林環境教育・木育 木工 口 自然・科学 口 情報・ビジネス・コミュニケーション
目的	林業で使用される	る車両系林業機械の運転に必要な特別教育を行う。
概 要	を運搬するフォワー	積込みを行うハーベスタ、プロセッサ、グラップル、木材 -ダや林内作業車、架線集材するスイングヤーダやタワー 哉、構造、作業及びその操作を習得するため、学科講習と実
項目	く12知345     Ⅲ     ✓     Ⅲ     ✓     人       学1. 識	三行及び作業に関する装置の構造及び取扱いの方法に関する 事業に関する知識 重転に必要な一般的事項に関する知識 三行の操作 事業のための装置の操作 の運転の業務(安衛則第36条第6号の3) 同じ(「伐木等機械」を「走行集材機械」に読み替え) 同じ(「伐木等機械」を「走行集材機械」に読み替え) にてりて、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、
テキスト 参考書		ミマニュアル(林業・木材製造業労働災害防止協会 発行) よお、詳細は掲示板で案内する。
事前履修科目		
評価方法	実技、ペーパーテス	
関連する資格		大等機械の運転の業務」ほか2業務の特別教育修了証の交付
注意事項	全課程出席者のみ傾 実習内容によりドレ	多了証を交付する。 レスコードを遵守すること。

;	科 目	担当者(〇主担当)								
高性能材	ҳ業機械操作基礎	〇 杉本和也 池戸秀隆 / 伊佐治彰祥								
授業方法	講義·実習	講時期   前期   時間数   60   レベル   基礎Ⅱ								
カテゴリ	□ 共通(必須) □ 木造建築	■ 林業 □ 森林環境教育・木育 □ 木工 □ 自然・科学 □ 情報・ビジネス・コミュニケーション								
目的	要、構造、メン <sup>-</sup>	本業・木材生産の現場、高性能林業機械の操作・運転等に必要な産業機械の概要、構造、メンテナスの基礎及び運転操作の技術を体験することで、車両系・ 関線系の両作業システムへの理解を深める。								
概要	林業機械の操作 運転操作の技術を	・運転等に必要な機械の概要、構造、メンテナンスの基礎及び を体験する。								
		機械の概要(講義)								
		等の高性能林業機械の構造とメンテナンスの基礎及び操作体験								
		幾械(架線系)の設置・撤去 機械(架線系)を用いた集材								
		<b>幾械の構造とメンテナンス</b>								
項目										
テキスト 参考書										
事前履修科目										
評価方法	出席、レポート									
関連する資格										
注意事項										

1	科 目 担当者(〇主担当)							
森林記	平価・収穫調査	O ?	也戸秀隆					
授業方法	講義·実習開講	時期	前期		時間数	30	レベル	発展I
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □	林業 木工	□ 森林環境。 □ 自然·科学			゚ネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的	この科目では、実し、実際の現場ので						<b>美指示書</b> る	を作成
概 要	演習林において、 る。また収穫後に見					指示書が	などを作用	<b></b>
項目	1. 説森宗 本周 見収 ますら 再実 本周 見収 ますら 評際に 2. の調 地 予 4. とるに 価に収 様に 様口・結 件 し 終	お 調ッ 作果 や 大 業か 収 大 エ 、 乗 も 、 乗 も 、 大 、 大 、 大 、 大 、 大 、 大 、 大 、 大 う 、 大 う 、 大 う 、 大 う 、 大 う 、 大 う 、 大 う 、 大 う 、 大 う 、 た う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う	プランニング手 をそ行い施業区 示書の作成 、原木の径級や 量から導入する 数を元に作業指	区域の収 ら品質の ら作業シ 旨示書を	種量を調 見積もり ステムの 作成する	を行い 検討を 。	売上を予行い、人	
テキスト 参考書								
事前履修科目								
評価方法	レポート							
関連する資格								
注意事項	実習内容によりド	レスコ-	ードを順守する	ること。				

<b></b>	斗 目		担当者(〇主担当)							
多様	る様な森林施業 ○ 横井秀一									
授業方法	講義	開講	時期	後期		時間数	30	レベル	発展I	
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建築			□ 森林環境 □ 自然·科			ネス・コ	ミュニケー	ーション	
目的		自然環境や経営方針・経営戦略などに応じて展開される多様な森林施業について、その理念や特色、そこに適用される林業技術、それを支える科学的根拠などを知る。								
概 要	支える林業技	各種の施業について、その施業が生まれた背景、施業の目的・意義、それを をえる林業技術などについて学ぶ。実際の森林の姿と施業の関係を理解するため、各種施業地の見学(現地検討)も交える。								
項目	世 (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大)	とした 恒売、複美、更、折、人林で、森区、人は、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	施業の 択り 有新業 きそ樹 美雪業 持り 伐り 東ス とくり まの形の 害の おいましょう とれい しんしょく かいしん かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい	至子散布様式、 天然林施業 特性、植栽適は 成長、除伐の 冠雪害の回る	E林思想 帯状択伐 埋土 初的と かり	、 恒 続林 、 二 段 更 、 、 育 法 、 間 は 間	思想、 ないない。 ないないない。 はないないない。 はないないないない。 はないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	手更新、『 医因、広』 を おと方法	更新阻	
テキスト 参考書				西業論」「新 <i>†</i> 対の森づくり」		日 <sub></sub> 王」「和 	ホ ノ \	, いい待」 	. '≌ 	
事前履修科目	造林の基礎、		の基礎	<u> </u>						
評価方法	試験またはし	ノポート								
関連する資格										
注意事項										

1	4 目	担当者(〇主担当)							
森林	<b>木施業演習</b>	〇 横井秀一							
授業方法	実習開	講時期前期時間数60レベル発展 I							
カテゴリ	□ 共通(必須) <b>■</b> □ 木造建築 □	■ 林業 □ 森林環境教育・木育 ]木工 □ 自然・科学 □ 情報・ビジネス・コミュニケーション							
目的		や適切な作業を提案できるようになるため、提案現場の見 通して、森林の状態を観察する視点や森林施業を評価する視 的とする。							
概 要	の立案や計画に合	われた森林や施業実施中の現場を見学する。また、間伐計画 わせた間伐木の選木などの演習を行う。これらを通して、森 考え方・あり方を学ぶ。							
項目	価) 2. 針葉樹天然林が夫、施業の評価) 3. 広葉樹林施業価) 4. 間伐の計画と過	正業(林業経営の考え方、施業の実際、施業の工夫、施業の評 正業(針葉樹天然林施業の歴史的背景、施業の実際、施業の工 (林業経営上の位置づけ、施業の実際、施業の工夫、施業の評 選木の実践(林分現況の把握、生産目標・目標林型の設定、間 木、成長の将来予測と間伐計画の評価)							
テキスト 参考書									
事前履修科目	造林の基礎、多様	な森林施業、森林調査法1、森林施業と森林生態							
評価方法	レポートおよび授	業中の態度(見学・体験・議論に望む姿勢)							
関連する資格									
注意事項	間伐実習(伐倒作	スコード:1実習(一般) 業)時のドレスコード:2実習(伐採) などで、内容が変更される場合がある。							

₹	·····································		担当者(〇主担当)	
11 50		〇 横井秀一		
林業	等例調査1		/ 杉本和也 /	´ 伊佐治彰祥
拉来十六	中 20 BB =#	마비 ····································	四土 目目 米ケ	
授業方法	実習 開講□ 円 共通(必須) ■	時期 通年 林業 □ 森林環境:	時間数   30     数	レベル 発展Ⅰ
カテゴリ			教育・不育	コミュニケーション
目的	えるが、実際の取り	組みの現場で見聞き	できる。その人だから することで、今の自分 ヒントを探すことを目	たちに何が必要
概 要	産業を展開している	個人や企業も多く見	と理論で目を見張る先 られる。そうした人た を学び、自分たちが向	:ちから、安全性
	産業現場、あるいは	は教員が学生に学ばせ	が興味を持った林業現たいような先進事例の 要とする考え方を引き	ある個人や企業
		。時には全国林業機	越、関西のエリアで、 械展に参加して、最新	
	1 事前に各自で引	₽例調査し、訪問先を	二ヶ月以上間に決定す	-る。
	2 各々が質問した る。	い項目をまとめて、	訪問一ヶ月前までに相	手先に連絡す
項目	3 訪問前に、訪問 る。	<b>引先の案内係、ブログ</b>	係、お礼状係などの役	割分担を決定す
X I	4 訪問後に、そ <i>0</i> レポートをまとめる		自分が得た項目や今後	の展開について
	5 他の事例との比	比較検討を実施する。		
テキスト 参考書	配付資料			
事前履修科目	なし			
評価方法		ブログ製作、最終レポ	<b>− ⊦</b>	
関連する資格	なし			
注意事項	野外活動できる服装	きで参加すること 		

₹	·····································	担当者(〇主担当)
		O ##₹—
林業	事例調査2	│ ○ 横井秀一 │     池戸秀隆 / 杉本和也 / 伊佐治彰祥
		787 371E 7 121111E 7 121E1E1
授業方法		請時期     通年     時間数     30     レベル 発展 I
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □	林業 □ 森林環境教育・木育   木工 □ 自然・科学 □ 情報・ビジネス・コミュニケーション
目的	えるが、実際の取り	みは、その場所だからできる。その人だからできる。とも言り組みの現場で見聞きすることで、今の自分たちに何が必要のか、どうすべきかのヒントを探ることを目的とする。
概要	産業を展開している	ばれる中、独自の発想と理論で目を見張る先進的な林業や林る個人や企業も多く見られる。そうした人たちから、安全性 技術革新の取り組みを学び、自分たちが向かうべく方向性
	産業現場、あるいは	界、その中で学生自身が興味を持った林業現場や革新的な林 は教員が学生に学ばせたいような先進事例のある個人や企業 その現場から各々が必要とする考え方を引き出す。
		区を中心に、北陸、信越、関西のエリアで、宿泊も考慮した る。時には全国林業機械展に参加して、最新の安全対策や革 句にもふれる。
	1 事前に各自で事	事例調査し、訪問先を二ヶ月以上間に決定する。
	2 各々が質問した る。	たい項目をまとめて、訪問一ヶ月前までに相手先に連絡す
項目	3 訪問前に、訪問 る。	問先の案内係、ブログ係、お礼状係などの役割分担を決定す
- <del>7</del> L	4 訪問後に、その レポートをまとめる	の林業事例を見学して自分が得た項目や今後の展開について る。
	5 他の事例とのと	北較検討を実施する。
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	配布資料	
事前履修科目	林業事例調査1	
評価方法		ブログ作成、最終レポート
関連する資格	なし	ナ.フ. L. こ よ、ロフリナ
注意事項	野外実習に参加でき	ぎるような服装

7	科目			担当者(〇主担当)						
4	林業路網			也戸秀隆 杉本和也						
授業方法	講義·実習	開講時	寺期	後期		時間数	30	レベル	発展I	
カテゴリ	□ 共通(必須 □ 木造建築		林業 木工	□ 森林環境 □ 自然·科			<b>ジネス・</b> =	ミュニケ-	ーション	
目的	要になる。			へ運ぶために 格でトラック						
概 要				業専用道、森 設計に必要な						
項目	3. トラック	の路網( が走行 <sup>・</sup> ・ ベルで	の特徴 するた 勾配追	で説明する。にいから、この道を設計でいる。このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、	する。					
テキスト 参考書										
事前履修科目	<b>₽</b> 22 <b>₽</b> 4±									
評価方法 関連する資格	実習実績									
注意事項	実習内容によ	りドレ	スコー	・ドを遵守する	こと。					

<b></b>	計 目	担当者(〇主担当)
林業架線	作業主任者講習	〇 池戸秀隆 杉本和也  / 伊佐治彰祥
授業方法	講義·実習開講	時期 通年 時間数 120 レベル 発展 I
カテゴリ	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	林業 口 森林環境教育・木育 木工 口 自然・科学 口 情報・ビジネス・コミュニケーション
目的		開設できないような急傾斜地では架線系システムの導入が重 このため、林業架線に関する知識や技術について学ぶ。
概要	に関する知識、法令	「るためには、架線の架設方法・段取りに関する知識, 力学 今に関する知識の習得が必要である。また、知識を習得した および集材機の運転を実習することで、林業架線についての
項目	<ol> <li>4. 関係法令</li> <li>(実技講習)     </li> <li>1. 索張りおよび投 2. 支柱、盤台等の </li> </ol>	こ必要な力学に関する知識 空えの取り方並びに点検 O作り方および点検 および運材索道の主要機器の据え付け方法および点検 枚の点検 および継ぎ方 おはずし
テキスト 参考書		E者テキスト(林業・木材製造業労働災害防止協会 発行) Sお、詳細は掲示板で案内する。
事前履修科目	選羽攸フ弐段 中七	<u>+</u>
評価方法 関連する資格	講習修了試験、実技 林業架線作業主任者	•
注意事項	全課程出席で、修了	講画修了証の交刊

7	科 目				担当者	f(O主担	当)		
森林	経営の構築		O #	<b>杉本和也</b>					
授業方法	講義	開講	時期	後期		時間数	30	レベル	発展Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建翁		林業木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学			ジネス・コ	ミュニケー	ーション
目的		学ぶ。ま	た事業	バランスについて 禁計画や森林経営					
概 要	的な森林管理 る。この科目	里を行う 目では、	こととケース	t、永続する企動 :のバランスを呼 スタディやシ 「検討していく。	取りな? ミュレ-	がら事業	活動を行	う必要な	<b>i</b> あ
項目	3. ケースス 4. ケースス	タディ タディ2 タディ3	1 素 専業 副業		<b>固別林</b>	業経営			
テキスト 参考書									
事前履修科目									
評価方法	出席、レポー	- ト							
関連する資格									
注意事項									

7	料 目	目 担当者(〇主担当)						
森林紀	経営計画実習	O #	黄井秀一					
授業方法	実習開講	時期	後期		時間数	60	レベル	発展Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □	林業 木工	□ 森林環境 □ 自然·科			シネス・=	ミュニケー	ーション
目的		森林の保続を図り、かつ、持続的な林業経営を実現するための制度である 「森林経営計画」の概要を理解し、計画の立案方法を習得する。						
概 要		これまでの学習成果を駆使して、学生が各自で、演習林をフィールドに森林 学営計画を作成する。						
項目	<ol> <li>森林経営計画の</li> <li>森林経営計画の</li> <li>計画対象森林の</li> <li>計画の作成</li> <li>計画の発表・評</li> </ol>	実例 現況把! 調査	屋					
テキスト 参考書								
事前履修科目	森林経営、森林政策							
評価方法	授業への取り組み姿	※勢、計	一画発表の内容	!				
関連する資格 注意事項	現地調査時のドレス	<b>ヾ</b> コード	: 1実習(一	投)				

7	斗 目		担当者(〇主担当)							
施業フ	プランナー演習		O ħ	黄井秀一						
授業方法	講義∙実習	開講	時期	通年	時間数	75	レベル	発展Ⅱ		
カテゴリ		<ul><li>□ 共通(必須) ■ 林業</li><li>□ 森林環境教育・木育</li><li>□ 木造建築</li><li>□ 木工</li><li>□ 自然・科学</li><li>□ 情報・ビジネス・コミュニケーション</li></ul>								
目的	森林施業フ	森林施業プランナーに必要なスキルを身に付ける。								
概要	技術者育成	技術者育成研修の「施業プランナー研修」の一部に参加する。								
項目	5月27日 森林経営の 7月29日 ITを活用し 8月26日 日標林型と 9月30日 早架線日 11月4日 生産 11月4日	かたたいないというなが、おおおおいまでは、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに	)目標で 引計 の の ト 技 は シ	´年間必要事業量の把 ₹/プレゼンテーショ	集手法 の検討 演習) 握/施業		)作成			
テキスト 参考書	参考書:「恭	林施業	ぎプラン	·ナーテキスト基礎編	Ţ					
事前履修科目	森林経営、森	林政策	・森林	計画、森林情報						
評価方法	出席および受	講態度	Ę							
関連する資格										
注意事項										

7	 科 目		担当者(〇主担当)							
市場経済と材	業経営 [奇数年	度] 〇 杉	<b>岁本和也</b>							
授業方法	講義	開講時期	後期	時間数	30	レベル	発展Ⅱ			
カテゴリ	□ 共通(必須) □ 木造建築	□ 林業	□ 森林環境教 □ 自然·科学		ネス・コ	ミュニケー	ーション			
目的	地域外の経済と	の関係を理	隊林資源育成・公 閏解しなければな ひいて理解する。							
概 要	製材加工業とし から捉えた上て	いった各プレ き,どういう	Fのつながりを考 シーヤーが置かれ A 経営戦略を立て ディスカッション	ている現状をミ るべきか考える	クロ・ 。授業	マクロな	視点			
項目	テ( 3テか(は(経5テ材((組等7テー例) ~ー?例?例済~ーか例例合)~ーマ) ・6マ?) は8マ()の日例市例 林 森営戦例 林組 業こ例の本)場) 業 林的略) 業織 活れ) ににににいる。 ににいる。 またりの またり	「有経外受済林 お 有ラ中林 事態 にら林者済材講の業 け 者ンで業 者( どの業立経輸そでプ 垂 森を組求 モ人 よ業国域 の・を また の に で し し に 材と に が と に す き れ り き れ り き で か と に す と に す き れ り き で か と に す と に す と に す と に す と に す と に す と に す と に す と に す と に す と に す と に す と に す と に す と に す と に す さ い か こ で に す と に す か こ こ に す と に す と に す と に す と に す と に す と に す と に す さ い か こ こ に す と に か ま に か と に か と に か と に か と に か と に ま 国 と に か と	おいっぱい かいっぱい かいっぱい いいっぱい はいいっぱい はいいっぱい はいいっぱい はいいっぱい はいいっぱい はいいっぱい はいいっぱい はいいっぱい はいいっぱい はいいい いいっぱい はいいいい いいっぱい はいいい いいっぱい はいいい はいい	た?の マ の 事かムネ つ所 か を森 義 ケ 味 体 築り め者 ・	特どのト業かが材とった業かが材まれている。	: は? が	、と ) 、 、 、 森林			
テキスト 参考書										
事前履修科目										
評価方法	出席、講義への	参加点、レ	/ポート							
関連する資格										
注意事項										

<b></b>	当 目	担当者(〇主担当)					
木材	の販売戦略	〇 伊佐治彰祥 非常勤講師					
授業方法	実習開講	   時期   前期   時間数   30   レベル 発展 II					
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ □ 木造建築 □	林業 □ 森林環境教育・木育 木工 □ 自然・科学 □ 情報・ビジネス・コミュニケーション					
目的		ニ流側が、木材を加工販売する下流側のニーズや問題点を充 ☑的で、生産性の高い木材生産につながるヒントを見つけ出 る。					
概要	どを把握し、新たな	岐阜県での木材販売の実績から、流通の仕組みや現況、素材生産での問題な を把握し、新たな販売戦略の結びつく発想と企画力を身につける。これまで プロダクトアウト的発想から、マーケットインによる販売転換の方策をさぐ 。					
項目	テムと なる。 たB材やC材の まで まがいる。 をでは、 をでする。	をとなる人工林の蓄積量や素材生産量、原木市場、直送シス やび、製材用A材の製材・乾燥・製品流通と、現在抱える問題 の用途としての合板や集成材、チップ、ペレットに至る分野 の用途としての合板や集成材、チップ、ペレットに至る分野 の事態を考える のよう。 のもまる。 のは、大型製材工場を見据えて、「新たな販売 である。 のでの資産性向上の取り組み、林地での木材の仕分 のは、木材搬送の現実を知る。					
テキスト 参考書	配付資料						
事前履修科目	なし						
評価方法	出席とレポート、扱	是案事項で評価					
注意事項	なし 野外活動できる服装	きで参加すること					

<b>1</b>	科 目				;	担当者	首(〇主担	当)		
木材生産	をシステムの応り	Ħ	O #	彡本和也						
授業方法	実習	開講	時期		前期		時間数	30	レベル	発展Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建第		林業 木工	□ 森林			育 情報・ビジ	ジネス・⊐	ミュニケー	ーション
目的	現場の事例見				を営者が	らの	ヒアリン	グを通じ	て、生産	逢シス
概 要	作業システクメリットを到の配慮や川口営者から話る	里解する Fへの供	。また 給体制	:各現場で  に対する	での経済 検討結	的な	合理性だ ついても	けでなく 、現場 <i>σ</i>	, 森づぐ )リーダ-	くりへ
項目	主行 予 ・作作 ・タ ・川 にき 定 車業業 架ワ サ下 内生 て 系を行 系ヤ ラの や産 い で開っ でー イ直	ン ス 見 素しい 素や エ 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	の 容 産ラ場 産機 の観 と シッ シな 中察 し スプースど で	や、現場 て よい で よい で よい た 、	まのリー シング・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ノーダー・	や経営者:など車両:	からの診 系林業機 作業を行	説明を聞く	5搬出
テキスト 参考書 事前履修科目										
事 削 履 修 科 日 評 価 方 法	出席、レポ-									
関連する資格	山市、レバー	17								
注意事項										

7	科 目				担当	者(〇主担	当)		
架線集	集材指導実習		O #	乡本和也 池戸秀隆	<u> </u>	伊佐治彰	祥		
授業方法	実習	開講	時期	後期	玥	時間数	30	レベル	発展Ⅱ
カテゴリ	口 共通(必須 口 木造建築		林業 木工	_ 444 11 444			ジネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	経営計画の立 術水準や現状 行うことで、	代の技術	īレベル	について把	握するこ				
概 要	エンジニア科 ることで, 付 についても学	ネ採▫搬							
項目	エ ・・・ を で で で で で で で で で で で で で で で で で	見の手配 、員配置 所の習得 )気配り	ያ の検討 ⊧	t		の実習に	おいて、		
テキスト 参考書									
事前履修科目	林業架線								
評価方法	出席、レポー								
関連する資格	林業架線作業	<b>詳習</b> 修	了証書	機械集材	装置運転	<b>云特別教育</b>	修了証		
注意事項	◆Iゴレスコー コードで臨む		導中に	チェンソー	を用いる	らため、チ	・ェンソー	-用のドし	ノス

<b>7</b>	斗 目				担当者	f(O主担	当)		
パーマカ	ルチャー実習(	1	O #	荻原裕作 非常勤講師					
授業方法	実習	開講	時期	前期		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建領	-	林業 木工	■ 森林環境報 □ 自然·科学			<b>ジネス・</b> □	ミュニケ-	ーション
目的	ルチャー」(	のアイテ	゙゙アをも	で生まれた持っとに、実際に ) 基本理念を学	アカデ	ミー内の			
概 要		生として		きな暮らしを提り いせない持続可					
項目	う 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	触 カカ念よ亰ン値で えれ ルル 理す物の りな チチ るの作 ちゃゃ 医業 ほ	ド・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	きまれた理由と	ます。		すが基本	on in	Fのよ
テキスト 参考書				、門」(家の光協 日給自立の農的		こ <b>~</b> 」(倉	森社)		
事前履修科目									
評価方法	出席・授業第	態度をも	とに評	価します。					
関連する資格									
注意事項				ロテージでの合 、代等の実費が			す。		

1	科 目				į.	旦当者	(〇主担	1当)		
環境教育フ	プログラム体験	実習	○栽	<b>灰原裕作</b>						
授業方法	実習	開講	時期		前期		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	口 共通(必 口 木造建)		林業 木工		環境教 •科学			ジネス・コ	コミュニケー	ーション
目的	代表的なア 対象に自分 ティーの特	が指導し	てみる	経験を終	繰り返す	ことで	で、それ	ぞれのこ	アクティし	
概 要	環境教育や まずは体験 せて適切に	してもら	います	。将来的	りにはそ	の経験	倹をもと	に対象	皆や状況(	
項目	ネイアー	ラム体験 チャーケ	: : :ーム/ .ケーシ	く項目で プロジェー・プロング 他	ンクトワ	イルI	ř			
テキスト 参考書	授業内で随	時紹介し	ていき	·ます。 						
事前履修科目		1.65	==							
評価方法	出席・授業	内態度・	習熟度	などをも	とに総	合的に	に評価し	ます。		
関連する資格										
注意事項	活動しやす ナイトプロ				で実習	を行う	う日もあ	ります	(任意参加	。 (10

;	科目			担当	者(〇主担当	)		
ESD·森林環	境教育·木育·IP概論	0	松井勅尚 嵯峨創平	/	萩原裕作	/	原島斡	典
授業方法	講義開調	睛時期	前期		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	] 林業 ] 木工				ネス・=	コミュニケ-	ーション
目的	ESD・森林環境教育 り巻く様々な概念							化を取
概要	ESD・森林環境教育 る教育普及活動を る。中には、都道 して整理する。	准し進め	<b>かる場合、その</b>	基本的	]概念を理解	してま	らく必要が	があ
項目	1. ガ 2. 本 7 2. 本 7 3. 概 0 3. 振り 3. 振り 3. まり	リテーシ	ション)					
テキスト 参考書	資料を配布 							
事前履修科目								
評価方法	出席・レポート							
関連する資格								
注意事項								

7	科 目			担当者(O主	担当)		
里山の整備	と遊歩道づくり体験	〇萩	原裕作 原島幹典				
授業方法	実習開調	時期	後期	時間数	为 15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	│林業 │木工	■ 森林環境教 □ 自然·科学		<b>ごジネス・</b> :	コミュニケー	ーション
目的	「環境教育指導者の 演習林内に階段や 出して、利用する	遊歩道、:	土留めをつくし	ります。森の:	木を選んで		
概 要	インタープリター 整備したり、その ります。手作業に てもらうことがね	整備活動 よる整備	自体を教育プロ を体験すること	コグラムにし	たりする?	ァースがき	多々あ
項目	以下の点に の は は は のの の の の の の の の の の の の の	方法	,, .				
テキスト 参考書	出席・授業態度・)	以未初な	とどもとに総合	コガル 計価 し	<b>より</b> 。		
事前履修科目	「環境教育指導者の	りための <sup>ん</sup>	伐木&搬出体馬	<b>负(人力)」</b>			
評価方法	出席・授業態度・)	成果物な	どをもとに総合	ら的に評価し	<u></u> ます。		
関連する資格							
注意事項	林内で土木作業する	る装備で	来て下さい。				

7	は 目		担当者(〇主担)	当)		
	ための伐木&搬出体験(人力)	〇 萩原裕作 原島幹典				
授業方法	実習開講	時期 後期	時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □		数育・木育 学 □ 情報・ビシ	ジネス・コ	コミュニケ-	ーション
目的	する体験をします。	ド、手ノコや斧で伐倒 ここで伐り出したオ 日林内に階段や遊歩道	でを使って「里山の	の整備と	上遊歩道~	
概 要	り、その森林整備活	▷環境教育指導者は、 岳動自体を教育プロク 整備を体験することで ぎす。	ブラムにしたりする	るケース	スが多々な	ありま
項目	以  の  は  の  は  の  の  は  の  の  の  の  の  の	7法 情するにあたって)				
テキスト 参考書						
事前履修科目						
評価方法	出席・授業態度・成	<b>は果物などをもとに</b> 総	総合的に評価します	<i>f</i> 。		
関連する資格						
注意事項	林内で土木作業する 	装備で来て下さい。				

1	料 目				担	当者	f(O主担	当)		
環境教育指導者の	ための伐木&搬出体験	(機械)	〇春	荻原裕作 杉本和七	1 /	,	池戸秀隆	Z Ē		
授業方法	実習	開講	時期	前	胡		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須 □ 木造建築		林業 木工	■ 森林環 □ 自然•和		•	• •	<b>ジネス・</b> =	ミュニケー	ーション
目的	多くの林業現場に、演習林内 木、搬出を体験	で行わ	れるエ	ンジニア科						
概 要	森林環境教育 作業だけでな を体験してお らいます。	く、多	くの林	は業現場で行	われて	こいる	る機械を	使ったに	は木&搬と	出作業
項目	以 〇〇〇〇〇	明 業の方 る伐木	法	定です。	学					
テキスト 参考書	授業内で適宜	紹介し	ます。 							
事前履修科目										
評価方法	出席・授業態	度をも	とに総	合的に評価	します	٠,				
関連する資格										
注意事項	林内で土木作	業する	装備で	き来て下さい	60					

1	科 目			担当者	f(O主担)	当)		
環境教育指導	尊者のための手工具	O #	公井勅尚 萩原裕作					
授業方法	講義·実習開講	時期	前期		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業 木工	■ 森林環境: □ 自然·科学			ジネス・=	ミュニケ-	ーション
目的	木を「切る」「つな 得することを目的と		術と身体の関	係を本	格的な道具	具箱をつ	つくりなか	がら習
概 要	道具は身体の延長でた、道具は文化であ フコギリ・玄能につ	うり、人	、類の正の蓄積	である。				
項目	1. 2. 道両両玄玄ののののは、 1. 本とフリーのののでは、 1. が 4 とのののでは、 2. 道両両式をできる。 2. 道両両式をできる。 3. 道関ののでは、 3. 振りののでは、 4 には、 4 には、 4 には、 5 には、	本的使 おの名 法 下と構造	語用法 i称と構造					
テキスト 参考書								
事前履修科目								
評価方法	出席プレゼンテーシ	/ョン						
関連する資格								
注意事項	作業しやすく、危 ・動きやすく滑りに			準備する	る。			

7	科 目				担当者	首(〇主担)	当)		
グリーン	νウッドワーク Ι		00	ス津輪雅 萩原裕作					
授業方法	実習	開講時	期	前期		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必: □ 木造建築						゚ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的				史、技術、道』 具の扱い方を』					スプー
概要	て小物や家具	具を作るオ よぐ手段、	トエの 木エ	ばれる、人力の 人気が高まっ を楽しむ手段の 制作する。	ている。	o			
項目	2,3 スプーンの制 4,5 スプーンの制 6,7	刊作(クサ 刊作(削り 刊作(ナイ	ナビ・ リ馬、 イフ、	講義 (歴史、 i 東 ・ オ ・ カ ・ カ ・ カ ・ カ ・ カ ・ カ ・ カ ・ カ ・ カ	ノなど. など削	、割る道具の値	具の使用 使用法)	月法)	
テキスト 参考書 事前履修科目									
事 削 復 修 科 日 評 価 方 法	出席、作品拼								
関連する資格	1 14 m v 1 F 11 11 17	сш							
注意事項		(滑りにく	くい靴	服装を各自準(		>			

1	科 目				į	旦当者	O主担	.当)		
森	で過ごす		〇 <b>莉</b>	· 灰原裕作						
授業方法	実習	開講	時期	往	<b></b>		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必: □ 木造建築	-	林業木工	■ 森林				ジネス・コ	コミュニケー	ーション
目的	アカデミーの 自然と自分と る学びのねら	のつな	がりに	気づいた	りする					
概 要	環境教育やオ験してもらう 体験の重要性	うことで	指導者	として重	要な感					
項目	<ul><li>() () () () () () () () () () () () () (</li></ul>	その(ごそ見トの夜一中小すべるな存とを)でさる し在朝つ	ひな でをのく 歩体生る	で過ごすらほ乳類	まで) まで) の入れ			する		
テキスト 参考書	授業内で随時	がいし	<b>よす。</b>							
事前履修科目										
評価方法	出席・授業態	度など	をもと	に総合的	に評価	します	す。			
関連する資格										
注意事項	野外で活動す 状や、各種で									

1	斗 目		担当	省者(〇主担当	<b>á</b> )		
森林環均	竞教育現場訪問1	0	萩原裕作				
授業方法	実習	開講時期	後期	時間数	30	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須 □ 木造建築	) □ 林業 □ 木工	■ 森林環境教育・ □ 自然·科学	・木育 □ 情報・ビジ	ネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的	り、あるいは「	フークショ・	らゆっくりとお話を ップを行ったり…。 の手でつかんでもら	その場に合れ			_
概要	林空間利用を見	見ると共に、 ウ、現状と	ブスクール、森林環: 、そこで活躍してい。 課題を聴くことで、? います。	るプロの方か	いら、生	き方や	哲学、
項目	自び (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)	のイメージを で引き出す。 営形態 の重要性 でシゴトを 部分	要か	す。ゲスト請 らいたいと思	けいます	oより多 <sup>、</sup> -。	
テキスト 参考書	授業内で随時網	ил Саус					
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態原	度などをもん	とに総合的に評価し	ます。			
関連する資格							
注意事項	ジュールによっ	っては授業Ⅰ	費や食費実費がかか。 日が変更したり週末 表示時間数を遥か	や休日にかか	<b>いったり</b>	する場合	

1	斗 目	担当者(〇主担当)					
森林環均	竞教育現場訪問2	O #	<b>荻原裕作</b>				
授業方法	実習開講	時期	後期	時間数	30	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	│林業 │木工	■ 森林環境教育・ □ 自然·科学	・木育 □ 情報・ビシ	<b>ジネス・</b> =	ミュニケー	ーション
目的	り、あるいはワー	クショッ	ゆっくりとお話を プを行ったり…。 手でつかんでもら	その場に合			_
概要	林環境教育現場を   ているプロの方か	訪れ、多 ら、生き	」と同様、自然学 種多様な森林空間 方や哲学、運営の なや具体的なイメー	利用を見る。 ノウハウ、st	と共に、 現状と語	そこで? !題を聴・	舌躍し
項目	自らの卒業後のイガを自分の力で引送を自分の力で引送を 多様な運営形質の重要のである。 この業界でも、 感覚的な部分	メき 態要ゴ や現こがす を 動は必ず か何要	「現代社会の中でう <sup>®</sup> Jか Eか	す。ゲストi らいたいと	講師から 思います	oより多 <sup>・</sup> 。	
テキスト 参考書	授業内で随時紹介	し <b>より</b> 。					
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度な	どをもと	:に総合的に評価し	ます。			
関連する資格							
注意事項	ジュールによって	は授業日	で食費実費がかか が変更したり週末 表示時間数を遥か	や休日にかれ	かったり	する場合	

7	料 目		担	旦当者(C	主担当	)		
簡易製材(ラ	チェンソー製材)体験	〇萩	原裕作 伊佐治彰祥					
授業方法	実習 開講	時期	前期	時	間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業 木工	■ 森林環境教 □ 自然·科学		⊌・ビジ	ネス・□	ミュニケ-	ーション
目的	演習林内で行われる 使った簡易製材の体 ムを活用した環境教	験をして	てもらう。体験	後、ふり	かえり	と共に	こ、このシ	
概要	森林環境教育・木育 木が木材になる過程 ソーを使った簡易動 験をすると共にプロ	≧」を体馴 ÿ材を実際	験するほど分か 際に体験するこ	りやすい とで、指	方法は 導者と	他になして欠	い。チェ	ェン
項目	<ul><li>○ 機械の説ま</li><li>○ 公 会様</li><li>○ 公 会様</li><li>○ 公 会体</li><li>○ 公 会体<td>こついて</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></li></ul>	こついて						
テキスト 参考書	授業内で随時紹介し 	, まり。 						
事前履修科目								
評価方法	出席・授業態度など	きもとり	こ総合的に評価	します。				
関連する資格								
注意事項	演習林内で作業を行	ー える装f	 備で参加してく	ださい。				

<b>7</b>	斗 目				担当者	f(O主担:	当)		
パーマカ	ルチャー実習	2	〇 <b></b>	灰原裕作 非常勤講師					
授業方法	実習	開講	時期	後期		時間数	30	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建領		林業 木工	■ 森林環境特 □ 自然·科学			<b>ジネス・</b> =	ミュニケ-	ーション
目的	インし自ら	の手で作	ョ゙り上け	イデアをもと 、その後も維 的に学んでも	持管理、	観察を組			_
概 要		生として	は欠か	な暮らしを提 せない持続可 学びます。					
項目	う ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	触 カカ念は原ン植で   えれ ルル   理す物の   りな チチ   るの作   お キャ   関業   ほ	ド・プログラ ほうかい は とが は 生	まれた理由と	ます。	らの課題			
テキスト 参考書	立の農的暮	らしに~	~」 (創	、門」(家の光協 森社)、「パー <sup>・</sup>					日前日
事前履修科目	パーマカル・								
評価方法	出席・授業	態度をも	とに評	<u>'</u> 価します。					
関連する資格									
注意事項				ー内コテージ 、代等の実費が			こなる予	ら 定です。	

<b></b>	斗 目		担	当者(〇主担)	当)		
森のよう	うちえん実習 ②	0	萩原裕作				
授業方法	実習開	講時期	通年	時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ 木造建築	□ 林業 □ 木工	■ 森林環境教育 □ 自然·科学		シネス・=	ミュニケー	ーション
目的	が実施する森のよ	うちえん	助している野外自主 ル活動の現場で子と Dフィードバックか	ごもたちや森と	と直接向	]き合う「	
概要	通して感じてもら	うと同時	)舞台となる森林空 寺に、将来森と関れ )手法や大切にした	っる人間として	て重要な	こ「森づく	くりの
項目	実す	は んん能意 受ういなた 多 との性味 け動るがで ときもる ほ	かる、見守るとは Dとは				
テキスト 参考書	授業内で随時紹介	しまり。					
事前履修科目							
評価方法	出席・授業態度な	どをもと	:に総合的に評価し	ます。			
関連する資格							
注意事項		1日は、里	上、参加日を調整し 予外で活動できる服 ごさい。				

<b>1</b>	科 目		担当者(〇主担当)								
環境教育プロー	グラム指導 基礎	楚実習	O #	荻原裕作	<b>=</b>						
授業方法	実習	開講	時期		通年		時間	引数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必刻 □ 木造建築		林業 木工		林環境 然•科等			・ビジ	ネス・コ	ミュニケ	ーション
目的	代表的なアク る経験を繰り 注意点などを	返すこ	とで、	それぞ	れのア						
概要	「環境教育ブ ティー(プロ きるようにな	グラム	、) を、	対象者							
項目	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	ム実践 たプロ ムのア ムのメ	。 Iグラム Iレンジ リット	›(対象 · • デメ	者や自 リット	分に合	合わせる			まに実践	
テキスト 参考書	授業内で随時										
事前履修科目											
評価方法	授業内で随時	紹介し	ていき	ます。							
関連する資格											
注意事項	プログラム実 たり、時には に担当教官と	週末(	(休日)	に授業	をする						

<b></b>	斗 目			担当者	(〇主担	当)		
自然体験活動実習	(キャンプカウンセラ一体験)	〇 <b></b>	· 灰原裕作					
授業方法	実習開講	時期	通年		時間数	30	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業 木工	■ 森林環境教 □ 自然·科学			<sup>ジ</sup> ネス・=	ミュニケー	ーション
目的	森林文化アカデミー して、異なる年齢へ に必要な技術や感覚	の向き	合い方や、様々	々な状況	でのぼ			
概 要	森林空間を活かしたな現場での知識や抗方」ができるように	技術、そ	して対象年齢	や状況毎				
項目	以 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	を	さと課題 (方) ( 「 た対にしたい。	٤-	ます (あ・	くまでー	一部)	
テキスト 参考書	授業内で随時紹介し	ノしいさ	' <b>Љ</b> У 0					
事前履修科目	救急法講習1							
評価方法	出席・授業態度・習	割熟度な	どをもとに総合	合的に評	平価します	f。		
関連する資格								
注意事項	実践のために時には	<u></u> よ週末(	(休日) に授業を	をするこ	ともあり	<u>ー</u> ります。		

į	料 目		担	1当者(O主担当	<b>á</b> )		
森林空間利用	用プログラムと事業化	0	嵯峨創平				
授業方法	実習開	構時期	通年	時間数	30	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) [ □ 木造建築 [	□ 林業 □ 木工			ネス・=	コミュニケ-	ーション
目的	森林空間を利用し	た(林美	業以外の)事業化■	手法について学	きぶ。		
概要	森林空間の多面的 グラム実施してい る。						
項目	冒険の森、ロング	トレイ)	レ、森のようちえん	ん認証制度、信	Eか		
テキスト 参考書	授業中に参考資料	ノリン	トを配仇する				
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

7	 科 目			担当者(〇主	担当)		
地域の	暮らしを考える	0	原島幹典 非常勤講師				
授業方法	実習	開講時期	通年	時間数	数 30	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ 木造建築	□ 林業 □ 木工	■ 森林環境教 □ 自然·科学		<b>ごジネス・</b> =	ミュニケ-	ーション
目的			域の活性化策とし その現状と課題				
概 要			・棚田保全・草刈 者の視点を持てる			都市農∟	山村交
項目	活動への参加 2. 揖斐川町貝原 の参加 3. 過疎地域にる	原地区にお	ける「 ボランテ は が が が で の 古 が が の で が の で が の で の の に が の の の の の の の の の の の の の	ナー制度」等 ィア活動を主	まによる交 を体的に実	流・保全 施	活動へ
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項	│ 見学(山林)( │ │	コードNo.5	)/実習一般(	コードNo.1)			

<b></b>	斗 目		:	担当者	(〇主担:	当)		
グリーン	√ウッドワーク II	O 久	津輪雅					
,, -	,,,,,,		萩原裕作					
授業方法	実習開講	時期	後期		時間数	30	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	<ul><li>□ 共通(必須)</li><li>□ 木造建築</li><li>□</li></ul>	林業 木工	■ 森林環境教 □ 自然·科学			<b>ジネス・</b> =	ミュニケ-	ーション
目的	グリーンウッドワー リーンウッドワーク 手段、誰にも楽しめ	のさま	ざまな可能性	(小径オ	トの有効液	舌用、柔		
概 要	グリーンウッドワー は、材料となる樹の 業を体験する。 樹の伐採は、和傘部	)伐採か	ら、加工、組み	が立て、	仕上げ	こ至るま	で、一道	重の作
項目	1, 2 グリーンウッドワー 3, 4, 5, 6 材料の調達(エゴノ 7~14 スツ 太 回 い が は い が は か が が が が が か が が か が と 仕上げ 15, 16 座面の編み	キプロ  り馬・  人力の   <b>×</b> 率のコ	ジェクトへの参 センによる削り 道具によるホン	・加) リ方)	2、技術、	道具、	適材など	<u>:</u> )
テキスト 参考書								
事前履修科目								
評価方法	出席、作品提出							
関連する資格	/ <u> </u>		101	+				
注意事項	作業しやすく、危り ・動きやすく滑りに ・袖や裾の締まった	こくい靴						

;	科 目				担当者	f(O主担)	当)		
木工	木育教材開発		O #	公井勅尚					
授業方法	実習	開講	時期	後期		時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建			■ 森林環境教 □ 自然·科学			゚ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的		「地域 $\sigma$	)想いを	の道具であり、 ·如何に教材とし					
概 要	会を設定し	、それを	解釈し	ールドとして、 、教材開発を れを体験する	本験す	る。聞き耳	云統、戈 又り〜教	て化等を知 対開発~	□る機 ~プレ
	○ガイダン	ス(教材	けについ	て)					
	〇現地聞き	取り(ワ	ノールド	カフェの手法)	١				
	○学内プレ	ゼンテー	-ション	,					
	〇教材制作								
	〇現地審査	会							
項目									
テキスト	はじめて	 の太育	(黎昭聿	:臣)					
参考書	12 007 0	07小月	(黎明盲	· 1/5 /					
事前履修科目	   11.e± → 1	12	· - ·						
評価方法 関連する資格	出席・プレ	センナー	-ンョン	,					
対性)の具作									
注意事項									

į	科 目			担当者(0	D主担当	<b>á</b> )		
木工木	育講座の基礎 I	〇 松	公井勅尚					
授業方法	講義·実習 開講	時期	後期	田	<b>計間数</b>	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業 木工				ネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的	「木育」とは、すへ 組みである。この技 的に考えられる人で	受業では	、暮らしを舞台	台とし、ノ	人と木や			
概要	みの木育寺子屋等を とし木育プログラム に学ぶ。家族を対象	」の企	画~講座実施る	までをスク	タッフと			
項目	〇ガイダンス(木育〇 親子木育講座「	- , , , , , , , ,				堂		
テキスト 参考書	はじめての木育(豺	黎明書房	)					
事前履修科目								
評価方法	出席・プレゼンテー	-ション						
関連する資格								
注意事項								

7	料 目	担当者(〇主担当)	担当者(〇主担当)				
木工木	育講座の基礎 Ⅱ	〇 松井勅尚					
授業方法	講義·実習開講	接時期   後期   時間数   15   レベル   基礎	楚Ⅱ				
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	] 林業 ■ 森林環境教育・木育 ] 木工 □ 自然・科学 □ 情報・ビジネス・コミュニケーショ	ン				
目的	組みである。この技	べての人が「木とふれあい、木に学び、木と生きる」 取り 受業では、暮らしを舞台とし、人と木や森との関わりを主体 づくりの基礎を学ぶことを目的とする。	•				
概 要	しを舞台とし木育っ	I 工房等を実践の場とし、木と人との関係を問い直す「暮ら プログラム」の企画~講座実施までをスタッフとして実習 、家族や大人を対象とした講座を体験する場を提供する。	ວ				
項目		A I 工房(レッジョ・エミリア・アプローチ「レミーダ」 7 プローチ)や、みの木育寺子屋をフィールドとして企画運営					
テキスト 参考書	はじめての木育(豺	黎明書房)					
事前履修科目	出席・プレゼンテー						
評価方法関連する資格	田席・ノレセンテー	ーション 					
関連 9 る質格 注意事項	開催日は休日とな	なる。					

科目					担当	当者(〇)	E担当	)		
自然体験の	企画と指導(	実習)	〇 <b>莉</b>	<b>灰原裕作</b>						
授業方法	実習	開講	時期	ji	鱼年	時間	数	15	レベル	発展I
カテゴリ	□ 共通(必		林業 木工		環境教育・ 科学		・ビジ	ネス・=	ミュニケー	ーション
目的	アカデミー ジなどのイ 要な知識や	ベントの	ディレ	クターと	して活動	すること	で、	現場を	きまわすの	
概 要	森林環境教 準備、運営 躍できるだ	のために	必要な	知識や技	術を習得 <sup>·</sup>					
項目	<ul><li>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○</li></ul>	のや 段にクフと 取寄ーの関	)共有 シの設定 ふう企画 シ役割	!	く予定で <sup>·</sup>	す。				
テキスト 参考書	授業内で随	時紹介し	ていき	<b>ます</b> 。						
事前履修科目	自然体験活	動実習	(キャン	゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚	セラー体!	験)もし	くは	同等の	)経験	
評価方法	出席・授業	態度・習	割熟度な	どをもと	に総合的	に評価し	ます	0		
関連する資格										
注意事項	放課後や休	日(祝日	一日)に活	動するこ	とが多々	あります	۲.			

<b>利</b>	斗 目		担当者(〇主担当)							
森のよう	ちえん指導実習	〇素	· 灰原裕作							
授業方法	実習	開講時期	通年		時間数	15	レベル	発展I		
カテゴリ	口 共通(必須) 口 木造建築	□ 林業 □ 木工	■ 森林環境教 □ 自然·科学			<sub>ジネス・コ</sub>	ミュニケー	ーション		
目的	アカデミーの演 や、出前森のよ んの現場をまわ	うちえん体	験の現場で指	尊者とし	て関わ					
概 要	「森のようちえ 必要な技術や感						指導者と	こして		
項目	<ul><li>○ 森林空間の</li><li>○ 子どもたち</li><li>○ 自由と勝手</li><li>○ リスクマネ</li></ul>	項目は多種 え可を の性 が サンで シンで シンで シースで シースで シースで カースで カースで カースで カースで カースで カースで カースで カ		主に以下	_					
テキスト 参考書	授業内で随時紹	<b>パします</b> 。								
事前履修科目	森のようちえん	実習救急法	講習 1	ŧl	くは同	等の経験	やスキノ	<b>ν</b>		
評価方法	出席・授業態度	などをもと	に総合的に評価	西します	•					
関連する資格										
注意事項	担当教員に事前 の制限アリ。休 活動できる服装	日、祝日に	実習が行われる	ることも	ありま	す。参加	1日は、里	予外で		

7	斗 目			担当者	f(O主担	当)		
里山プロジェ	クト実習1(薪・粗朶)	〇柳		/	玉木一郎			
授業方法	実習開講	時期	後期		時間数	30	レベル	発展I
カテゴリ		林業 木工	■ 森林環境 □ 自然·科学			ジネス・=	ミュニケー	ーション
目的	里山は昭和30年代に 用が停止して現在に 然を新たに管理・流	こ至ってし	いる。それに	より質	的な変化る	を生じて	こいる里山	
概 要	里山における粗朶の し、粗朶の生産が 性について学ぶ。ま 生産現場で古くて新	ᡛ山林の⅓ また、里↓	整備や、河川 山林のバイオ	での生!	物多様性の 用として重	D保全に 重要な新	こつながる	る可能
項目	1. 粗朶生産現場の 2. 粗朶を利用した		事現場の見学	!(河川.	工事・圃場	易整備等	F)	
テキスト 参考書	エコロジーガイド	里山の自	然(保育社)					
事前履修科目	樹木同定実習							
評価方法	出席							
関連する資格								
注意事項								

1	科目					担当:	者(〇主	担当)			
里山プロジェクト実	ミ習2(里山林の管理と村	直生)	〇柳	『沢直 津田	田格	/	玉木一	-郎			
授業方法	実習	開講時	期		前期		時間数	女	15	レベル	発展 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ 木造建築	口林口木			木環境。 太・科学		木育 □情報・比	ごジネ	ス・コ	ミュニケ	ーション
目的	里山は昭和30年 用が停止して現 然を新たに管理	在に至	至って	いる。	それに	より質	的な変化	化を生	Ξΰτ	いる里に	
概要	里山林の伐採跡 して行われた里 竹林の皆伐、材 況や、皆伐後の	山林 <i>σ</i> 利用 <i>σ</i>	D伐採 Dため	現場を のアベ <sup>ー</sup>	調査・ マキ択・	見学す 伐現場	「ること! まも踏査!	こより	学習	'する。;	また、
項目	1. コナラ林伐 2. アベマキ林							<b>皆伐</b> 後	その植	生調査	
テキスト 参考書 事前履修科目	エコロジーガイ     樹木同定実習	ド里	山の自	<b>目然(保</b>	<b>と育社)</b>						
事前腹疹科 <u>日</u> 評価方法	出席										
関連する資格	ш/т										
注意事項											

5	科 目		担当者(〇主担当)							
木工木	有講座の実践		〇 t	公井勅尚						
授業方法	実習	開講	時期	通年		時間数	60	レベル	発展 I	
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建第	-		■ 森林環境 □ 自然·科			ジネス・コ	ミュニケー	ーション	
目的		この授	受業では	が「木とふれ 、暮らしを舞 。						
概 要	ム」の企画~	∼講座実	[施まで	践の場とし、 を体験的に学 践の場を提供	が。女					
項目	1. ガイダン 2. 「回目 O 2 回目: り返り 3. 振り返り	k育カラ k育とは kでつく	t? <sup>-</sup>	回×5施設で	₹·も実習2	及びプロ	グラム開	発		
テキスト 参考書										
事前履修科目										
評価方法	出席・企画書	<b>事及び</b> 報	告書							
関連する資格										
注意事項										

į	料 目			担当者	f(O主担:	当)		
グリーン	νウッドワークⅢ	03	久津輪雅 萩原裕作					
授業方法	実習開講	時期	後期		時間数	30	レベル	発展I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □		■ 森林環境 □ 自然·科学			<b>ジネス・</b> =	ミュニケー	ーション
目的	講座の準備、運営、 ドワークの提供者と						グリーン	ノウッ
概 要	グリーンウッドワー ウッドワーク II の身						。グリ <b>-</b>	-ン
項目	1~16 の 管者 理補 助							
テキスト 参考書								
事前履修科目	グリーンウッドワー	-クⅡ	(又は過去のグ	リーン	ウッドワ-	ーク関連	<b>基科目</b> 履修	<b>多者</b> )
評価方法	出席、活動内容							
関連する資格								
注意事項	作業しやすく、危険 ・動きやすく滑りに 道具の数に余裕があ	こくい鞘	ヒ(サンダルは	禁止)	<ul><li>袖や</li></ul>		ミった服 E制作する	<b>5</b> 。

7	科 目	担当者(〇主担当)							
森林環境	教育プロジェクト1	〇和	<b></b> 灰原裕作						
授業方法	実習開講	時期	通年		時間数	60	レベル	発展 I	
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	│林業 │木工	■ 森林環境教 □ 自然·科学		-	<b>ジネス・</b> =	ミュニケ-	ーション	
目的	オープンカレッジ <sup>4</sup> 注目したプログラム 必要な感覚と技術を	ムやイベ	ントを企画・選						
概要	森林環境教育や木育 アントのニーズや料 るために自由な発力 感覚と技術を習得し	犬況に合 想で企画	わせながら、時 「・運営していく	手に は自	らの新た	こなアイ	′デアをヨ	実験す	
項目	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	とい	ュニケーション ! !とは :イターの役割		く予定さ	です。			
テキスト 参考書	授業内で随時紹介し								
事前履修科目									
評価方法	出席・授業態度・習	<b>習熟度な</b>	どをもとに総合	的に評	価しまる	<b>す。</b>			
関連する資格									
注意事項	担当教官からの提覧 イベントやクライフ 多々あります。								

科目			担当者(〇主担当)							
森林環境	教育プロジェク	<b>\</b> 2	〇 <b>莉</b>	· 灰原裕作						
授業方法	実習	開講	時期	通	年	時間数	60	レベル	発展 I	
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建翁		林業 木工	■ 森林環 □ 自然·		木育 コ情報・ビ	ジネス・コ	ミュニケー	ーション	
目的	オープンカし 注目したプロ 必要な感覚と	コグラム	、やイベ	ントを企画	፲・運営す					
概 要	「森林環境教 はクライアン を実験するが て必要な感覚	ントのニ ために自	ニーズや 目由な発	状況に合わ 想で企画・	せながら 運営して	、時には	自らの親	たなアイ	イデア	
項目	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	関アや 没こクフえ 題ンゴ 取寄タとり トー りりーの とル 添・関	この うク係 ここ	ュニケーシ とは イターの役	/ョン	こいく予定	です。			
テキスト 参考書	授業内で随い									
事前履修科目	森林環境教育	•	• •							
評価方法	出席・授業制	態度・習	割熟度な	どをもとに	総合的に	:評価しま	す。			
関連する資格										
注意事項	担当教官からイベントやクラクあります。	クライア								

Ŧ	科 目		担当者(〇主担当)							
木工木育諱	<b>排座の普及研修</b>	指導	O #	公井勅尚						
授業方法	実習	開講	時期	通年	-	時間数	60	レベル	発展Ⅱ	
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建築	-		■ 森林環均 □ 自然·科			<b>ジネス・</b> ⊐	ミュニケー	ーション	
目的	「暮らしを勢 指導者を養成			」を普及する 験・知識の				的とた研	开修で	
概 要	アカデミー生場とし、木と	:人との	)関係を	問い直す「暑						
項目		算者セミ 育寺子屋	-	の研修プログラッフ養成の		発				
テキスト 参考書										
事前履修科目										
評価方法	出席・企画書	ቔ • 報告	書							
関連する資格										
注意事項	木育指導者もみの木育寺									

<b>7</b>	4 目			担当者	新(O主担:	当)		
森林環境	教育プロジェクト3	〇莉	<b></b>					
授業方法	実習開講	時期	通年	:	時間数	60	レベル	発展Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業 木工	■ 森林環境 □ 自然·科			ジネス·=	ミュニケー	ーション
目的	今までの学びやアクジェクトを企画・選 す前に必要な感覚と	運営する	ことで、卒業	業後、ク	リエイタ-			
概 要	「森林環境教育プロリアでは、 切にした形の課題の 発想で企画・運営し 得してもらいます。	研究や卒 していく	業後の活動に	に焦点を	当てたプロ	ロジェク	7 トを、自	自由な
項目	この (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A)	レの設定		て 触れ て	いく予定 <sup>-</sup>	です。		
テキスト 参考書	授業内で随時紹介し	しいさ	<b>まり</b> 。					
事前履修科目	森林環境教育プロシ							
評価方法	出席・授業態度・習	割熟度な	どをもとに終	総合的に	評価しまる	す。		
関連する資格								
注意事項	卒業後を意識した な対象です。 放課後や休日(祝E		_			プロジュ	こクト提案	とが主

<b></b>	斗 目	担当者(〇主担当)								
森林環境	教育プロジェクト4	〇萩	原裕作							
授業方法	実習開講	時期	通年	時間数	60	レベル	発展Ⅱ			
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業 木工	■ 森林環境教育 □ 自然•科学		ジネス・=	ミュニケー	ーション			
目的	今までの学びやアブ ジェクトを企画・選 トライアルをしても	運営する こ	ことで、卒業後の							
概 要	「森林環境教育プロリたい!」と思うで らいます。									
項目	こよ 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	なことがに				現場や記	<b>思題</b> に			
テキスト 参考書	授業内で随時紹介し	<b>」ていき</b> 。 	<b>ます。</b> 							
事前履修科目	森林環境教育プロシ	ブェ <u>クト</u> :	3 もしくは同年	等の経験						
評価方法	出席・授業態度・習	割熟度なる	どをもとに総合的	的に評価します	す。 <u></u>					
関連する資格										
注意事項	自らの「やってみた 費、交通費、教材費 に活動することが多	等、実	豊がかかる場合:							

<b></b>	·····································	担	当者(〇主担当)								
CA	ADの基礎	〇 辻充孝									
授業方法	講義·実習 開講	時期 前期	時間数 15 レベル 基礎 I								
カテゴリ											
目的	自らのデザインを表現する図面を描く際、昔ながらの手書きかコンピューターを用いるCADを選択する必要がある。本講座ではCADの基本概念を理解し、CADの基本的な操作を習得することを目的とする。										
概 要	できる。		者でも正確で均一な線を描くことがに代わる道具としてのCADの基本操								
項目	第 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	コピ	トコマンド WindowsOS, MacOS, LinaxOS用 -トパソコンにインストールするこ								
テキスト 参考書	随時プリント配布 あると復習に便利な	以参考書 (1)									
事前履修科目	特になし										
評価方法	出席・取組姿勢など										
関連する資格	一級建築士、二級建										
注意事項	学内ネットワーク <i>0</i> きちんと起動できる	Dアカウントが必須 ること									

1	4 目		<b>‡</b> .	世当者(〇主担当	<b>á</b> )		
3	空間認識	〇 辻充	5孝				
授業方法	講義·実習開講	時期	前期	時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □		□森林環境教 □自然・科学	育・木育 □ 情報・ビジ	ネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的	身の回りを取り囲 的とする。 日常生活において				を認識	戦すること	とを目
概 要	設計する際、空間 あったイメージがて メージと実際の寸法	<b>ぎきない。</b>	そのため、身	の回りを取り囲			
項目	1. 風の円居でから、	きを計り、 ソージ -ジの即日	適切な大きさ 計画	をイメージ			
テキスト 参考書	特になし						
事前履修科目	特になし						
評価方法	出席・取組姿勢など	-					
関連する資格	一級建築士、二級建	<b>建築士、木</b>	造建築士				
注意事項	筆記用具を持参する	。 こと					

<b>1</b>	斗 目	担当者(〇主担当)
木造建乳	築計画の基礎 I	〇 廣田桂子 非常勤講師
授業方法	講義·実習開講	時期時間数15レベル基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □	林業 口森林環境教育・木育 木工 口自然・科学 口情報・ビジネス・コミュニケーション
目的		建築空間を計画するためのスケール感覚、そして建築空間 設計図を描いてみる。設計課題は地域の小型木造建築を設
概 要		身体から建築空間を計画するためのスケール感覚、計画アプ 図面化の技術取得を目標とする。
項目		描いてみる c立面から2−Dを学ぶ を描きながら3−Dを把握する 開口部を描き込む
テキスト 参考書	│ 「空間と要素をデサ │	デインする」F・チン
事前履修科目	無し	
評価方法	出席、レポート、図	図面、模型、プレゼンテーション
関連する資格	木造建築士、2級建	建築士、1級建築士
注意事項		F・ブック、テクニカル・ペン,クラッチ・ペンシル、ト パ−、カメラ、縮尺定規を持参の事。

<b></b>	斗 目	担当者(〇主担当)							
木の空間に	こおける人間工学 I	〇 <u>康</u>	蛋田桂子 非常勤講師						
授業方法	講義·実習開講	時期	後期		時間数	15	レベル	基礎 I	
カテゴリ		林業 木工	□ 森林環境教 □ 自然•科学			<b>ジネス・</b> =	ミュニケー	ーション	
目的	住環境の温熱、光、 官の動きを学ぶ。	空気、	音、等の環境	要因と、	これら	と関係す	<sup>-</sup> る生命約	推持器	
概 要	人間環境工学の知見 る。	しから、	木空間における	る人間に	工学の基準	本を学る	(事を目的	りとす	
項目	1. 2. 4. 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	環境							
テキスト 参考書	「人間工学ガイド」	福田忠	彦						
事前履修科目									
評価方法	出席、試験、レポー								
関連する資格	木造建築士、2級建								
注意事項	メジャー、スケッチ レーシング・ペーパ					ッチ・^	<b>ペンシル、</b>	۲	

<b></b>	斗 目	担当者(〇主担当)
木注	告建築環境	〇 廣田桂子 非常勤講師
授業方法	講義開講	時期 後期 時間数 30 レベル 基礎 I
カテゴリ	<ul><li>□ 共通(必須)</li><li>□ 木造建築</li><li>□</li></ul>	林業 □ 森林環境教育・木育   木工 □ 自然・科学 □ 情報・ビジネス・コミュニケーション
目的	環境の重要項目であ 事を目的とする。	ある光、空気、熱、エネルギー、水、風の知見を身に付ける
概 要	実例から、より多くした実例を集め、「	くの可能性と、建築環境設計の要点を学ぶ。自分の設計に適 Jスト化する。
項目	3. ランドスケー: 4. パーマカルチャ	環境建築:空気とエネルギーの活用方法 プと木造建築環境 ャー建築 5法:雑誌・インターネット
テキスト参考書	「健康と環境の工学	子」
事前履修科目		
評価方法	出席、試験、レポー	
関連する資格 注意事項	メジャー、スケッラ	<sup>建築士、1</sup> 級建築士 チ・ブック、テクニカル・ペン,クラッチ・ペンシル、ト パ−、カメラ、縮尺定規を持参の事。

7	料 目			担当者	(〇主担当	当)		
-	木質材料	Oŧ						
,	<b>小貝们析</b>							
授業方法	講義·実習開講	時期	前期		時間数	60	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □	林業 木工				ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	木材の特徴、性質、	木質材	料としての性能	能につい	いてを学ぶ	, , , ,		
概要	木材の特徴、性質、 実習(実験)と座与				ヽてを学ぶ	) <b>`</b> °		
項目	1 木材の特別の特別の特別の特別の特別の特別ではできます。 本材 は で で で で で で で で で で で で で で で で で で							
テキスト 参考書	逐次資料配布							
事前履修科目								
評価方法	出席、成果物、取り	り組み姿	势					
関連する資格	なし							
注意事項	事前にスケジュール 常に実習(作業) <i>0</i> 電卓(できれば関数	りできる	服装、運動靴。		ついて慣	れてお	くこと。	

;	科目		担当者(〇主担	当)		
木質	建材をつくる	〇 吉野安里				
授業方法	実習開講	時期 前期	時間数	30	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □		境教育・木育  学 □ 情報・ビ	<b>ジネス・</b> =	ミュニケー	ーション
目的	製材から木材加工を加工した材は、自力		に使用する。			
概 要	製材から木材加工す	きでを体験する。				
項目	1 製材 2 切削・プレーナ 3 接着加工 4 木材乾燥	一仕上げ				
テキスト 参考書	逐次資料配布					
事前履修科目						
評価方法	出席、取り組み姿勢	丸 				
関連する資格	なし					
注意事項	実習に相応しい身ま	<b>を度、運動靴、ヘル</b>	メット持参			

7	斗 目		担当者	≸(○主担当	<b>á</b> )		
3	<b>建築構法</b>	〇 小原	勝彦				
授業方法	講義·実習開講	時期	前期	時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □		森林環境教育·木 自然·科学 □	育  情報・ビジ	ネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的	建築物を建てる(生い。その建築生産の						
概要	建築物の主要構法との構法があります。 機能や性能、部材や について概説を行い	それら建築 5部品の構成	を物の躯体及び各	部の構法に	こついて	、要求	される
項目	一 会 は と は と は と は と は と に ま に ま に ま に ま と い と で ま ま と の ま で ま と の ま で ま を を ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	を え(- ((((((())、 一)、 () (((())、 () () () () () () () () () 、 ) 、	<b>ミ際の建築物の構</b> の荷重及び外力 クリート造、プレ 骨造、組積造、木 及び基礎) ) ) ) ) ) 部)	法について <sub>ノ</sub> ストレス	接して	こもらいか	たい。
テキスト 参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	なし						
評価方法	出席、試験、レポー	-トなど					
関連する資格	なし						
注意事項	なし						

Ŧ	斗 目			担	当者(〇	主担当	<b>á</b> )		
基礎をつ	つくる(自力建設	)	〇小	原勝彦 非常勤講師					
授業方法	実習	開講時	期	前期	時間	<b>引数</b>	60	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必) ■ 木造建築			□ 森林環境教育 □ 自然·科学		み・ビジ	ネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的	建築の基礎の	D設計、施	王の	基本を学びます。					
概要	伏図や詳細図 るために、自	I、加工図 I力建設建	など 物の	施工します。設計 を作成します。建 基礎工事を行いま ん達に指導を受け	建築の基 きす。基	礎のつ	くられ	かたをは	▲得す
項目	【基礎の設計 1. 基礎ののデ重ののデ重ののデ重ののデ重ののデ重のののデ重をののででである。 5. 基基礎のの配けのででででは、 6. 基礎のののででででいる。 7. 基準のののででである。 8. 基準のののででである。 8. またいのでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、またいでは、また	コ十タ拾造定のの図図か造し、カンジーおい区断算作ののら造し、測りた。 画面定成作作基計 定体 成成礎の	の 性説解解解 異	実習 実習		施する	, o		
テキスト 参考書	│ 随時プリン l │	~配布							
事前履修科目	なし								
評価方法	出席、レポー	-トなど							
関連する資格	なし								
注意事項	なし								

<b></b>	斗 目		担当者(〇主担当)						
墨付けと刻	み加工(自力建設)	OE	5野安里 非常勤講師						
授業方法	実習開講	時期	通年		時間数	60	レベル	基礎 I	
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □	林業 木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学			<b>ジネス・</b> =	ミュニケ-	ーション	
目的	木造建築の部材の代 う。大工技術の基礎 体得する。								
概 要	従来からの人力加コな加工機器を用いる		とした、木工事	₣を体態	験する。∶	墨付け、	手工具、	簡易	
項目	3 校外の専門技術 ※ 昨年度の日程	き 可物研さ 年の自 所者の指 (参考) で濃ひの	  力建設プロジョ  導のもとに実施  き製品流通協同	cクトI 色する。	こおける		-		
テキスト 参考書	逐次配布資料								
事前履修科目	なし								
評価方法	出席、取り組み姿勢	<u>丸</u>							
関連する資格	なし								
注意事項	事前にスケジュール エンジニア科2年林 常に実習(作業) <i>0</i>	産業コ-	-ス生と、刻み	、道具	、宿泊等	<b>手の準備</b>	をする。		

;	科 目				担当者	f(O主担	当)		
架構をつ	つくる(自力建設	)	Oi	土充孝 非常勤講師					
授業方法	実習	開講	時期	前期		時間数	60	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必 ■ 木造建第	-	林業 木工	□ 森林環境教 □ 自然•科学			<sup>ÿ</sup> ネス・=	ミュニケ-	ーション
目的	木造建築の部	部材のつ	くられ	いかたを、建てフ	うを通	して体得る	すること	を目的と	<u>-</u> す
概要	方」を行う。	校外σ	)専門職	こおいて加工され はによる指導のも も職人さんの指導	. ٤٠	共同作業(	こより身		
項目	【計材専集建上上夏画料門中で棟棟東の配(間の段集の配(間の段)	レゼリ ∇取 と σ ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )	)打ち合 週間)の	わせ )加工(道具直し	ン、 墨・	付け、刻る	み、仮糸	∄)	
テキスト 参考書	特になし								
事前履修科目		ケ売カル・「	*						
評価方法	出席・取組塗			十					
関連する資格 注意事項	一級建築士、 常に作業ので 常に安全を意	できる服	。 發装、運	不道建聚士   動靴、ヘルメッ	ット				

1	斗 目			担当者	(〇主担)	当)		
木i	告建築CAD	Οŝ	土充孝					
授業方法	講義·実習開講	時期	前期		時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □	林業 木工	□ 森林環境: □ 自然·科学			ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	線の持つ意味を考え	て、建	<b>禁設計図面を</b>	描けるよ	うにする	ることを	き目的とす	ける。
概 要	CADは使用する人 うだけである。その する。							
項目	自力理図面の作図 ・立面図 ・矩配置図 ・糖 ・構							
テキスト 参考書	随時、プリント配布	]						
事前履修科目	特になし							
評価方法	出席・取組姿勢など							
関連する資格	一級建築士、二級建	<b>建築士、</b>	木造建築士					
注意事項	特になし							

1	4 目		担	当者(O主担当	<b>á</b> )		
Ī	<b>計画演習</b>	〇辻	·				
授業方法	実習開講	時期	前期	時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □		□ 森林環境教育 □ 自然·科学		ネス・=	ミュニケ-	ーション
目的	設計条件を整理、 た時間内に考えをま					持に、設定	官され
概 要	主に木造住宅(類化)の条件のもと言用などのテーマを請	†画を行う	。また、動作	寸法や動線計画			
項目	与えられた 1. 15分 1. 長ン 1. シン 1. トー・ 1. シン 1. トー・ 1. トー	) ) ) 形 計 な 計 な 計 が は も は も も も も も も も も も も も も も	の中で計画する。 家族の生活をイ に構造をイメージ 意識し、外構を た設計	ことを念頭に入 メージする。 ジする。 イメージする。	れる。	†画する。	最終
テキスト 参考書	随時、プリント配布	ח					
事前履修科目	空間認識						
評価方法	出席、即日課題						
関連する資格	一級建築士、二級建	建築士、木	造建築士				
注意事項	筆記用具を持参する (色鉛筆、サインへ		「あると便利)				

<b>7</b>	は 目	担当者(〇主担当)						
木造建乳	築計画の基礎 Ⅱ	〇 廣田桂子 非常勤講師						
授業方法	講義·実習開講	時期 前期 時間数 30 レベル d	基礎Ⅱ					
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □	林業 □ 森林環境教育・木育 木工 □ 自然・科学 □ 情報・ビジネス・コミュニケーシ	ション					
目的		ド造建築の計画・設計を含む提案書つくりを学ぶ。課題に 设計計画、②公共建築物の改修設計の2つにより、地域材 る。						
概 要		ら基本設計の手法を習得する。又、建築言語表現の基本で こよる計画と設計の説明力をつける。	であ					
項目	1. た 2. こ 3. こ	カ学と構造 トルギーについて 近楽案 プレゼン 牧修案						
テキスト 参考書	│ 「地域デザイン」書 │ 「世界建築の歴史」	「防隆正 「建築の理論を築く」J・ラング B・フレッチャー						
事前履修科目		_						
評価方法		図面、模型、プレゼンテーション						
関連する資格	木造建築士、2級建							
注意事項		F・ブック、テクニカル・ペン,クラッチ・ペンシル、「 パ−、カメラ、縮尺定規を持参の事。	+					

1	科 目	担当者(〇主担当)						
木の空間に	こおける人間工学Ⅱ	〇眉	養田桂子 非常勤講師					
授業方法	講義·実習開講	時期	後期		時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □	林業 木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学			ジネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	実測実習を通して、 方法のトレーニング			の収集の	と分析方	法を学び	、データ	7活用
概 要	ヒューマンファクタ とを目的とする。	ローに注	∶目し、住まい≒	手に優	しい環境	設計の基	<b>、礎を深め</b>	かるこ
項目	1. 2. 4. 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	热環境 を計測す きを観察す とを実済	を計測する る Iする る Iする	3				
テキスト 参考書	「環境行動のデータ	・ノアイ	ル」高橋鷹志					
事前履修科目	木の空間における人	【間工学	· I					
評価方法	出席、試験、レポー	- <b>ト</b>						
関連する資格	木造建築士、2級建	<b>建築士、</b>	1級建築士					
注意事項	メジャー、スケッチ レーシング・ペー/					ッチ・ヘ	ペンシル、	٢

<b></b>	計 目	担当者(〇主担当)
<b>太</b> 治		〇 辻充孝
7/\	旦注未囚炕	小原勝彦
授業方法	講義開講	時期   後期   時間数   15   レベル   基礎 II
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □	林業 口 森林環境教育・木育 木工 口 自然・科学 口 情報・ビジネス・コミュニケーション
目的	の中で、自らの考え	「る際、様々な法規制によって計画が制限される。この制限 えを自在に構築し、実現可能な計画とするために、最低限の 必要があり、基礎的な法規を学ぶことを目的とする。
概 要	法規的取り扱いの基 建築基準法の集団	に木造建築に関する計画・設計・工事監理等の法規の知識、 基礎を学習する。 団規定・単体規定を中心に、都市計画法、住宅品質確保促進 多促進法、建築士法など関連する法規にもふれて学習する。
項目	建築関係法令集を通過等関係法令集を表別係法 関係 (基)	D演習(集団規定、単体規定) 既要、建築基準法の目的と構成 也区、用途地域、道路規定、容積率、建ペい率、面積の算定 引影規制ほか) 換気、各種高さ、階段、構造計算ルート) 会(建築士法、品確法他) 生作成方法(建築確認申請書ほか)
テキスト参考書		所 関係法令集」があるとよい。出版社は問わない。
事前履修科目	特になし	\$
評価方法	出席・取組姿勢など	
関連する資格	一級建築士、二級列 特になし	E梁工、不道廷梁士 ————————————————————————————————————
注意事項		

7	科 目	担当者(〇主担当)					
地	<b>!盤調査法</b>	〇 小原勝彦 非常勤講師					
授業方法	講義·実習	時期 前期 時間数	15 レベル 基礎Ⅱ				
カテゴリ	□ 共通(必須) ■ 木造建築	林業 □ 森林環境教育·木育 木工 □ 自然·科学 □ 情報·ビジネ	ス・コミュニケーション				
目的	地盤調査の方法。	ータ処理の方法などを学びます。					
概要		いて概説を行います。実際に地盤調査を 処理を行います。	として、地盤調査か				
項目	る。 【講義・演習】 1. 各種地解認 2. スウェーデン 3. スウェーデン 4. スウェーデン 法) 5. スウェーデン	ナウンディング試験のデータ処理(2 〕					
テキスト 参考書	随時プリント配						
事前履修科目							
評価方法	出席、試験、レ	トなど					
関連する資格	なし						
注意事項	なし						

<b></b>	斗 目			担当	者(〇主担:	当)		
木質楠	<b>も</b> きまでである。		0 /	<b>小原勝彦</b>				
授業方法	講義·実習	開講	時期	前期	時間数	30	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必 ■ 木造建築		林業 木工	□ 森林環境教育・2 □ 自然・科学 □		<b>ジネス・</b> コ	ミュニケ-	ーション
目的		こついて	、作用	っとも単純な構造の  する荷重やその反力 <sup>-</sup> 。				
概要	建築構造の基	基礎とな	る静定	構造力学について概	説を行いる	ます。		
項目	で【 1.2.3.4.5.6.7.8.数ん 9.01.1.2.計、本学 カ安静静静静応断、断断 11.2.計、的:の定定定定力面面性面定定ト講量端な講定と構構構構度の植作の 1-1:計量3.3.4.5.6.7.8.数 14.1 14.3 14.	周毚義不造造造造と性∞系性 / ト ノ 攙汁査・、安ののののひ質2数質ララッ・算や演合定反反応応ず( モな( ののス習壁	精別成、カカカカみ1mよ2)のな習度計造】と静((((度)ーど)応応有】倍算設・分定12)))ので、カカ限・率、計・分定12))))。( 要・、偏	解、大きないでは、 解、大きないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	支持 力、 きの 大 きの 大 きの 大 きの 大 で で か で か	接合 ・ 度 ク ・ 度 次 と ・ と ・ と ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で	ト ーメント ヤング(	、断面 系数、
テキスト 参考書	随時プリンⅠ	7 智						
事前履修科目	なし							
評価方法	出席、試験、	レポー	-トなど	•				
関連する資格	なし							
注意事項	なし							

<b>7</b>	斗 目		担当者	首(〇主担)	当)		
木質構	造力学·不静定	0	小原勝彦				
授業方法	講義·実習開	冓時期	後期	時間数	30	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) [ ■ 木造建築 [	□ 林業 □ 木工	<ul><li>□ 森林環境教育・木</li><li>□ 自然・科学</li><li>□</li></ul>	:育 情報・ビジ	゚ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	の基礎諸事項を学	びます。	する荷重やその反力及で 座屈や振動の初歩に 型製作などを通して構	ついて学び	<b>ゞます。</b>	また、	電算機
概要	建築構造の基礎と	なる不制	争定構造力学について	概説を行い	います。		
項目	な ( ) 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 12. 13. 相 ( ) 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 計	を習た。ノーので関ででは、アンのででである。というでは、アンスのでは、アンのでは、アンのでは、アンのでは、アンのでは、アンのでは、アンのでは、アンのでは、アンのでは、アンのでは、アンのでは、アンのでは、	、たわみ角、弾性曲線 理 説 習 1)解説 2)演習 基本事項 (1)解説	<b>永</b> 、曲率			
テキスト 参考書	随時プリント配布 						
事前履修科目	木質構造力学・静	定構造					
評価方法	出席、試験、レポ	ートなど	<u> </u>				
関連する資格	なし						
注意事項	なし						

<b></b>	斗 目			:	担当者	(〇主担:	当)		
木造建築の構	造設計製図·木	拾い術	O 4	N原勝彦 辻充孝					
授業方法	講義·実習	開講	時期	前期		時間数	30	レベル	発展 I
カテゴリ	□ 共通(必 ■ 木造建築		林業 木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学		育 情報・ビシ	<b>ジネス・</b> =	ミュニケ-	ーション
目的	学生自ら設言 す。	✝した建	書物の構	造図を作成する	らことで	で、構造[	図の作成	対法を	学びま
概要	構造図の作品 作成します。		こついて	概説を行います	<sup>-</sup> 。学 <u></u>	生自ら設	計した建	書物の構造	告図を
項目	8. 軸組材 ( 9. 軸組材 (	宅宅のののの、、乳柱柱柱(型のの描描作作・・・・・・・・・・・・製計計さき成成 横横横横が	画方方(( 架架架架(1) ((2)) 材材材材 が)) (() が)) (()		) )				
テキスト 参考書	随時プリント	~ 凹							
事前履修科目	なし								
評価方法	出席およびし	ノポート							
関連する資格	なし								
注意事項	なし								

<b>1</b>	科 目	担当者(〇主担当)
木造建	(築計画の応用	〇 廣田桂子 非常勤講師
授業方法	講義·実習開講	時期   前期   時間数   30   レベル   発展
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □	林業 口森林環境教育・木育 木工 口自然・科学 口情報・ビジネス・コミュニケーション
目的		こよって、計画立案の複雑な実際を学び、中山間地域の問題 と実施設計力の増強を目標とする。
概要	であることをふまえ	に異る余条件のなかで、夫々の最適解答を探求するプロセス え、実践的な課題演習によって、計画立案の複雑な実際を学 引題を見据えた計画立案と実施設計にトライする。
項目		女修と木質化 ドルギーについて E・実習 1 : 地域とユーザー E・実習 2 : ステーク・ホルダー 図面 コードマップ 図面と模型
テキスト 参考書	│「建築の理論を築く │	√」J・フング
事前履修科目	木造建築計画の基礎	ԵⅠ、木造建築計画の基礎Ⅱ
評価方法	出席、レポート、🛭	図面、模型、プレゼンテーション
関連する資格	木造建築士、2級建	<b>建築士、1級建築士</b>
注意事項		F・ブック、テクニカル・ペン,クラッチ・ペンシル、ト パ−、カメラ、縮尺定規を持参の事。

	科 目				担当者	f(O主担)	当)		
,	構造解析 〇 小原勝彦 非常勤講師								
授業方法	実習	開講田	時期	通年		時間数	30	レベル	発展 I
カテゴリ	□ 共通(必 ■ 木造建翁		林業 木工	□ 森林環境 □ 自然·科		育 情報・ビジ	゚ネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的	構造解析手法	去の基礎	と応用	、動力学の基	礎理論	を修得しる	<b>ます</b> 。		
概 要		の構成要		有限要素法を 力学的性状と					
項目	6. 構建免習】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	法構造ののの振の構造力の力次次の造の力力基に一造の学力学元元元をのうて学モ非非本力等で、 有限ラモラ総約	トウド こう い するがらず はい でいま で 限要ルデル形形 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	デル レ ( ( 付接 大解成作成 が 大解析 が が が が が が が が が が が が が が が が が が が	平構面)				
テキスト 参考書	随時プリン	ト配布 							
事前履修科目									
評価方法	出席、試験、	レポー	トなど	•					
関連する資格									
注意事項	なし								

7	科 目		担当者(〇主担当)						
木造	ī建築病理学		〇 小原勝彦 非常勤講師						
授業方法	講義	開講	時期	2年間通年		時間数	60	レベル	発展 I
カテゴリ	□ 共通(必: ■ 木造建築		林業 木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学		育 情報・ビジ	゚ネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的	木造建築改修	8の体系	を学び	<b>゙</b> ます。					
概要	具合や劣化を ます。英国で	を調査診 での建築	断して 病理学	ogy (建築病理: 適切な保存・補 を紹介する中島 て概説を行いま	i修方法 是正夫分	まの提案で	で重要な	(役割を見	果たし
項目	【103【579【10】 (10) (10) (10) (10) (10) (10) (10) (10)	の 具け屋 学 の検え 必 善る	・ 原査を 要 と 対 な 要 と 策	とその手順 対応策 の不具合とその:	④ ⑥ ③ 対応 ① ①	建各 木報 床 法契 築種 材告 下 規約 の書 環 ・依	を機器と あ成 に の 度関連	: 使用法 抗腐 いて~防蚊	
テキスト 参考書	│ 随時プリン l │	`配布							
事前履修科目	なし(ただし	ノ、木造	建築病	理学実習と同時	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	とする。)			
評価方法	出席、試験、	レポー	トなど	•					
関連する資格	なし								
注意事項	なし								

7	科 目	担当者(〇主担当)	
木造	産建築の防火	〇 小原勝彦 非常勤講師	
授業方法	講義・実習開調	講時期         2年間通年         時間数         30         レベル         発展	Ι
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □	]林業  □ 森林環境教育・木育 ]木工  □ 自然・科学  □ 情報・ビジネス・コミュニケーション	,
目的		防火規定の内容や要求性能を学びます。防火材料及び防耐火 手法や手続きを学びます。	
概要	らしい木造住宅を に、防火材料及び	防火規定の内容や要求性能を十分に理解した上で、より木造 設計する手法を防火法令適合という観点から考えます。更 防耐火部材の技術開発の手法や手続きを習得し、設計・施工 術開発の可能性を考えていきます。	
項目	講義② 建築基準 講義③ 内装制限 講義④ 内装制限 講義⑤ 木造住宅の 講義⑥ 防火に関	する法令改正の歴史 法がいう防火とは を考える~木材はどのように燃えるか を考える~不燃材料は本当に燃えないか の防火を考える~真壁を防火的にする の防火を考える~木あらわし軒裏・壁を防火的にする する技術開発の手法 事に強い木造とは	
テキスト 参考書	火事場のサイエン	スー長谷見雄二著 井上書院	
事前履修科目	なし		
評価方法	出席およびレポー	<u> </u>	
関連する資格	なし		
注意事項	なし		

<b>利</b>	斗 目	担当者(〇主担当)						
木質構	造設計の基本	〇小原	ī勝彦 非常勤講師					
授業方法	講義·実習開講	時期	前期	時間数	30	レベル	発展I	
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □		□森林環境教育 □自然·科学	・木育 □ 情報・ビジ	<b>ジネス・</b> =	ミュニケー	ーション	
目的	構造設計の基本的な 問題の解決法につい			ろな建築構造	造の問題	<b>夏を解き、</b>	構造	
概 要	各種構造について構 対して、数学的手法							
項目	以法 【1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9.10、11. 12. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9.10、11. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 9. 21. 22. 23. 23. 23. 24. 24. 25. 25. 26. 27. 28. 28. 28. 29. 29. 29. 29. 29. 29. 29. 29. 29. 29	とは、「とは、これのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	ト基の 達( N処 耐構構構計計計力本の 量床有値理 べ布杭栗力造造造造( ( ( ) 算率細算地 基礎礎ン算画画画画 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )	た 豆期 一 でででは、 ででである。 でである。 ででは、 ででは、 ででは、 できない。 できない	偏心率 座屈) み方、ほ <sup>み</sup> 方、ほ	計算)		
テキスト 参考書	随時プリント配布							
事前履修科目	木質構造力学・不静	<b>節定構造</b>						
評価方法	出席、試験、レポー	-トなど						
関連する資格	なし							
注意事項	なし							

7	斗 目		担当者	<b>S</b> (〇主担)	当)		
木造建築の	の環境性能設計 I	〇 辻充孝	÷				
授業方法	講義·実習開講	時期	後期	時間数	15	レベル	発展 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □		森林環境教育·木 自然·科学 □	-	ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	人の健康を守る疑の基本的な考え方の					気密、『	方露)
概 要	建物の4つの基本 地よい室内環境の表 また、各種性能計	きえる基礎を	学ぶ。			翼し、健原	 東で心
項目	1. おいまでは、 1. からから 1. からから 2. からから 2. からの 2. からの 2. からの 3. からの 3. からの 4. からの 4. からの 4. からの 5. からの 6.	値の計算 )計算 )能力算定 조η Α値の計算 ・ ・ ・ ・ ・ ・型表面結露 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	<u>I</u>	、夏型内音	<b>『結露</b> )		
テキスト 参考書	随時、プリント配布	1					
事前履修科目	特になし						
評価方法	出席・取組姿勢なと	<u> </u>					
関連する資格	一級建築士、二級建	<b>上</b> 築士、木造	建築士				
注意事項	特になし						

₹	斗 目			担当者	(〇主担)	当)		
木材	と設備設計	〇廣	田桂子 非常勤講師					
授業方法	講義·実習開講	時期	後期		時間数	30	レベル	発展 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □	林業 木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学			ネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的	建築がより良い環境 材と共にある設備の					是供でき	きるように	こ、木
概 要	設備には、オフザシ 場合は定期的な診断 握し、長寿命化建物	ī、後者l	こは予防保全る	を行う。	これらの	るものか O概要を	ヾある。 ἐ木材と∮	前者の 共に把
項目	1. 2. 2. 2. 3. 4. A M M M M M M M M M M M M M M M M M M	「熱と窓房機 関イス いままない。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	こついて					
テキスト 参考書	「設備施工計画・要 	発領書の	考え方とまとと	の方」は	<b>温</b> 沢義冨			
事前履修科目	木造建築環境							
評価方法	出席、レポート、図	国面、模型	型、プレゼン <del>-</del>	テーショ	ョン			
関連する資格	木造建築士、2級建	築士、	1級建築士					
注意事項	メジャー、スケッチ レーシング・ペー/					_ <u></u> /チ・^	<u></u> ペンシル、	<u> </u>

<b></b>	斗 目			担当者	f(O主担:	当)		
生活	舌環境設計	〇眉	養田桂子 非常勤講師					
授業方法	講義·実習開講	時期	前期		時間数	30	レベル	発展I
カテゴリ	<ul><li>□ 共通(必須)</li><li>□ 木造建築</li><li>□</li></ul>	林業 木工				<b>ジネス・</b> =	コミュニケー	ーション
目的	誰でも安心して暮ら す。そんな多種多様							されま
概 要	切り口によって、コ す。そこで、ケース を実際に試みる。							
項目	1. 2. 3. 4. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	: : : : : : : : : : : : : :	とは					
テキスト 参考書	「人間―環境系デサ 「フィールドワーク	_						
事前履修科目	無し							
評価方法	出席、レポート							
関連する資格	無し							
注意事項	メジャー、スケッチ レーシング・ペー/					ッチ・/	ペンシル、	٢

₹	斗 目			担当者	f(O主担)	当)		
ğ	<b>建築設備</b>	03	· 辻充孝					
授業方法	講義·実習開講	時期	後期		時間数	30	レベル	発展 I
カテゴリ		林業 木工	□ 森林環境 □ 自然•科:		育 情報・ビジ	・ニ	ミュニケ	ーション
目的	様々な要素技術の	り目的と	: 効果を定量的	りに評価*	できること	とを目的	りとする	0
概 要	省エネルギー性 ます。「自立循環 の向上をはかり、E 設計を行う手法を	型住宅へ 自然エネ	、の設計ガイト ベルギーによる	<b>ヾ</b> ライン.	」の考えフ	ちを用し	ヽて、躯	体性能
項目	1234567 ※然費がで テ「省54テき 自断暖換太照給 立ネや能る ス暖ネ円スせ 重計備計電計計 住を炭陽 自機)授 で	回 コーニン目非発 「香」美日、自一昼太」はし出電 環」料が射屋然ジ光陽 、、量を 型 実 選 相	<ul> <li>職手法</li> <li>職手気用レー</li> <li>は、カース</li> <li>は、カース</li></ul>	レシュート と で また と で で また で で で で	ム 効 形 さ は せ に が い な つ と 可 し の の の の の の し の の し の の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の の し の し の し の し の し の し の し の し の し の し の の し の し の し の の の の の の の の の の の の の	率 の	機器 )もよれさい ≟減で十分	ギー消 る 実 用 は ・
テキスト 参考書	省エネルギー機構)		生宅の設計ガイ 	<b>イドライ</b> :	ン(一般則	オ団法人	、 建築 ———	環境 •
事前履修科目	特になし	>						
評価方法	出席・取組姿勢なる		十.年.4. 卷 十					
関連する資格 注意事項	一級建築士、二級致 特になし	王采工、	<u> 不坦廷采工</u>					

<b>7</b>	斗 目				担当者	新(O主担)	当)		
設	計監理法		Οi	上充孝					
授業方法	講義	開講時	持期	前期		時間数	30	レベル	発展I
カテゴリ	□ 共通(必 ■ 木造建等			□ 森林環境 □ 自然·科学			<b>ジネス・</b> =	ミュニケ-	ーション
目的	設計実務で	で必要にフ	なる設	計監理の基本	を学ぶ	ことを目的	りとする	,	
概 要				査、プレゼン な知識を学習		設計、工	事契約、	施工監理	里と、
項目	を【12、345【678号で、12、12、12、12、12、12、12、12、12、12、12、12、12、	計査   約里明   事木衛査事事具一事契、 、 、 、配生、。、エブ、約プ 第 確 エりエ金照台事工植、レ 3 認 事、事属明所、事裁	敷ゼ 回 申 契プ、・機工塗、エ地ン 打 請 約レ電サ器事装家事調テ ち 、 、カ気ッの、工具、	ット打、事・大力を発する。大事工学が、大力では、大力では、大力を対して、対力を対して、対力を対して、対力を対して、対力を対して、対力を対して、対力を対して、対力を対力を対して、対力を対力を対してはないができないがではなりではないがではないがではないがではないがではないがではないがではないがではないが	2回打 は・工事	ち合わせ わせ 礎工事 ガラスエ <sup>™</sup>	•		
テキスト 参考書	初回時にテ=	キスト配る 	布						
事前履修科目	特になし								
評価方法	出席・取組会	姿勢など							
関連する資格	一級建築士、	二級建築	築士、	木造建築士					
注意事項	特になし								

<b></b>	斗 目		担当者	<b>對(〇主担</b> )	当)		
木質構	造設計の応用	〇 小原服	券彦 常勤講師				
授業方法	講義·実習開講	時期	後期	時間数	30	レベル	発展Ⅱ
カテゴリ			森林環境教育·木 自然·科学 □	·育   情報・ビジ	゚ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	これまで学んできた な建築構造の問題を						らいろ
概 要	各種構造について構 行います。主に応用 などを利用して演習	目的な内容に					
項目	【接横等のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	抗抗造造造造造計計計設設計計 抗抗造造造度造要要設設設計計計 計計設設計計 抗抗造造造度造素素計計計算算 画画計計算算 要要設設設計計計算算 (((((((((((((((((((((((((())))))))))	) 演習 ) 解説【木造・ 演習 ) 課題演習 ) 解説【木造・ ) 演習	失	あ あ コ コ コ 筋 筋コン ン ク ク ン フ ン フ コ コ	リート さ リート と 造 造 造 造 造 造 造 造 産 産 産 産 産 産 産 産 産 産 産	他】 他】 他】 他】
テキスト 参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	木質構造設計の基本						
評価方法	出席、試験、レポー	-トなど					
関連する資格	なし						
注意事項	なし						

<b>利</b>	科 目			担当者	(〇主担当	当)		
木造建築の	⊅環境性能設計Ⅱ	Οŝ	土充孝					
授業方法	講義·実習 開講	時期	後期		時間数	15	レベル	発展Ⅱ
カテゴリ		林業 木工	□ 森林環境 □ 自然·科		育 情報・ビジ	ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	木造建築をいろし る手法を身に付け、 目的とする。							
概 要	断熱性能から、暖する。同時に結露の する。同時に結露の 省エネルギー設計 ギー割合や、削減手	)危険度  では、	も認識し、換 住まいにかか	気計画を る暖冷原	を考える。 房、換気、	給湯、		
項目	1.2.3.4.6.6 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	まった客ぎりたらな生気にといれます。 大田 一え他方省ル能(レ計かかし)方設・エギにC一演らるた 備・ネーつAシ習	で に で に き き き き き き き き き き き き き	考える 器の選気 計算と新	定方法、ケ	rースス	タディ	
テキスト 参考書	随時プリント配布 参考図書「CASBEE)	戸建−新	<b>「築」</b>					
事前履修科目	木造建築の環境性能	ŧ設計 I						
評価方法	出席・取組姿勢など	\$						
関連する資格	一級建築士、二級建	築士、	木造建築士					
注意事項	特になし							

7	科 目			担当者	(〇主担:	当)		
木造建	<b>禁の設計製図</b>	0 :	辻充孝					
授業方法	実習開	構時期	前期		時間数	30	レベル	発展Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) [ ■ 木造建築 [	】林業 ]木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学			<b>ジネス・</b> コ	ミュニケー	ーション
目的	一冊の実施設計 留意事項を理解す		作図を通して、そ を目的とする。	それぞれ	1の図面(	の必要性	性や意味台	うい、
概 要	各自が計画した 項目で、図面の意			十図書る	として完成	成させる	ら。それそ	- : : : : : : : : : : : : : : : : : : :
項目	1.234.55.61.89.10.11.12.334.55.61.89.10.11.12.334.55.61.89.11.12.13.14.4.15.14.15.14.15.15.14.15.15.16.15.16.15.16.15.16.15.16.15.16.15.16.15.16.15.16.15.16.15.16.15.16.15.16.15.16.15.16.16.15.16.16.16.16.16.16.16.16.16.16.16.16.16.	図 水廻り記 ① ② ト						
テキスト 参考書	随時プリント配布 							
事前履修科目	木造建築CAD							
評価方法	出席・取組姿勢な	ك						
関連する資格	一級建築士、二級	建築士、	木造建築士					
注意事項	特になし							

;	科目			:	担当者	f(O主担)	当)		
木造建	皇築病理学実習		0 /	<b>卜原勝彦</b>					
授業方法	実習	開講	時期	2年間通年	-	時間数	30	レベル	発展Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必 ■ 木造建築		林業 木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学			゙ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	実物件の耐息 保存・改修力			能、不具合や劣 きす。	化なる	どを調査記	<b>诊断を</b> 通	Ĭじて、i	適切な
概要	適切な保存・具合や劣化な			i案するために、 fします。	既存	建物の耐意	<b>曼性能、</b>	温熱性能	能、不
項目	が、 大造建 1. 事前調 2. 詳細平基 本 基小温 本 本 基 ・ は ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	を病理学 ・ 査計査 図図の調定 ・ 図のででである。 ジャック では、 ジャック では、 ジャック では、 ジャック では、 ジャック では、 ジャック できる かいます かいます かいます かいます かいます かいます かいます かいます	やの 詳 調閲床化 りの 細 査査下調 ぶ、調査 が、調査 が、調査 が、	でできる。	注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注 注	を説明する 作成調査、 査、常め 査、など	る。 各階伏		
テキスト 参考書	随時プリント								
事前履修科目				理学と同時受講					
評価方法		文、主担	当回数	文、住まいの診断	íレポ-	ート作成	など		
関連する資格	なし								
注意事項	なし								

<b></b>	斗 目	担当者	<b>省(〇主担当</b> )
木造建築0	)グリーンデザイン	〇 廣田桂子 非常勤講師	
授業方法	講義•実習 開講	時期 通年	時間数 30 レベル 発展 II
カテゴリ	□ 共通(必須) □ ■ 木造建築 □		<育   情報・ビジネス・コミュニケーション
目的		ブリーンデザインの技術を磨 ジェクトを仕上げ、プレゼン	くため、前半で理論を学習し、 を繰り返す。
概 要	木造建築におけるク	「リーンデザインを理解し、	設計技術を習得する。
項目	2. 設計に使いたしる。 設計に使いたしる。 軸組建建 アイン 1 1 2 5 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	リーン・デザイン バリーン・デザイン ロンセプトと計画、平面、立ロンセプトと断面、矩計図に プレゼン 日課題:コンセプトと計画 -実施課題:コンセプトと計 -実施課題:コンセプトと計	模型
テキスト 参考書		きデザイン」ラポポート 	
事前履修科目	木造建築計画の基礎		
評価方法		図面、模型、プレゼンテーシ	ョン
関連する資格		- ・ブック、テクニカル・ペ パ−、カメラ、縮尺定規を持参	ン,クラッチ・ペンシル、ト 参の事。

<b>乔</b>	斗 目			担当者(	〇主担当	<b>á</b> )		
3	F工具 I	〇久	津輪雅					
授業方法	実習 開講	時期	 前期	В	寺間数	30	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 ■	林業木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学			ネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的	ノミ、カンナ、スク ることを目的とする		一の仕込み方、	研ぎ方	、基本的	な使い	・方を身に	こつけ
概 要	手工具の原理を理解 ノミは、木製の台や をつける「研ぎ」を いて、鍋敷き、また	が柄や刃 適切に	を調整する「仕 行って初めて使	込み」	、刃を砥	石で研	押磨しても	別れ刃
項目	1~2 3 / 相 5 カカカカ 7 カま 9 / 相 13 カまスス 2、の 4、き ナナナ サ板 2 のき 16 ナ板レレ 1 カー 1	デ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	用法					
テキスト 参考書	必須ではないが参考 系実技教科書」雇用			. 雇用	・能力開	<b>予機</b> 構	<b>「木木</b>	オ加工
事前履修科目								
評価方法	出席、作品提出							
関連する資格	<b>大料化化力</b> 可各和							
注意事項	材料代は自己負担。 作業しやすく、危険 ・動きやすく滑りに				<ul><li>袖や額</li></ul>	の締ま	った服	

7	科 目		担当	者(〇主担当	<b>á</b> )		
3	手工具Ⅱ	〇 松井勅向	б				
	講義・実習 開講	寺期	 前期	時間数	30	レベル	基礎I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ 木造建築 ■		林環境教育·ス 然·科学 [		ネス・コ	ニュニケ-	ーション
目的	「木で形をつくる」 に、人間と自然との を模索し、誰かのか	大切な何かを	体感すると同	同時に、「そ			
概要	食と道具の関係性に 道具についての体駅 す。特に、切り出し ことに重きを置く。	的理解を、木	でつくること	: を通して習	7得する	SことをE	目指
項目	1. 2. 食物 (1) (2) (3) (4) (4) (4) (5) (6) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	ンについて 刀・丸鑿基本 ぎ 用法 ビング (機能 デ等の適材選	的使用法	<b>为理解</b> )			
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席・プレゼンテ-	ション					
関連する資格 注意事項	作業しやすく、危险・動きやすく滑りに		各自準備する	<b>5</b> 。			

7	科 目			担当者	f(O主担:	当)		
<u>=</u>	手工具Ⅲ	O #	公井勅尚					
授業方法	講義·実習開講	時期	前期		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 ■	林業 木工	□ 森林環境。 □ 自然·科学			<b>ジネス・</b> □	コミュニケ-	ーション
目的	「木で形をつくる」 に、人間と自然との の形」の必然性を様	)大切な	で何かを体感す	ると同時				
概 要	端材や自然木を活かつなげる。基本的な を意識化する。							
項目	<ul> <li>1. ガイタン</li> <li>2. 心両両や紙ボー</li> <li>3. でいるののの的験本る</li> <li>3. でいるのののののののののののののののののののののののののののののののののののの</li></ul>	記本的使 か部の名 理解 可使用( 記述表	更用法 う称と構造	< 9 J				
テキスト 参考書								
事前履修科目								
評価方法	出席・プレゼンテー	-ション	,					
関連する資格								
注意事項	作業しやすく、危  ・動きやすく滑りに 			準備する	<b>る</b> 。			

1	料 目	担当者(〇主担当)							
木工機械	使用法 I (木取り)	0 7	和田賢治						
授業方法	実習開講	時期	前期	時間	<b></b>	30	レベル	基礎 I	
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 ■	林業 木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学		<b>み・ビジ</b> ネ	ス・コ	ミュニケー	ーション	
目的	基本となる木工機材 アトリエ棟の工房機					なけれ	ぱならな	ない。	
概 要	木工を行う上で必要 加工する材料を準備							寺に、	
項目	使・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	負斜、ラ	- 一ブル傾斜)						
テキスト 参考書	│ 木工用機械 / 木材 │ *いずれも雇用・能			、工工作法 					
事前履修科目									
評価方法	出席 / テスト								
関連する資格									
注意事項	作業しやすい服装 ・半ズボン、スカー ・袖や裾のしまった								

1	斗 目	担当者(〇主担当)							
つくるた	−めの電動工具	O #	和田賢治						
授業方法	実習開講	時期	前期		時間数	15	レベル	基礎 I	
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 ■	林業 木工				ジネス·=	ミュニケ-	ーション	
目的	本格的な木工技術・ な家具をつくること なることを目的とす	ができ							
概 要	電動工具をつかった 方を学ぶ	-小型家	3具の制作を通	して、基	基本的な間	電動工具	具の正しい	`使い	
項目	世 中 電 ま ま ま ま ま ま は に で で で で で で で で で で で で で	( バー ばー a ンサン		作を行う	ð				
テキスト 参考書	資料配布 								
事前履修科目	111 <del>11-</del> / 4-11-11-								
評価方法	出席 / 制作物								
関連する資格 注意事項	動きやすい服装 ・半ズボン、スカ-	-ト、サ	・ンダル厳禁						

7	料 目	担当者(〇主担当)							
木工力	旋盤の基礎 I	<b>○</b> ₹	和田賢治						
授業方法	実習開講	時期	後期	時間数	汝 15	レベル	基礎 I		
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 ■	林業 木工	□ 森林環境 □ 自然·科学	教育·木育 □ 情報・	ビジネス・コ	コミュニケ-	ーション		
目的	木のコマや小さなお	お皿/椀の	の制作を通して	「木工旋盤の基	基礎技術を	習得する			
概 要	皿や椀などを制作すずかな設備で足りるこの実習では、フェな加工方法を習得する	ることが c イスワ	、ら、一般の人	にも親しみや	すい木工芸	支術でもな	<b>ある</b> 。		
項目	木セカラの制作の名が、大ととという。 おいり はいい かいり はいい かいり かいり かいり がいり かいり かいり かいり かいり かいり かいり かいり かいり かいり か	フェイス 月途	_	ジ、パーティ	ングツーノ	<b>レ、スキ</b> <i>-</i>	ı— <del>f</del>		
テキスト 参考書	<b>資料配布</b>								
事前履修科目	11.5 / N E 15.0								
評価方法	出席 / 作品提出								
関連する資格	nealle i de la company								
注意事項	│ 作業しやすく、袖の │ ウィンドウブレーカ │	りしまっ コーのよ	ている服装 こうな木くずが <sup>、</sup>	つきにくい上	着を用意す	けるとよい	1		

<b>1</b>	斗 目	担当者(〇主担当)						
家具をつ	つくる(自力建設)	0;	和田賢治					
授業方法	実習開	構時期	後期	時間数	30	レベル	基礎 I	
カテゴリ	□ 共通(必須) [ □ 木造建築 <b>Ⅰ</b>	□ 林業 ■ 木工			ジネス <b>・</b> コ	コミュニケー	ーション	
目的	より使い手に優し る。対象は、「自 具の提案から制作	力建設」	で建てられた建	築物。使い手				
概要	電動工具等を使っ	て、自力	力建設のための家	3具をワークシ	ョップ册	ジ式で制作	乍する	
項目	3月の春休み期間( ・自力建設の振りの振りを ・建築ででででででである。 ・電動 / まり返り ・納品 / 振り返り	返り 一ンから ブラッ いて、#	シュアップ	!をイメージす	<b>ర</b>			
テキスト 参考書								
事前履修科目		工具						
評価方法	出席							
関連する資格								
注意事項	作業しやすく、危 ・半ズボン、スカ							

į	科 目				担当者	f(O主担	当)		
木材	の適材適所		O 松	公井勅尚					
授業方法	講義·実習	開講時	持期	後期		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建築			□ 森林環境			<b>ジネス・</b> コ	ミュニケー	ーション
目的				を提案する場 使う場合の、					
概要	家具・カトラ関連付けて記			品における木	材の性質	質・物性を	をものつ	<b>ゔくりの</b> ‡	支術と
項目	○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	E 造の基本 オの化学原 要		の適材適所を	学ぶ				
テキスト 参考書	木工材料(雇	星用問題研	研究会	:)					
事前履修科目									
評価方法	出席・テスト								
関連する資格									
注意事項									

7	科目		担当者(〇主担当)						
デジタルファ	ブリケーションの	9導入	〇和	四田賢治					
授業方法	実習	開講時	持期	後期		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必: □ 木造建築						ネス・コ	コミュニケ-	ーション
目的	工分野でも広	く利用さ	される	ッター、CNC <sup>7</sup> ようになって がりを持たせ	きている	る。どのよ	くうな様		
概要	レーザーカッ げる	ター等の	<b>のデジ</b>	タルファブリ	ケーショ	ョンを活用	目して、	木工品を	を仕上
項目	レデ実 制お ( 一	ī法 训作		引途 る可能性あり)					
テキスト 参考書									
事前履修科目									
評価方法	出席								
関連する資格			_				_		
注意事項									

<b>7</b>	4 目		担当者(〇主担当)								
木材塗	送装(自然塗料)	0 :	久津輪雅								
授業方法	実習開講	時期	前期		時間数	15	レベル	基礎 I			
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 ■	林業	□ 森林環境 □ 自然·科特		• •	ネス・コ	ミュニケー	ーション			
目的	自然塗料の種類と塗付けることを目的と		≒順を理解し、	オイル、	漆の基本	的な塗	 き装技術 <i>を</i>	を身に			
概 要	木材への塗装は、美などは天然由来の参 この授業では、実習	≧料であ	5り、環境に優	しい製品	品として近	£年見直					
項目	1 講表別 2 オオオ 3,オ 5 講 6 漆柿 7,漆の 2 オオオ 3,オ 5 講 6 漆柿 7,漆の 2 オオカ 3,オ 5 講 6 漆柿 7,漆の 2 3,オ 5 講 6 漆柿 7,漆の 3,オ 5 iii  1 ii  1 ii	り 扱 リリ 練 関 ) 色			生、ガラス	<b>、</b> ウレ	ッタン等)	と塗			
テキスト 参考書	随時テキスト配布 必須ではないが参え	書とし	ンて「 <u>塗装実技</u>	教科書」	雇用問題	研究会	<u> </u>				
事前履修科目											
評価方法	出席、作品提出										
関連する資格											
注意事項	材料代は自己負担。 ・動きやすく滑りに ・袖や裾の締まった	こくい鞘	ヒ(サンダルは	禁止)							

科 目					担当者	B(O主担	当)		
围	示会視察		O ħ	公井勅尚 久津輪雅	/	和田賢治	à		
授業方法	実習	開講	時期	通年		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建翁			□ 森林環境 □ 自然·科			<b>ジネス・</b> コ	ミュニケー	ーション
目的	モノを販売す ぶことを目的			構成は重要で	である。	展示会を	視察し、	その手法	<b>去を学</b>
概 要				l察し、モノる 手法を模索す			る)空間	引との関係	系性を
項目		フィーク		規模な木工原				きを学ぶ	
テキスト 参考書 事前履修科目									
<del>事前履修符日</del> 評価方法	出席・レポ-								
関連する資格	H/II V/I	•							
注意事項									

7	料 目	担当者(〇主担当)						
木工機械使	用法Ⅱ(成形・加工)	O #	和田賢治					
授業方法	実習開講	時期	前期		時間数	30	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 ■	林業 木工	□ 森林環境 □ 自然·科学			<b>ジネス・</b> =	ミュニケー	ーション
目的	木工機械にはさまる ことでさまざまなか よりバラエティのも	ロエがで	きる。基本的	な使用力	法と併っ			
概 要	フォトフレームの制	削作を通	<b>値して、木工機</b>	械のさる	<b>きざまな</b> が	加工方法	きを学ぶ	
項目	フォトフト ・	マーの使 情度ある かんさ 角度を付	更用方法 か加工のための・ 「し加工 けけた加工	セッティ				
テキスト 参考書	木工用機械 / 木材 *いずれも雇用・能			木工工作	<b>作法</b>			
事前履修科目	木工機械使用法I	(木取り	1)					
評価方法	出席 / 制作物							
関連する資格								
注意事項	│ 作業しやすい服装   ・半ズボン、スカ−	-ト、サ	ンダル厳禁					

7	料 目			担当者	(〇主担当	<b>á</b> )		
電動工	具(成形·加工)	〇和	]田賢治					
授業方法	実習開講	時期	前期		時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 ■	林業 木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学		育 情報・ビジ	ネス・=	ミュニケ-	ーション
目的	使用頻度の高いト! び冶具制作を学ぶ	リマーや	ハンディルーク	ターとい	いった電動	九具 <i>0</i>	)使い方、	およ
概 要	木工で使用頻度の高 や安全な加工に欠か また一つの作品を作 の全体の流れを通し	いせない fり上げ	冶具の作り方 るうえで基本と	<ul><li>使いた</li></ul>	すを時計σ	制作を	通して	学ぶ。
項目	壁掛け時計の制作をおいて、一の安全から、この安全から、この安全を制作がある。	O基本的 <sup>©</sup> O基本的 <sup>©</sup> F方法	使用法	学ぶ				
テキスト 参考書	│ 木工用機械 / 木材 │ *いずれも雇用・能			木工工们	活			
事前履修科目	木工機械使用法Ⅱ	(成形・)	加工)					
評価方法	出席 / 制作物							
関連する資格								
注意事項	作業しやすい服装 ・半ズボン、スカ-	-ト、サ	ンダル厳禁					

1	斗 目	担当者(〇主担当)						
木工加	旋盤の基礎 Ⅱ	0 1	和田賢治					
授業方法	実習開講	時期	後期	E	時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 ■	林業 木工	□ 森林環境。 □ 自然·科学		=	ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	平皿の制作を通して	、刃物	の研ぎ、スク	レーパー	の使い方	を学る	*	
概 要	皿や椀などを制作すずかな設備で足りるこの実習では、クス 仕上げ、各刃物の研	らことか トリティ	いら、一般の人 の高い作品作	にも親し	みやすい	木工技	技術でも む	<b>5る</b> 。
項目	各ガウジの研ぎ スクレーパーを使って 平皿の制作	った仕上	±I†					
テキスト 参考書	<b>)資料配布</b> 							
事前履修科目								
評価方法	出席 / 制作物							
関連する資格								
注意事項	│ 作業しやすく、袖 <i>0</i> │ ウィンドウブレーナ │	つしまっ コーのよ	っている服装 こうな木くずが	つきにく	い上着を	・用意す	<sup>-</sup> るとよに	`

<b>7</b>	·····································			担当者(〇)	主担当	)		
テ-	ーブル制作	0:	和田賢治					
授業方法	講義·実習開講	時期	後期	時間	引数	30	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 ■	│林業   木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学		ト・ビジネ	ネス・□	ミュニケー	ーション
目的	テーブル制作に必	要な技術	<b>うの習得</b>					
概 要	森林文化アカデミ- 要なほぞ組、天板の							
項目	テープルの構造 一ででは 一でで 一でで 一でで 一でで 一でで 一でで で の の か の を 使 っ た う う う う う う う う う う う う う う う う う う	冓造		四方胴付(	まぞの	加工		
テキスト 参考書	│ 木工用機械			下工工作法				
事前履修科目								
評価方法	出席 / 制作物							
関連する資格								
注意事項	作業しやすい服装 ・半ズボン、スカ-	- <b>-</b> \	ナンダル厳禁					

1	料 目		ž.	旦当者(〇主担:	当)		
木工	三製図(CAD)	〇 辻充著	¥				
授業方法	実習 開講	時期	前期	時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 ■		森林環境教 自然•科学		<b>ジネス・</b> :	コミュニケー	ーション
目的	本講座では作図を ソフトとのデータ <u>5</u>				的とする	る。また、	他の
概 要	CADの操作をト 定のイメージを作図		して習得し	、自ら作成しア	た作品、	或いは	製作予
項目	を大テれ、易 で	取り、接合部 けるため、ずータベ かた作品 (1品 トレース トレース	『などの納ま にいは作った ミースとして	りのチェックを 作品を資産と 図面や素材・仕	をするが して残る 上げな	こめ、他ノ ナことなる どを残す	しにプ ビ様々 ことに
テキスト 参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	CADの基礎						
評価方法	出席・取組姿勢なと	<u>.</u>					
関連する資格	特になし						
注意事項	特になし						

<b>7</b>	·····································		担	3当者	·(O主担	当)		
木材塗装	(合成樹脂塗料)	0%	ス津輪雅 非常勤講師					
授業方法	実習開講	時期	後期		時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 ■	林業 木工				ジネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	合成樹脂塗料の種類 毛塗りによる基本的						る塗料な	など刷
概 要	木材への塗装は、 水性が高く、環境に 木工や建築に携わる は、実習として水性	こも配慮 る者にと	した合成樹脂塗 っても基本的知	料の開識が変	開発は日 求められ	進月歩で ている。	ぎ進んです この授業	3り、 <b>美で</b>
項目	1 講義 所	リ扱い マンの下 マンの仕	·塗り :上げ	、ラ、	ッカー、	ウレタン	/)と塗装	長の基
テキスト参考書	随時テキスト配布 必須ではないが参え	書とし	.て「塗装実技教	科書」	雇用問	題研究会	<b>Š</b>	
事前履修科目								
評価方法	出席、作品提出							
関連する資格						_		
注意事項	材料代は自己負担。 ・動きやすく滑りに ・袖や裾の締まった	こくい鞘	(サンダルは禁.	止)			-	

	科 目		担当者	<b>6(〇主担当</b>	<b>á</b> )		
木二	二製図(椅子原寸)	0	久津輪雅				
授業方法	実習	開講時期	前期	時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建領		□ 森林環境教育·木	育 情報・ビジ	ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的			製図の技術を身に付け か得意な方を選択する		的とす	<sup>-</sup> る。	
概 要	身近な森のス 椅子の基本チ	木で作られた: ドの一つであ	からなるウインザーチ もので、小径木の有効: り学ぶべき要素が多い。 図について学ぶ。	利用が可能	はなデカ	ドインであ	5る。
項目	椅子の歴史 三面図の基 3,4 人間工学の 5~8 体に合わせ	基礎(生活技行 と椅子の製図		ど)			
テキスト 参考書			して「木工製図」雇用	・能力開発	8機構		
事前履修科		8山					
評価方法関連する資		走ഥ					
注意事項							

7	科 目					担当	者(O主担	当)		
展示会	きの企画と運営		O #	公井勅尚 久津	輪雅	/	和田賢氵	台		
授業方法	実習	開講	時期		通年		時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建第	-	林業 木工					ジネス・	コミュニケー	ーション
目的	作品の展示会 大切にしてい 模索する場で	いること								
概 要	授業で制作し 動を伝える <sup>均</sup> 画・サイン記 る。	易として	の学内	展示会0	り開催	を、コ	ンセプト	の立ち.	上げから	展示計
項目	〇〇〇〇 ※ 本年の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の	展示会企 展示構成 ドャラリ	き画のた え) リートー	:めの要素 -ク)	長を学,		を開催す	·る。		
テキスト 参考書										
事前履修科目										
評価方法	出席・プレも	ヹンテー	-ション	,						
関連する資格										
注意事項										

7	—————————————————————————————————————			担当者	f(O主担	当)		
1	云統工芸	0%	ス津輪雅 非常勤講館	沛				
授業方法	実習開講	時期	前其	月	時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 ■	林業 木工	□ 森林環 <sup>□</sup> □ 自然·科		• •	<b>ジネス・</b> コ	ミュニケー	ーション
目的	伝統工芸の職人から 値を再発見し、技術 に転用したり需要別	うの継承	に関心を深	めること	、また、イ			
概 要	岐阜県には、和傘、 した工芸品が多い。 保や新たな需要開持 の職人の指導のもと	これら 5などさ	の工芸を今まざまな課	後も継承 題克服が	するため 必要とな	には、持 る。こ <i>σ</i>	i続的なね )授業では	<b>材料確</b>
項目	1 県内の伝統工芸の根 2~8 伝統工芸品の制作体		lげわっぱ、i	桶、竹籠	などから	選択)		
テキスト 参考書								
事前履修科目								
評価方法	出席、作品提出							
関連する資格 注意事項	材料代は自己負担。 ・動きやすく滑りに ・袖や裾の締まった	こくい靴	(サンダル	は禁止)				

7	科 目				担当和	<b>含(〇主担</b> :	当)		
木	工事例調査		O #	公井勅尚 久津輪羽	隹 /	和田賢治	ì		
授業方法	実習	開講	時期	2年間	通年	時間数	30	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建築	-	林業 木工	□ 森林環 □ 自然·和			<b>ジネス・</b> :	コミュニケ-	ーション
目的	ものづくりき て取り組むち タイルを考え	上進事例							
概要	新しいプロジ 達方法)でこ る。そのよう る。また、原	れまで( うな事例	こない:  につい	ものづくり。 な学び、自	として支持  身の卒業	きを集めて 後の仕事の	いる例 のありフ	が増えて ちについて	きてい
項目	見学(計 4 億 ・ 9 月 ・ 1 0 月 ・ 1 0 月 ・ 1 0 月 ・ 1 0 月 ・ 1 0 月 ・ 1 0 月 ・ 1 0 月 ・ 1 0 月 ・ 1 0 月 ・ 1 0 日 ・ 1 0	日間(県 県内)	- (外)						
テキスト 参考書									
事前履修科目 評価方法	出席・レポ-	_ L							
関連する資格	山吊・レホー	<u> </u>							
注意事項	8月は宿泊0	 D場合も 	ある。						

7	科 目				担当者	f(O主担	当)		
木材草	盵燥事例調査		O ħ	公井勅尚 和田賢治					
授業方法	講義·実習	開講	時期	後期		時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必ź □ 木造建築			_ 1/1/11/19/03/03/			ジネス·コ	ミュニケー	ーション
目的	木工品を制作 目的とする。	₣する上	で重要	な乾燥について	て、見 <sup>s</sup>	学や講義	をとおし	,て学ぶこ	とを
概 要				例を見学する。 学び、日々の9			究所の木	材乾燥旅	色設で
項目	1. 見 2. 講森林 4. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	学	<b>見和木材</b>	等、木材乾燥6	の先進は	也見学			
テキスト 参考書									
事前履修科目 評価方法	出席・レポー								
関連する資格	山浦・レホー	- r							
注意事項									

7	料   目	担当者(〇主担当)
	商品化	〇 松井勅尚 久津輪雅 / 和田賢治
授業方法	講義·実習開講	時期     後期     時間数     60     レベル     発展 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ 木造建築 ■	林業 □ 森林環境教育・木育   木工 □ 自然・科学 □ 情報・ビジネス・コミュニケーション
目的		る制作である。学んだことを統合した質の高い作品が要求さ う視点を取り入れ、実社会を意識したものづくりをすること
概要	研究を繰り返し、R た実践的な授業であ	の講義からはじめ、想定クライアントへの聞き取り等、調査 商品を開発する。展示販売の現場も設定し、コストを意識し ある。また、少量生産の制作を行うことで、一品生産とは 習得する機会とする。
項目	○デザイン手法 ○調査研究計画作品 ○調査研究レポー ○コンセプトシー	ト作成 ト作成 ・制作図面・木取り表・工程表・量産制作 催
テキスト 参考書		
事前履修科目	手工具/木工機械使	用法
評価方法	出席・プレゼン	テーション・報告書
関連する資格		
注意事項	・動きやすく滑りし	危険のない服装を各自準備する。 こくい靴 に服 ・必要に応じて粉塵用マスク、ゴーグル等

<b>1</b>	—————————————————————————————————————			担当者	f(〇主担当	<b>á</b> )		
地域材	材クラフト開発	(	)松井勅尚 和田賢治					
授業方法	実習	開講時期	前期		時間数	45	レベル	発展 I
カテゴリ	口 共通(必須 口 木造建築					ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	クラフト開発 学ぶ。	きを通して、	地域材の生かし	方、地均	域性を考慮	意したテ	゙゙ザインな	などを
概 要		モノ・コー	らゃ開発を行う。 〜など様々な側面					
項目	○聞き取り調 ○県内施設の ○調査研究し	せとの協業で 動力 動力 動見学 シポート シャク から で カートの 作り で の の の の の の の の の の の の の						
テキスト 参考書	本土用機械 / (雇用・能力		系実技教科書 /	小工工1	IF冱			
事前履修科目	手工具/木	工機械使用	法					
評価方法	出席・プレセ	ジンテーショ	1ン					
関連する資格								
注意事項	<ul><li>動きやすく</li></ul>	滑りにくし	↓い服装を各自準 <b>`</b> 靴 ・必要に応じて			iーグル	/等	

<b></b>	4 目			担当者(〇主	[担当]		
椅	子の制作	0	久津輪雅				
授業方法	実習開	講時期	前期	時間	数 60	レベル	発展 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ 木造建築	□ 林業 ■ 木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学		ビジネス・コ	コミュニケ-	ーション
目的	適切な材料の選択ることを目的とす		の使用についての	)知識、実践	的な制作技	技術を身に	こ付け
概 要	板の座面と丸棒の身近な森の木で付 持子の基本形のっこの授業では、「	Fられたも -つであり	もので、小径木の リ学ぶべき要素が	)有効利用が <sup>i</sup> 多い。	可能なデ+		
項目	1~4 座ライ の の で で で で で で で で で で で で で で で で で	用法 り よ 曲 が 南 き 盤が の は の は の は の は の は の は の は の は の は の は の は の の は の の は の の の は の の の の の の の の の の の の の	・スクレイパーの トゾの加工) 責層曲げ) 包の使用法) で開け) は開け) はみ立て、仕上げ	D使用法)	きの穴開い	ナ、ディス	<b>スクグ</b>
テキスト 参考書	必須ではないがき 教科書」「木工製					<b>卜材加工</b> 系	<b>系実技</b>
事前履修科目	手工具 [ (以下=	できれば	ば事前履修を)オ	て工機械使用	法 [ 木]	C旋盤の基	₺礎 I
評価方法 関連する資格	出席、作品提出						
注意事項		川にくい革		≛止)			

1	4 目		:	担当者(〇主担当	当)		
1	<b>収納家</b> 具	0 7	和田賢治				
授業方法	実習	<b>開講時期</b>	前期	時間数	30	レベル	発展 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ 木造建築	□ 林業 ■ 木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学		ネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的	小型収納家具の 学ぶ	制作を通し	,て、追い入れほ	そぞの箱もの家具	具、抽き	┡の制作ス	ち法を
概 要	きているが、本	棚などの棚	りとした家具は建 服、小物や書類な 尽具で多く用いら	どを収納する家	₹具なと	ば以前と	
項目	抽斗の構造に対する。本語の構造に対対する。本語の構造に対対する。本語のは、本語のは、本語のは、本語のは、本語のは、本語のは、本語のは、本語のは、	る接合					
テキスト 参考書	│ 木丄用機械 / ス │ *いずれも雇用		実技教科書 / 木 機構	、工工作法			
事前履修科目	木工機械使用法	: П					
評価方法	出席 / 制作物						
関連する資格							
注意事項	作業しやすい服 ・半ズボン、ス	装 カート、ヤ	トンダル厳禁				

<b></b>	斗 目		担	旦当者	(O主担	<u>当</u> )		
木材	塗装の応用	0 3	久津輪雅 非常勤講師					
授業方法	実習開講	時期	前期		時間数	30	レベル	発展 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 ■	林業 木工	□ 森林環境教育 □ 自然·科学			<b>ジネス・</b> コ	ミュニケー	ーション
目的	漆や合成樹脂塗料の り高い付加価値をつ						木工製品	유
概 要	「伝統工芸(曲げれ 塗装する。 スプレー吹付けでの フト」で制作したか	ウレタ	ン塗料や簡易な	エアフ	ブラシを	用いて、	「地域ホ	オクラ
項目	1 講義 さまざまな 2 素地調整、木地固め 3~8 漆の塗装 9 講 玩具などを 10~12 スプレー シと染料で 13~16 エアブラシと染料で	)着色塗		り漆と	<b>二</b> 刷毛塗	りの違い	<b>\</b> )	
テキスト 参考書	随時テキスト配布 必須ではないが参考							
事前履修科目	(できれば事前履修	を)オ	「材塗装(自然塗	料)才	<b>下材塗装</b>	(合成樹	打脂塗料)	
評価方法	出席、作品提出							
注意事項	材料代は自己負担。 ・動きやすく滑りに ・袖や裾の締まった	こくい鞘	化(サンダルは禁.	止)				

7	科目			担当者	首(〇主担)	当)		
地域	材家具開発		〇 久津輪雅					
授業方法	実習	開講時期	<b>美</b>	期	時間数	15	レベル	発展Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建第			環境教育·木 科学 □		ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的			ハて付加価値 <i>0</i> ことを目的とす		を開発・討	設計でき	る基礎的	りな知
概要		けるが、特に	ナルの家具を閉 こ要望がない均					
項目	1~2 学板引JJ / 3~ザ の框しなり 3~4 が 5~面 が 5~面 が 5~の で 2 が 5~の で 3~4 が 5~の で 3~の で 3~0 で 3~0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	フラッシ 構造、各部の 寸法の基準 ン金物(ジ 幾能の検討	ュの構造 の呼称 ! ョイントボル l	、鬼目ナ	ット、レッ	ッグジョ	イント)	
テキスト 参考書	機構、「木」	C製品設計_	頃ではないが参   雇用・能力関	<b>月発機構</b>				]開発 
事前履修科目			の科目の多くを	を履修して	いることな	「望まし	.い。	
評価方法	出席、作品技	是出						
関連する資格								
注意事項								

7	科 目		担当者(〇主担当)						
地域	材家具制作		01	ス津輪雅					
授業方法	実習	開講	時期	後期		時間数	45	レベル	発展Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建築		林業 木工	□ 森林環境 □ 自然·科:			ジネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	制約のある均術を身に付け			付加価値のあ	ある家具を	を制作で	きる基礎	整的な知識	戦や技
概 要				の家具を制作 望がない場合				望に応し	じて制
項目	1~24	合わせ 上め - ロエ		ドレールなと	ごの取り付	けけ			
テキスト 参考書				はないが、  品設計」いす					村加
事前履修科目	木工の基礎	、基礎	፟Ⅱの科	.目の多くを履	優 してし	ハること	が望まし	.い。	
評価方法	出席、作品排	是出							
関連する資格									
注意事項	・動きやすぐ	(滑りに	くい靴	やすく、危険 ((サンダルは 必要に応じて	は禁止)				

7	科目				担当者	f(O主担	当)		
生月	態学の基礎		0 3	医木一郎					
授業方法	講義	開講	時期	前期		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建築	-	林業 木工	□ 森林環境教 ■ 自然·科学			゚ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的		<b> 生物的</b>	環境の	と同時に, 多 )下で, どのよう する。					
概要				どのように暮らの基礎を、個(					
項目	1.23456. 1234 1234 1234 1234 1234 1234 1234 1234	D増加 閉期的変 とと集 に サービス	化,種	分化					
テキスト 参考書	随時ブリン  	↑配布,	シリー	-ズ現代の生態 <sup>:</sup> 	字1 集	· 过生物学	共立	出版	
事前履修科目									
評価方法	出席・テスト	<u> </u>							
関連する資格									
注意事項									

<b>1</b>	4 目			担当者	f(O主担	当)		
生態	系サービス	01	柳沢直					
授業方法	講義·実習開	講時期	前期		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ		□ 林業 □ 木工	□ 森林環境 ■ 自然·科		育 情報・ビジ	<b>ジネス・</b> =	ミュニケー	ーション
目的	自然の持つ機能の 本の森林が提供し 能を最大限発揮で	ている様	様々な生態系+	ナービス	と、正し	い森林旅	重業が公益	的機
概 要	生態系サービスの る。さらに生態系 森林の持つ生態系 生態系サービスが	サービス サービス	くにはどのよう くについて学る	うなもの; ぶ。授業	があるの の後半で	か、そし は、実際	、てその「 詳にどの。	中でも ような
項目	環境と人間との 源は有限系の機 6/7 (火) 生態の生態の 4種類の 4種類の 盤サービ系 解説する。 6/14 (火)	関とと スサれ 機流 機のわ、か の一の 能出 能低りこら 実ビ実 と防 の減 実交	D 二 つ の 態 大 の 態 大 に と 大 に と 大 に を は 大 に 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	あがビニスし など まごと など まごと おがど まごと 本林	え系つ 整れ 生てサい サを 態系 不 一支 系 の でん ごん かい	るス説 スる 持 このす ・生 つ と概る 文物 公	に で の ま の ま が 世 に だ が 機 能 に だ が 機 能 に に だ が も が も が も が も に に に に に に に に に に に に に	そこ くい つ こ
テキスト 参考書								
事前履修科目								
評価方法	出席							
関連する資格								
注意事項								

1	斗 目		担	!当者(O主担:	当)		
樹木学	実習(着葉期)	0;	横井秀一				
授業方法	実習	開講時期	前期	時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ 木造建築	□ 林業 □ 木工	□ 森林環境教育 ■ 自然·科学		ジネス・=	ミュニケー	ーション
目的			に置いたときの主要 ナ、各樹種の種生態				-
概要	生態学的性質を	学び、樹種	樹木を観察しながら 重の同定能力を身に 各樹種の材や植物	こ付け、あわけ	せて図銀	による村	食索 •
項目	1. 基本的用語の 2. 葉生の同定の 3. 実生の同定の 4. 開芽とシュー 5. 樹形と光獲を 6. 利用特性	定 と更新サイ ートの伸長	<b>F</b>				
テキスト 参考書	わかる樹木」「		<b>削して (検索入門</b> ○ る樹木」	倒不少么」	「倒しり	( 1比]	· 朱 C 
事前履修科目	樹木同定						
評価方法	試験						
関連する資格 注意事項	野外実習時のド	・レスコート	ト:1実習(一般)				

<b>1</b>	科 目				担当者	首(〇主担)	当)		
樹木学	生実習(落葉期)		〇枝	<b>黄井秀一</b>					
授業方法	実習	開講時	寺期	後期		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須 □ 木造建築			□ 森林環境 ■ 自然·科		• •	<b>ジネス・</b> =	ミュニケー	ーション
目的	林業・森林 を同定する能 する。			置いたとき <i>の</i> 、各樹種の種					-
概要	落葉期の野 生態学的性質 同定の手法を 学ぶ。	を学び、	、樹種		身に付	け、あわt	せて図銀	性による相	<b>食索</b> •
項目	1. 基本的用記 2. 樹形・枝 2. 樹形・枝 2. 樹皮による 4. 冬芽と葉 2. ※常緑字に関	ぶりによ る同定 <b>直による</b>	る同気 る同定		-	と同様。			
テキスト 参考書	参考書:「検   かる樹木」「								
事前履修科目		木学実	習(着	葉期)					
評価方法	試験								
関連する資格									
注意事項	野外実習時の	)ドレス:	コート	: 1実習(一	般)				

7	科 目	担当者(〇主担当)
哺乳類•	鳥類の生態基礎	〇 柳沢直 非常勤講師
授業方法	講義・実習開講	精時期 後期 時間数 30 レベル 基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業 □ 森林環境教育・木育   木工 ■ 自然・科学 □ 情報・ビジネス・コミュニケーション
目的	生生物との共存のか	・イノシシなどによる農林業被害が起こっているが、人と野ためには適切な管理が必要である。そのために必要とされる 基礎知識や保護管理に関する基本的な考え方を学ぶ。
概要	的な内容を取り扱う する。それらの内容	乳類と鳥類をとりあげ、分布や生態・保全等についての基本 う。さらに、農林業における獣害の実態や対策について解説 容を通じて野生生物保護管理に関する基本的な考え方を学 のある哺乳類・鳥類とその保護問題についても言及する。
項目	3. 野生生物保護領4. 外来種により5 5. 鳥類の生態等 6. 鳥類の野外調査	見状及びそれをもたらす哺乳類の特徴 管理の考え方 生物多様性への影響
テキスト 参考書	「烏類生態字人門」	山岸哲編著(築地書館)
事前履修科目		
評価方法	出席、レポート	
関連する資格		
注意事項		

7	—————————————————————————————————————				;	担当者	f(O主担:	当)		
昆虫・	魚類同定実習		O	津田格 玉木	一郎					
授業方法	実習	開講	時期		前期		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必: □ 木造建築		林業 木工		林環境教 然•科学		育 情報・ビシ	<b>ジネス・</b> =	ミュニケ-	ーション
目的	森林をはじめ 物多様性に画 物を発見・同	尼慮しな	がらそ	れらの	自然環境	きを利え				
概 要	本科目では鼠類とその対処				•採取•	同定	方法を学ん	ぶ。また	≿危険生物	勿の種
項目	1. 里は類に 3. 魚類など	ど森林	生物の	採取•	同定					
テキスト 参考書	随時プリント   日本のチョウ									<b>ガイド</b>
事前履修科目										
評価方法	出席、レポー	- ト								
関連する資格										
注意事項										

7	科 目			担当	者(〇主担当	当)		
樹木	の形態と生理		〇玉木一郎	AR.				
授業方法	講義	開講時期	胡	前期	時間数	30	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必: □ 木造建築			株環境教育・オ 然・科学 □		ネス・コ	ミュニケ-	ーション
目的				とに加え, 樹 すしているのか				
概要		くの関係、	植物の発生	Eについて理解 Eと成長, 種子 、。				
項目	1234567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.3345791112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.33457891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.33457891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.33457891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.33457891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.33457891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.33457891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.33457891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.33457891112.334567891112.334567891112.334567891112.334567891112.33457891112.334567891112.3	系言ない。 統活のの代と、モ性殖の1分形構構交植、ン生戦生類、造造代物、・殖略理といる。 と、12と、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	植物 生活環					
テキスト 参考書				朝倉書店,植				
事前履修科目	C-152生態学	の基礎						
評価方法	出席・テスト	`						
関連する資格								
注意事項								

7	料 目			担当	者(〇主担)	当)		
森林	と海をつなぐ	O 1	<b>卯沢直</b>					
授業方法	講義·実習開講	時期	後期	胡	時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業 木工	□ 森林環 ■ 自然•乖		木育 コ 情報・ビジ	ネス・コ	コミュニケ-	ーション
目的	従来から知られてい に、近年明らかにな 重要性を理解するこ	こってき	た河川を介					
概 要	森林生態系は河川生 林の状態が海の生物 ている。この授業で 治山治水による環境	の豊か はその	vさに直接影 )メカニズム	響を与え を知ると	えていること :共に、人間	が近年	F明らかし	こなっ
	9/5 (月) 森は海の 海を守るために上 北海道帯広市などの る。	流の山	」に植林する	事例につ				
	9/12 (月) 山は緑の 治水・利水と治山 が一般に正しく理解 表土の流出などに着 る。	』に関し gされて	、て森林整備 いるとは言	は重要た いがたし	さと言われる い。土壌の認	るが、そ を水性・	樹木の	蒸散•
	11/2(水)現地見学 砂防施設・治山・		<b>証設の見学を</b>	行う。				
項目								
テキスト 参考書								
事前履修科目	. L. etc							
評価方法	出席							
関連する資格								
注意事項								

7	料 目	担当者(〇主担当)	
特用林産	物実習(春夏編)	〇 津田格	
授業方法	実習開講	時期   時間数   15   レベル 基礎	Ι
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業  □ 森林環境教育・木育  木工  ■ 自然・科学  □ 情報・ビジネス・コミュニケーション	ン
目的	などは特用林産物と	Dこ、山菜、薬用植物、木の実、精油、樹皮、特用樹、薪炭 と呼ばれる。特用林産物は地域の風土と結びついた物が多 て知ることはその地域の文化を理解する上で重要である。	
概 要		D増産技術、利用について秋冬編に引き続いて学ぶ。また初 この同定実習も行う。	
項目	2. 初夏に発生する	改培技術(ほだ木埋設) 5野生きのこの採集と同定(コナラ、アカマツ林) てはきのこの発生状況等に応じて変更する可能性がある。	
テキスト 参考書			
事前履修科目	特用林産物実習(科	火冬編)	
評価方法	出席、レポート		
関連する資格			
注意事項			

7	科 目				į	旦当者	(O主担	当)		
特用林産	物実習(秋冬	編)	O	聿田格						
授業方法	実習	開講	時期	1	後期		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建		林業 木工	□ 森林 ■ 自然				<b>ジネス・</b> =	ミュニケ-	ーション
目的	林産物のう などは特用 く、それら	林産物と	:呼ばれ	る。特用	林産物	は地垣	ぬ風土	と結びて	ついた物が	が多
概 要	本科目では こ、木材腐 きのこの基	朽性きの	こにつ	いて、そ	の利用	や増殖				
項目	1. 2. 3. 4. 内容 内容 内容 日本	生する野 のこから 朽菌の制	の菌株 は培技術	分離技術 (培地の	調整、	種菌σ	)培養な	ど)		5 .
テキスト 参考書										
事前履修科目										
評価方法	出席、レポ	<u></u>								
関連する資格										
注意事項										

7	科 目	担当者(〇主担当)
有用植物	実習(山菜•薬草)	〇 津田格 柳沢直 / 玉木一郎
授業方法	実習開講	講時期   前期   時間数   15   レベル   基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	] 林業  □ 森林環境教育・木育 ] 木工  ■ 自然・科学  □ 情報・ビジネス・コミュニケーション
目的	などは特用林産物と	のこ、山菜、薬用植物、木の実、精油、樹皮、特用樹、薪炭 と呼ばれる。特用林産物は地域の風土と結びついた物が多 て知ることは地域の文化を理解する上で重要である。
概 要	本科目では特用林彦術を実習を通して党	産物のうち、主に山菜と薬用植物の利用方法、同定、増産技 学ぶ。
項目	1. 山菜、薬用植物3. 山菜の薬の薬用植物3. 山菜の薬用植物の水薬の薬の薬の薬の薬のの薬のの利用を持ち、薬のの薬のの利用を持ち、薬のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	物の採集と同定物の増産技術(根ざし法)
テキスト 参考書		
事前履修科目		
評価方法	出席、レポート	
関連する資格		
注意事項		

1	斗 目				担当者	f(O主担	1当)		
里山の	自然とその保全	0:	玉木一郎 柳沢	建	/	津田格	÷		
授業方法	実習開調	睛時期		通年		時間数	45	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	] 林業 ] 木工					ジネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	里山の自然とはど て岐阜県周辺の里							らるのか,	そし
概要	本科目では、まずいいて学ぶ。そして、 活動に参加しつつ!	里山の							
項目	1. 里山の春植物 2. 東海丘域の 3. 養老津田の 4. 草地の 4. 単純 4. 単、 4. 単	植物群の 山と水の 環境 生物	D自生地 D利用						
テキスト 参考書	随時プリント配布					ゴ	里山の目	然 保	<b>亨</b>
事前履修科目		z, U-15	o倒への#	∌態と3	上理				
評価方法 関連する資格	出席・レポート								
注意事項									

<b>7</b>	斗 目				担当者	f(O主担	当)		
樹木学指	導実習(着葉期	月)	O #	黄井秀一					
授業方法	実習	開講	時期	前期		時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建築	-	林業 木工	□ 森林環境 ■ 自然·科			<b>ジネス・</b> ⊐	ミュニケ-	ーション
目的				ことで、自ら : ともに、人へ				)形態・⊴	主態に
概 要	学んだ知識や	や自分で	見つけ	」において、 たポイント) 所要所は、教	を総動	員し、初	学者が十	分な知り	見を得
項目	1. 基 葉 生 の る 3. 実 開 樹 利用 る 6. 利用 特性	同定 定と更新 ュートの 獲得戦略	新サイの伸長を						
テキスト 参考書 事前履修科目	参考書:「植わかる樹木」 樹木同定、植	「花実	でわか		、門 樹:	木①②」	「樹に咲	く花」	「葉で
事前履修作 <u>日</u> 評価方法				<u>**** </u>  /   導効果)およ	7、おお道道	 能度			
関連する資格			,,,, <u>1</u> E	14TWIA 00 0	· O ]口· <del>()</del>	· · · / ×			
注意事項	野外実習時の	<b>カドレス</b>	、コート	·:1実習(一	般)				

	斗 目		į	担当者	(〇主担)	当)		
樹木学指	導実習(落葉期)	〇横	井秀一					
授業方法	実習開講	時期	後期		時間数	15	レベル	基礎Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業木工	□ 森林環境教 ■ 自然·科学			ジネス <b>・</b> コ	ミュニケー	ーション
目的	樹木について人に ついての知識を確認		_ , ,				)形態・生	態に
概 要	「樹木学実習(落学んだ知識や自分でられるように指導すする。	で見つける	たポイント)を	総動員	し、初り	学者が十	分な知見	見を得
項目	<ol> <li>基本的用語の理</li> <li>樹形・枝ぶりに</li> <li>樹皮による同定</li> <li>冬芽と葉痕によ</li> <li>※常緑字に関しては</li> </ol>	よる同定 る同定		٤ ( (١	: 同樣。			
テキスト 参考書 事前履修科目	参考書:「検索入門 かる樹木」「冬芽で 樹木同定、樹木学乳	ごわかる	落葉樹」「樹皮					<b>€でわ</b>
評価方法	   試験(自身の同定能			<b>沾</b> 道能	 k 度			
関連する資格		ロンコイ 1日:	4WW/ 0000	1日 寸于 心	X			
注意事項	野外実習時のドレス	<b>ベコート</b>	: 1実習(一般)	)				

1	斗 目			担当者(	D主担当	<b>á</b> )		
文章表	ē現·作文技術	0	玉木一郎					
授業方法	講義·実習開講	時期	後期	時	間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業 木工	□ 森林環境。 □ 自然·科学		報・ビジ	ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	分かりやすい文章と せることができるよ				それを	自分の	文章にか	豆映さ
概 要	本科目では、まず明 方法について理解し し合う。これを繰り	た後に	、実際に文章	を書き、そ	これをお	互いに		
項目	1. 2. 3. 次のでは、1. 2. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3. 3.	ordの使 三基ので 基解 三基解 三基解 三基が 三基で 三基で こ	iい方 作文 1 t 作文 2 t 作文 3					
テキスト 参考書	随時プリント配布, 書	100~-	ーンの又草術	共立出版	, 埋枓:	糸の作!	<b>火</b> 技術	中公新
事前履修科目	ᄔᄩᇺᅷ							
評価方法 関連する資格	出席・レポート							
注意事項	演習を欠席する場合	さはレホ	ペートを事前に	<u></u> 提出してお	3くこと	. 0		

<b></b>	·	担当者(〇主担当)
情幸	<b>服発信演習</b>	〇 辻充孝
授業方法	講義·実習開講	時期   後期   時間数   30   レベル   基礎 I
カテゴリ		林業 □ 森林環境教育・木育   木工 □ 自然・科学 ■ 情報・ビジネス・コミュニケーション
目的		発達によって多種多様で膨大な情報があふれている。本授業 報を整理し、さまざまな手段を用いて効果的に相手に伝える を身につける。
概要	伝わることで、反応	れることなく、届けたい相手に適切な情報を届ける。情報が ながあり、仲間が増え、新しい視点が拡がる可能性がある。 D方法を演習を通して身に付ける。
項目	時代性や社会 法を学ぶ。 10/24 (月) ③④ カメラの基本 10/31 (月) ③④) 撮影した写 11/7 (月) ③④ が、ホーノのでは 11/21 (月) ③④ 必要最小限のででは が、は、 11/28 (月) ③④ を学ぶ。 11/28 (月) ③④ を学ぶ。 12/5 (月) ③④ 表作成するる。 12/5 (月) ③④ を対象を作成する。 12/12 (月) ③④	プレスリリース(久津輪) 会性を意識した文章で、伝えたいテーマを的確に表現する手写真撮影の基本(和田) 本知識、構図の決め方といった写真撮影のポイントを学ぶ。写真加工(和田) 真の露出補正やトリミングなどの写真加工の基本を学ぶ。ブログ、WEBなどのIT発信(和田)った内容をよりわかりやすくデザインする手法を学ぶ。ブロ作成ツールの使用法を学ぶイラレを使った名刺とリーフレット作成(辻)の情報をわかりやすく、印象に残るようにデザインする手法簡単なスライドショーなどのプレゼン(久津輪)表時間の中で、全体の構成を組み立て伝えたいメッセージをぶ。写真を中心としたシンプルな講座紹介のスライドショー学生生活応援ナビの改修検討(辻) 爰ナビの分析を行い、改修に当たっての計画を立てる学生生活応援ナビのバージョンアップ(辻)爰ナビの改修作業を行う。
テキスト 参考書	随時プリント配布	
事前履修科目	特になし	
評価方法	出席と課題提出	
注意事項	特になし 特になし	

1	料 目		担	3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	<b>á</b> )		
会	計の基礎	07	杉本和也				
授業方法	講義開	講時期	後期	時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須)   □ 木造建築		□ 森林環境教育 □ 自然·科学		ネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	事業体に就職する みについて学ぶこ 態を判断できるだ	とは重要	である。会計を	学ぶことで、経	を営体と	こしての値	建康状
概要	基本的な簿記の仕 た財務諸表の見方 方について学ぶ。						
項目	<ol> <li>簿記について</li> <li>財務諸表についる</li> <li>財務諸表についる</li> <li>ケーススタディー</li> <li>損益分析スタディー</li> <li>ケーススタディー</li> </ol>	ヽて(CF <sub></sub> ィ(事業 f	の進行と財務諸表	その動き)			
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	出席、レポート						
関連する資格							
注意事項							

;	科目	担当	者(〇主担当)
インタープ	リテーション実習①	〇 萩原裕作	
授業方法	実習開講	·期 前期	時間数   15   レベル   基礎 I
カテゴリ	口 共通(必須) 口 口 木造建築 口		木育 ■ 情報・ビジネス・コミュニケーション
目的		F齢層に対する、様々なフ は「体験」してもらいます	スタイルのインタープリテーショ ┢。
概 要	法としてアメリカの	国立公園で発展した「イン	るメッセージを効果的に伝える手 レタープリテーション」の技術や ることを目的としています。
項目	以下のことについる	-ションとは -ションの原則	
テキスト 参考書		/ョン入門」(小学館) - トレーニング」(ナカ <i>=</i> -	ニシヤ出版)
事前履修科目			
評価方法	│出席・授業態度・習	快度などをもとに総合的に	ニ評価します。
関連する資格			
注意事項	予定)食費・交通費	です。(アカデミーのコラ 宇実費が別途かかることが ト日)にまで授業がかかる	

	斗 目	担当者(〇主担当)								
コミュニグ	ケーションワーク	0 1	萩原裕作 非常勤講	師						
授業方法	実習開講	時期	後期	期	時間数	15	レベル	基礎 I		
カテゴリ		林業 木工	□ 森林環 □ 自然·≉			<b>ジネス・</b> =	ミュニケ-	ーション		
目的	1対1や、グルーフ なることで主観的、 づくためのショー I	客観的	りに自分の発	言や気持	ち、その	言葉に対				
概 要	何かを提案したり、 欠かせない、という せない、相手の気持 ます。	うよりも	社会の中で	「自分の	ままで」:	生きてし	く上では	は欠か		
道目	扱以 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	きて ッ い い ッシン・マーコ チール クョヤ	) - る ンのスタイル 育ち合う関	レ 係の障害	となる要:	素)	していく	くため		
テキスト 参考書	授業内で随時紹介し	<b>ノます</b> 。								
事前履修科目										
評価方法	出席、授業態度から	総合的	りに評価しま	す。						
関連する資格										
注意事項	1泊2日の合宿形式 自炊のための食材費 す。			利用の場	合1, 000円	引)等実	費がかか	りま		

1	斗 目			担当者	(〇主担:	当)		
ファシリ	テーション実習	0 4	<b>搓峨創平</b>					
授業方法	実習開講	時期	前期		時間数	30	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業 木工	□ 森林環境 □ 自然·科学			<b>ジネス・</b> コ	ミュニケ-	ーション
目的	ファシリテーション	<b>少の基</b> 礎	を技術を習得す	·る				
概 要	さまざまな対話シー 円滑に進め、創造性 ションの基礎技術を	生を生み	▶出すコミュニ	ケーショ	ョン技術で			
項目	・アイス ・アイス ・アイス ・アイス ・アイス ・アイス ・アクション ・アション ・アクシ ・アクシ ・アクシ ・アクシ ・アクシ ・アクシ ・アク ・アクシ ・アクシ	)技術 ョングラ テーショ	フィック コン					
テキスト 参考書	「インタープリタ-   示)	-· トレ	/一二ング」ナ 	カニシャ	ア出版ほれ	か(開請	舞時に随即	守提
事前履修科目								
評価方法	出席と参加態度							
関連する資格 注意事項	動きやすい服装で							

<b>1</b>	料 目		担	当者(〇主担	当)		
山里を知	る(聞き書き入門)	01	<b>京島幹典</b>				
授業方法	講義·実習開調	睛時期	前期	時間数	30	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	] 林業 ] 木工	□ 森林環境教育 □ 自然·科学		<sup>ジネス・コ</sup>	ミュニケー	ーション
目的	県内の山村地域を 話を聞き、興味を きちんと聞くため	深める。		」つくり体に			
概 要	「あるもの探し」 にまとめて共有す。 達と交流する。		双り」で見聞したも なした「聞き書き小				
項目	<ol> <li>1. ガ山東京</li> <li>2. 音文語</li> <li>3. 音文語</li> <li>4. おいます</li> <li>5. あいます</li> <li>6. カル里</li> <li>7. は、集会し表表の</li> </ol>	あるもり き二聞 ップ作	の探し」と「聞き」				
テキスト 参考書	山里の聞き書き(	山里文化	:研究所編)				
事前履修科目							
評価方法	出席、作品提出と	発表					
関連する資格							
注意事項	ICレコーダー等	渌音機器	<b>引、デジタルカメラ</b>	の持参推奨			

	科 目		担当者(〇主担当)							
7	プロジェクト1		〇担	旦当教員						
授業方法	講義・実習	開講時	期	2年	間通年		時間数	15	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建翁			□ 森林				ジネス・コ	ミュニケー	ーション
目的	アカデミーだ 題材に取り」 修などを実施	上げて、 J								
概 要	地域の森林の課題に結びて						めの広葉	樹林間仂	など、均	也域の
項目	活動人では各芸				こと。	教務等	委員会で	単位とし	、 て 承認 す	ける。
テキスト 参考書										
事前履修科目										
評価方法	レポート等									
関連する資格 注意事項	7									

7	—————————————————————————————————————		担	担当者(〇主	[担当]		
プ۱	ロジェクト2	0 ‡	坦当教員				
授業方法	講義·実習開講	時期	2年間通年	時間	数 30	レベル	基礎 I
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	│林業 │木工	□ 森林環境教育 □ 自然·科学		・ビジネス・ニ	コミュニケ-	ーション
目的	アカデミーが目指す 題材に取り上げて、 修などを実施する。	より実					
概 要	地域の森林の整備活課題に結びついたる				葉樹林間(	戈など、均	也域の
項目	活動内容を教員に格辞しくは各担当教員に			教務委員会	で単位とし	ン 不 認 R R R R R R R R R R R R R	ける。
テキスト 参考書							
事前履修科目							
評価方法	レポート等						
関連する資格							
注意事項							

7	料 目	担当者(〇主担当)								
プ۱	ロジェクト3	O ±	旦当教員							
授業方法	講義·実習開講	時期	2年間通年	時間数	女 45	レベル	基礎 I			
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業   木工	□ 森林環境教育 □ 自然·科学		ごジネス・コ	ミュニケ-	ーション			
目的	アカデミーが目指す 題材に取り上げて、 修などを実施する。	より実								
概 要	地域の森林の整備が課題に結びついたる				葉樹林間化	はなど、均	也域の			
項目	活動内容を教員に材料しくは各担当教員に対しては各担当教員に対しては各担当教員に対しては、			教務委員会	で単位とし	て承認す	ける。			
テキスト 参考書										
事前履修科目										
評価方法	レポート等									
関連する資格										
注意事項										

1	4 目	担当者(〇主担当)								
プ۱	ロジェクト4	O 担	旦当教員							
授業方法	講義·実習開調	時期	2年間通年	時	間数	60	レベル	基礎 I		
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	] 林業 ] 木工	□ 森林環境教 □ 自然·科学		報・ビジ <sup>:</sup>	ネス・コ	ミュニケー	ーション		
目的	アカデミーが目指 題材に取り上げて、 修などを実施する。	より実								
概 要	地域の森林の整備に課題に結びついた				)広葉樹	林間伐	など、均	也域の		
項目	活動内容を教員に満まれている。			教務委員	会で単	位とし	不秘密を	ける。		
テキスト 参考書										
事前履修科目										
評価方法	レポート等									
関連する資格										
注意事項										

1	科 目		担当者(〇主担当)								
インタープリ	リテーション実	習②	〇素	<b></b> 灰原裕作							
授業方法	実習	開講	時期	後	期	時間数	15	レベル	基礎Ⅱ		
カテゴリ	□ 共通(vl □ 木造建		林業 木工	□ 森林環 □ 自然·≉		木育 ■ 情報・ビジ	ジネス・=	ミュニケ-	ーション		
目的	様々な現場 ン・プログ や知識の伝	ラムの実	践をす	ることで、	インター						
概 要	見えないも 法としてア 理念を、一	メリカの	国立公	園で発展し	た「イン	ノタープリラ	テーショ	ョン」の打	支術や		
項目	解説と 解説と の の の の の の の の の の の の の	一イ話や癖ードイ話やかけっている	ー ープリイ ープイ ープイ リーショ	ン (おさら ーションの ト 団) を扱う	)違い 時のポイ	゚ント					
テキスト 参考書	ング」(ナ			入門」(小。その他授				۱۰ ۱			
事前履修科目	インタープ										
評価方法	出席・授業	態度・習	熟度な	どをもとに	総合的に	評価しまる	<u> </u>				
関連する資格											
注意事項	実践のため 現場によっ また宿泊と	ては、授	<b>美</b> 日程		場合もあ	5ります。		てくだる	さい。		

7	科目		担当者(〇主担当)								
コミュニティビシ	ジネス起業論(基	·礎編)	O ħ	彡本和也 嵯峨創平	ī						
授業方法	講義	開講	時期	後期	<del>月</del>	時間数	30	レベル	基礎Ⅱ		
カテゴリ	□ 共通(必須 □ 木造建築		林業 木工	□ 森林環: □ 自然·科			ジネス・コ	ミュニケー	ーション		
目的	コミュニティ 析、事業企画 式で理解し、	<b>ॉ作成、</b>	プレゼ	ンテーショ	ンの基準	体的ツール					
概要	クリエーター は、自らの事 ら、採算性の 画作成を通じ	幕目標 取れる	や地域 ビジネ	課題解決の ス手法で展	提案を、 開するこ	周囲の人 ことが必要	間へ正し となる。	く伝えた	なが		
項目	1.23.45.67.8. コ地情中事事プ最   1.23.45.67.8.   1.23.45.8.   1.23.45.	i調査の fの 「	方法 ( ュ方(5P 形まンの	実習) ィ課題の分 モデル) 選択 技法		<b>H</b> J					
テキスト 参考書	随時プリント	"但仇。	<b>彻</b> 四授	【未じ推馬凶	<del>古</del> を掟? 	下9句。 					
事前履修科目											
評価方法	出席、発表な	ځ:									
関連する資格											
注意事項											

1	料 目	担当者(〇主担当)									
山里を伝え	える(聞き書き実践)	0.1	<b>京島幹典</b>								
授業方法	講義·実習開講	時期	後期		時間数	15	レベル	基礎Ⅱ			
カテゴリ	□ 共通(必須) □ □ 木造建築 □	林業 木工	□ 森林環境 □ 自然·科·			<b>ジネス・</b> =	ミュニケ-	ーション			
目的	本格的に「聞き書き にお返しすることで たちに伝える。										
概 要	聞き書き活動の結果 いて、考え直しては 編。										
項目	1. 山里訪問 (再 2. 間き作品) (1 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3		<b>り</b> )								
テキスト 参考書	山里の聞き書き(山										
事前履修科目	山里を知る(聞き書		<u> </u>								
評価方法	出席、作品提出と発	表									
関連する資格											
注意事項	ICレコーダー等録	<b>音機器</b>	景、デジタルカ	<b>リメラの</b>	持参推奨						

į	科目		担当者(〇主担当)							
[	国内研修		〇担	!当教員						
授業方法	実習	開講時	寺期	前期		時間数	30	レベル	基礎Ⅱ	
カテゴリ	□ 共通(必須 □ 木造建築			□ 森林環境 □ 自然·科·		• •	<b>ジネス・</b> =	ミュニケー	ーション	
目的	本科目は、ア として通常の 間の中で見学	)授業でに	は行く	ことのできな	い遠隔の	の県外地で				
概 要	全学科の学生 取り組みや先 びを深め、か テーマ、ある	進事例で つ視野で	をとも! を広げ <sub>・</sub>	に視察、確認 る。研修先や	記し、議 内容は、	論するこ。 、アカデ	とで自身 ミーの名	トの専門的 ト分野領 <sup>は</sup>	内な学	
	各研修の詳し 必要に応じて 2泊3日程度	、研修	前の事	前学習の時間		される。				
項目	樹芸研究所 ・福島県奥会 ・岡山県西粟 ・京都府南丹	平島 函 (2015年) 注津地方 全倉村 森 計市美山町	南原生 度) (2014: 家の学校 町 京都	年度) 年度() 年度() 東京 中度() 東京 中度() 東京 中央	山市ノオ 究林、北	- -ト(2013 :山集落~	3年度) ·比叡山	(2012年	度)	
テキスト 参考書										
事前履修科目										
評価方法	担当教員によ	:る								
関連する資格										
注意事項										

7	科 目				担当者	f(O主担	当)		
コミュニティビシ	ジネス起業論	(実践編)	O #	和田賢治 嵯峨創平	/	杉本和也	1		
授業方法	講義	開講	時期	通年		時間数	30	レベル	発展I
カテゴリ	口 共通(火口 木造建		林業 木工	□ 森林環境 □ 自然·科			<b>ジネス・</b> =	ュミュニケ-	ーション
目的	的とする。	また起業	きを目指	スプランへ落 すもの同士の ]けての心構え	Dネット	ワーク形	成、幅点	い情報派	原への
概 要		生、また		論(基礎編) 具体的なビシ					
項目	6月27日 8月29日 11月21日 12月19日 (*また、	イ ビ 事中金 最下基コ ネ起 計 チ 機 発	コたく くき ゴーニ 閉(こうを) がっぱい がっぱい かっぱい かいりょう いとり ラコー	ィョン )ビジネスアィ	き )要点 スパンクロ	momo代表:			
テキスト 参考書	随時配布								
事前履修科目	コミュニテ	ィビジネ	くス起業	論(基礎編)					
評価方法	出席 提出	出物 最終	発表						
関連する資格									
注意事項									

7	科 目		担当者(〇主担当)								
コミュニティ	√デザイン総合演習	3	〇 嵯峨創草	<u>.</u>							
授業方法	実習	開講時期	胡	通年	時間数	60	レベル	発展I			
カテゴリ	□ 共通(必須 □ 木造建築	) 口林: 口木:		林環境教育 然•科学	・木育 ■ 情報・ビシ	<b>ジネス・</b> =	ミュニケー	ーション			
目的	実際の地域を対		ミュニティ	デザインの	)考え方、進む	め方をフ	<b>'</b> クション	ンラー			
概要	基礎科目(1年 ロジェクト型9 修者と相談して フィールド候初	€習を行 ご決める	う。扱うテ	ーマやプロ	ジェクトの	目的は、	初回授美	業で履			
項目	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・デザイ ディング 間査 ップ企画	ン								
テキスト 参考書	山崎亮「まち <i>0</i>	ノギ価語	~_!\l_ 	· ァィナサイ 	ノかり有え <sup>、</sup> 	ວ] ເຊກ	<u>,                                     </u>				
事前履修科目	指定せず(2年	次履修だ	(望ましい)								
評価方法	出席、プロジュ	クト運	営の積極性	▪責献度							
関連する資格											
注意事項											

1	科 目				担当者	新(O主担:	当)		
インち	ユーンシップ I		O	旦当教員					
授業方法	実習	開講	時期	通年		時間数	30	レベル	発展I
カテゴリ	□ 共通(必 □ 木造建翁		林業 木工	□ 森林環境 □ 自然·科·			ジネス・=	ミュニケ-	ーション
目的	研究の内容を	を深める	、ある	考となる企業 いは将来の進 種を探る契機	路につ	いて方向化			
概 要	である場合に	ま、再度 -任する	調整し ため、	ンシップ先に て変更する場 希望者が受け	合もあ	りうる。そ	<b>讲修内</b> 容	まについて	ては受
項目	2. インター 3. 承 受欠 イ ンター 5. イ ンター 6. 7. 作業日	・ ン 、	が プ 書学 プ サ ま 大 て で 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	一科長、アングラス (できる) 、 日 ま の の との	あればこの作成(これ)	2ヶ月前。 2ヶ月前。 ィールの。 学生) 事務局へ)	<b>送付(</b> 学		
テキスト 参考書									
事前履修科目									
評価方法	作業日報、作	作業報告	·書						
関連する資格									
注意事項	時に考慮され	1ること	もある	間と重なり、 。インターン 頭にインター	<b>/シップ</b> (	保険に加え	入するこ	と。時間	引認定

<b></b>	斗 目			担当者	首(〇主担:	当)		
インタ	⁄ーンシップ Ⅱ		)担当教員					
授業方法	実習	開講時期	通红	F	時間数	30	レベル	発展Ⅱ
カテゴリ	□ 共通(必須 □ 木造建築	<ul><li>□ 林業</li><li>□ 木工</li></ul>				<b>ジネス・</b> ⊐	ミュニケー	ーション
目的	研究の内容を	深める、あ	二参考となる企 うるいは将来の 二職種を探る契	進路につ	いて方向			
概 要	である場合は	、再度調整 任するため	マーンシップ先 をして変更する の、希望者が受	場合もあ	りうる。	研修内容	について	には受
項目	2. インター 3. 承認 4. 受け入れが 欠 インター 5. インター 6. 作業日報	ンシップ 放提 ン 文 で で で で で で で で の の の の の の の の の の の の の	- ター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	であれば 生プロフ の作成 (* を提出 (* ップの成:	2ヶ月前: ィールの; 学生) 事務局へ)	送付(学		
テキスト 参考書								
事前履修科目	インターンシ	ップ I						
評価方法	作業日報、作	業報告書						
関連する資格								
注意事項	時に考慮され	ることもあ	美時間と重なり うる。インター ・念頭にインタ	ンシップ	保険に加ん	入するこ	と。時間	引認定